

令和4年度

教育要項

奈良県立医科大学

医学部 看護学科

目 次

奈良県立医科大学の理念、方針、ポリシー	2
令和4年度 年間教務日程	5
令和4年度 看護学科時間割(前期・後期)	7
1. 看護学科の概要	9
1) 設置の趣旨	
2) 基本的な考え方	
3) 学科の特色	
4) 教育目標	
5) 入学定員、修業年限及び学位	
6) 取得できる資格	
2. 看護学科の教育課程	10
1) 医学部看護学科授業科目履修要領	
(1) 令和4年度以降入学生の教育課程	
(2) 令和2年、3年度入学生の教育課程	
(3) 平成29年～31年度入学生の教育課程	
2) 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領	
3) 卒業に必要な単位数	
3. 1年次開講科目の授業内容	38
4. 2年次開講科目の授業内容	102
5. 3年次開講科目の授業内容	154
6. 4年次開講科目の授業内容	186
教員名簿（看護学科専任・教養教育部門専任・兼担・非常勤）	218

はじめに

大学では、高校までと違い、実にさまざまな授業科目が開講され、その中から何を選択して受講するかは、学生自らが決めることになっています。この「教育要項」は、そのためのガイドラインです。目次に示されているように看護学科の概要、教育課程、履修要領等が掲載されています。特に授業内容の詳細は、担当教員があらかじめ学生に示す教育プラン（目的・目標・内容・授業方法等）で、皆さんにとっては、学習計画や履修科目を選択するうえで、最も基本的な資料となります。科目の目的や内容をしっかり理解するとともに、各科目がどのように関連しているかも考慮したうえで、自らの学習プランを立ててください。

大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するとしています。時間割は、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として講義及び演習は15～30時間で組まれています。残りの時間については、学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間で、一つの授業科目の内容を確実に理解するには、その時間が極めて重要です。

この冊子を見れば、どの時期にどんな内容について学習するかが分かりますので、積極的に活用してください。

理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

教育の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

方針

1. 良き医療人育成プログラムの実践
2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
4. 学習環境と教育環境の充実

奈良県立医科大学医学部看護学科のアドミッションポリシー、
カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学は、医療の分野において看護学の立場から社会に貢献できる人材を育成するため、次のような資質を持った人を求めています。

<医学部看護学科が求める学生像>

1 自らを律し、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人

看護は人々の健康にかかわる日々の生活を支える営みであり、対象となる人の考えや気持ちを理解し、信頼関係を築くことが大切です。そのために、人との交流を大切に、多様な価値観を受け入れ、他者と信頼関係を築ける豊かな人間性と高い倫理観を持つことを求めます。

2 幅広い知識と確かな基礎学力を有し、看護学への興味と科学的探究心をもって学習に取り組める人

看護の専門的知識を学ぶためには、その前提となる基礎学力を身につけておく必要があります。そのうえで、看護の対象となる人を多面的に理解して、科学的根拠のある看護を探求し、努力を惜しまず学習する姿勢を求めます。

3 国際的な視野で考え行動できるとともに、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意と行動力のある人

人々の健康を取り巻く社会は目まぐるしく変化します。地域のみならず国際社会に関心を持ち、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意をもって行動できる人を求めます。

4 奈良県立医科大学を愛し、その将来を担う志をもつ人

卒業生には、看護学とその関連領域においてマネジメント能力を発揮し活躍することが期待されます。本学の理念および教育目標を十分に理解し、奈良県内の医療機関において看護職者として貢献する明確な目標を持っている人を求めます。

<入学者選抜の基本方針>

【一般選抜（前期日程）】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階において目指す基礎学力の達成度を測ります。また、個別学力検査では、小論文試験により、図表の解釈を含めた理解力、思考力、表現力及び論理的思考力等の看護学を学ぶために必要な能力を備えているかを評価し、面接試験により、学ぶ意欲や看護への関心を確認します。

【学校推薦型選抜】

卒後、奈良県内で活躍し、地域医療に貢献しようとする積極的な意志を持つ学生を対象とします。調査書、推薦書及び志望理由書によって、高等学校教育段階において目指す基礎学力の達成度と学習への意欲をみます。また、個別学力検査では、小論文試験により、理解力、思考力、表現力及び論理的思考力等の看護学を学ぶために必要な能力を備えているかを評価し、面接試験により、学ぶ意欲や看護への関心を確認します。

カリキュラムポリシー

医学部看護学科であることを最大限に生かし、医学教育と連携して、専門性の高い知識、技術、態度を身につけた学生を育成することを目標として、看護教育カリキュラムを構成する。

- 1 基礎分野における「人間・社会の理解」において人間の尊厳と生命の尊重を理解し、高い倫理観を養う教養科目を配置する。
- 2 専門基礎分野における「生活・環境の理解」と「健康の理解」において対象者の健康と疾病、障害、環境に関する専門知識および観察力を養う科目を配置する。
- 3 専門分野における「看護学の基本」と「看護学の展開」において対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護が展開できる実践能力を養う科目を配置する。
- 4 専門分野における「看護学の発展と探究」において看護に関する研究能力を養う科目を配置する。
- 5 基礎分野における「国際理解」と専門分野における「看護学の発展と探究」において国際社会と地域社会で活躍できる能力を養う科目を配置する。
- 6 専門基礎分野における「生活・環境の理解」、専門分野における「公衆衛生看護学」において地域の保健医療活動が展開できる実践能力を養う科目を配置する。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

- 1 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観に基づいた全人的ケアを提供できる基礎能力を身につけている。
- 2 目的意識を持って、対象者に応じた科学的根拠のある技術の適用と必要性を判断できる基礎能力を身につけている。
- 3 対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護を展開する基礎的な実践技術を身につけている。
- 4 保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を身につけている。
- 5 国際社会および地域社会で活躍できる資質を身につけている。
- 6 看護職者としてのアイデンティティを確立し、人間的に成長し続ける姿勢を身につけている。

令和4年度 年間教務日程

	日 程	学 事	備 考
令和4年	4月1日(金)	在学生ガイダンス	
	4月4日(月)	入学式	
	4月5日(火)	新入生ガイダンス	
	4月6日(水)	前期授業開始	
	7月25日(月)～7月29日(金)	前期試験	
	8月1日(月)～9月15日(木)	夏期休暇 ^[注1]	
	8月4日(月)～8月8日(月)	追・再試験	
	8月22日(月)		大学院入学試験(1次募集) ^[注2]
	9月5日(月)～9月9日(金)	医学看護学合同教育科目集中講義 (次世代医療人育成論)	
	9月15日(木)	解剖慰霊祭	
	9月16日(金)	後期授業開始	
	10月10日(月)	祝日開講日(スポーツの日)	
	10月14日(金)～10月16日(日)	大学祭	
	11月20日(日)		看護学科推薦入試(学校推薦型選抜) ^[注2]
	12月1日(木)		大学院入学試験(2次募集) ^[注2]
12月26日(月)～1月3日(火)	冬期休暇		
令和5年	1月14日(土)～1月15日(日)		大学入学共通テスト ^[注2]
	1月17日(火)～1月23日(月)	後期試験	
	1月30日(月)～2月3日(金)	医学看護学合同教育科目集中講義 (奈良学)	
	2月6日(月)～2月10日(金)	追・再試験	
	2月25日(土)～2月26日(日)		一般選抜(前期日程)試験 ^[注2]
	3月3日(金)	保健師課程選抜試験	
	3月12日(日)～3月13日(月)		一般選抜(後期日程)試験 ^[注2]
	3月15日(水)	卒業式(予定)	
	3月16日(木)～入学式前日	春期休暇	

[注1] 夏期休暇期間中に集中講義、追・再試験及び2～4年生の臨地実習を行う。
ただし、4年生の臨地実習については、保健師課程履修者を対象とする。

[注2] 入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止

令和4年度 看護学科 学事運営計画

令和4年

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 金	在学生ガイダンス	1 日		1 水		1 金		1 月	夏期休業開始	1 木		1 土		1 火		1 木	【大学院入試】	1 日	元旦	1 水		1 水	
2 土		2 月		2 木		2 火		2 火		2 金		2 日		2 水		2 金		2 月		2 木	奈良学	2 木	
3 日		3 火	憲法記念日	3 金		3 水		3 水		3 土		3 月		3 木	文化の日	3 土		3 火		3 金		3 金	保健師課程選抜試験
4 月	入学式	4 水	みどりの日	4 土		4 木	前期退再試験期間	4 木		4 日		4 火		4 金		4 日		4 水	授業再開	4 土		4 土	
5 火	新入生ガイダンス	5 木	こどもの日	5 日		5 火		5 金		5 月		5 水		5 土		5 月		5 木		5 日		5 日	
6 水	前期授業開始	6 金		6 日		6 水		6 土		6 火	次世代医療人育成論	6 木		6 日		6 火		6 金		6 日		6 日	
7 木		7 土		7 日		7 木		7 金		7 水		7 土		7 日		7 日		7 土		7 日		7 火	
8 金		8 日		8 木		8 金		8 土		8 木	前期退再試験期間	8 土		8 金		8 土		8 日		8 日		8 水	後期退再試験期間
9 土		9 月		9 月		9 土		9 土		9 金	次世代医療人育成論 基礎看護学実習Ⅰ終了	9 日		9 水	基礎看護学実習Ⅰ	9 金		9 月	成人の日	9 木		9 木	
10 日		10 火		10 金	基礎看護学実習Ⅱ	10 日		10 土		10 日	祝日閉講日 (スポーツの日)	10 月		10 木		10 土		10 火		10 金		10 金	立入禁止日 (*1)
11 月		11 水		11 土		11 月	山の日	11 日		11 日		11 火		11 金		11 日		11 水		11 土	建園記念日	11 土	
12 火		12 木		12 日		12 火		12 金		12 月		12 水		12 土		12 月		12 木		12 日		12 日	後期入試 (注◆)
13 水		13 金		13 土	基礎看護学実習Ⅱ	13 水		13 土		13 火		13 木		13 日		13 火		13 金	立入禁止日 (*2)	13 月		13 月	後期入試 (注◆)
14 木		14 土		14 日		14 木		14 日		14 水		14 金		14 土		14 水		14 土		14 日		14 火	
15 金		15 日		15 月		15 金		15 月		15 木	解閉閉講祭 後期授業開始 公衆衛生看護学実習 (集中実習) 終了	15 土		15 火		15 木		15 日		15 日		15 水	卒業式 (予定)
16 土		16 月		16 水		16 土		16 火		16 金		16 日	大挙祭	16 水		16 金		16 月		16 月		16 木	春期休業開始
17 日		17 火		17 金		17 日		17 水		17 土		17 木		17 金		17 土		17 火		17 火		17 金	3年生各看護学実習終了
18 月		18 水		18 土		18 日	海の日	18 土		18 日		18 火		18 金	立入禁止日 (*1)	18 日		18 水		18 土		18 土	
19 火		19 木		19 日		19 金		19 土		19 月		19 水		19 土		19 月		19 木		19 日		19 日	
20 水		20 金		20 月		20 土		20 日	立入禁止日 (*1)	20 火		20 木		20 日		20 火		20 金		20 日		20 月	
21 木		21 土		21 日		21 月		21 水		21 土		21 木		21 金		21 日		21 土		21 日		21 火	春分の日
22 金		22 日		22 月		22 火		22 水		22 土		22 木		22 日		22 土		22 日		22 日		22 水	
23 土		23 月		23 火		23 水		23 木		23 金		23 金		23 土		23 日		23 月		23 日		23 水	
24 日		24 火		24 水		24 木		24 金		24 土		24 月		24 火		24 木		24 火		24 金	立入禁止日 (*1)	24 金	
25 月		25 水		25 木		25 金		25 土		25 日		25 火		25 水		25 金		25 水		25 土		25 土	
26 火		26 木		26 日		26 月		26 火		26 水		26 木		26 金		26 土		26 月		26 日		26 日	
27 水		27 金		27 月		27 火		27 水		27 木		27 金		27 土		27 日		27 火		27 日		27 日	
28 木		28 土		28 日		28 月		28 火		28 水		28 木		28 金		28 土		28 水		28 土		28 火	
29 金	昭和の日	29 日		29 月		29 火		29 水	3年生各看護学実習開始 基礎看護学実習Ⅰ開始 公衆衛生看護学実習 (集中実習) 開始	29 木		29 金		29 土		29 日		29 日		29 日		29 水	
30 土		30 月	統合実習開始	30 火		30 水		30 木		30 金		30 日		30 月		30 火		30 月		30 日		30 木	
31 日		31 火		31 水		31 木		31 金		31 土		31 日		31 月		31 日		31 火		31 日		31 日	
月		3	5	4	2	4	14	1		1	5	4	3	1	4	3	3	1				14	
火		3	4	4	3	3	14	2		2	4	4	5	1	5	3	3	1				15	
水		4	3	5	3	3	15	2		2	4	4	4	4	4	3	3	2				計	15
木		4	3	5	3	3	15	2		2	4	4	4	4	4	3	3	2				計	15
金		3	4	4	4	4	15	2		2	3	3	4	4	4	4	4	2				計	15

■休業日
【】は大学院

注 立入禁止日について
(*1)・・・試験準備のため、学内への立入禁止
(*2)・・・試験準備のため、臨地実習の履修者以外は学内への立入禁止

注◆・・・3/12.13の後期入試は、医学科のみ

令和4年度看護学科時間割

【前期】

学年	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1 年生	人間発達論	健康運動学 A	健康運動学 B	生物学		人体機能学		病理医学 I			看護学概論	人体構造学	臨床英語 I	看護援助の基本		教育実践論 A	医療に關わる倫理学 I B	医療に關わる倫理学 I A	教育実践論 B		アジア文化論	化学	臨床英語 I	哲学 興文化論 国際情勢論	
	①次世代医療人育成論を、9月5日(月)～9月9日(金)で開講 ②情報科学は別途通知																								
2 年生	公衆衛生看護学活動論 I	精神看護学概論	公衆衛生看護学活動論 I	家族看護学		英語表現法 I A	健康被害と看護		微生物学		小児看護学概論	家族社会学	病理医学 III	家族社会学		英語表現法 I A	英語表現法 I B	成人看護学概論	母性看護学概論	病態医学 III	公衆衛生看護学概論	看護技術学 II	ヘルスアセスメント		
	①基礎看護学実習 II の実習は、6月10日(金)、13日(月)、8月29日(月)～9月8日(金)に実施 ②情報科学は別途通知																								
3 年生	小児看護学援助論 II	老年看護学援助論 II	家族看護学	ヘルスプロモーションと健康教育 I		成人看護学援助論 III (急性)	成人看護学援助論 IV (慢性)		ヘルスプロモーションと健康教育 II		成人看護学援助論 III (慢性)	成人看護学援助論 IV (慢性)		成人看護学援助論 III (慢性)	成人看護学援助論 IV (慢性)		医療安全	母性看護学援助論 I	精神看護学援助論 II	保健統計学 I	保健統計学 II	在宅看護学援助論	公衆衛生概論		
	※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に開講																								
4 年生	公衆衛生看護管理論	産業保健活動論	学校保健活動論	看護管理論		看護研究特講	看護研究特講	看護研究特講	公衆衛生看護学 活動展開講義		公衆衛生看護学 活動展開講義	公衆衛生看護学 活動展開講義		公衆衛生看護学 活動展開講義	公衆衛生看護学 活動展開講義		看護研究	看護研究	疫学			公衆衛生看護学 健康指導論 I 学	公衆衛生看護学 健康指導論 II 学		
	①新合実習:5月30日(月)～6月24日(金) ②保健師課程履修者:実習 II (市町村)は、5月～8月に地区調査・現地 OR・家庭訪問を実施。実習 I (保健所) 4大学合同 OR は7月19日(火)の終日参加。(産業)は8月～10月のうち2日間実習予定、(学校)は9月～10月のうち各自調整した日程で2日間実習予定。																								

※ 非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合があります。

※ 不合格となった科目については、次年度以降の時間割の編成上、修業年限内に再履修できない場合があります。

→前半または後半に開講される科目		
→複数クラスに分かれて開講される科目		
→選択科目		
→対象学生のみ必修科目		

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

【後期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1年生	臨床心理学	健康運動学A 健康運動学B	健康運動学A 健康運動学B			病理医学I	病理医学II	日本国憲法	看護過程論	臨床英語II	看護技術学I	医療社会学A 医療社会学B	病理医学II	フィジカルアセスメント	医療に関する倫理学II	栄養学	臨床英語II	西洋文化論							
①基礎看護学実習Iの実習は、10月24日(月)、25日(火)、11月7日(月)、9日(水)に実施 ②栄養学を1月30日(月)～2月3日(金)で開講																									
2年生	在宅看護学概論	公衆衛生看護学活動論II	家族看護学			英語表現法IIA 英語表現法IIB	公衆衛生看護学活動論III			精神看護学援助論I	成人看護学援助論I(急性性)	成人看護学援助論II(慢性性)	小児看護学援助論I	母性看護学援助論I		カウンセリング論	老年看護学援助論I	看護倫理学							
3年生	臨床実習(グループ別に実施)					臨床実習(グループ別に実施)					臨床実習(グループ別に実施)					臨床実習(グループ別に実施)									
4年生											看護研究														

①保健師課程履修者:実習I(保健所)は9月20日(火)～9月30日(金)のうち2日間、(僻地)は10月中旬に2日間で実習予定。
 ※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に関講

※非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※不合格となった科目については、次年度以降の時間の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

←前半または後半に開講される科目

←複数クラスに分かれて開講される科目

←選択科目

--

←対象学生のみ必修科目

--

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

1 看護学科の概要

1) 設置の趣旨

近年、医療の高度化・専門化、急速な人口の高齢化をはじめ、看護をめぐる状況の急速な変化により、質の高い看護の提供が求められるとともに、介護保険サービス、子育て支援など、保健・福祉の分野においても、これまで以上に看護の対するニーズが高まっている。そのため、高度な専門知識・実践能力、豊かな人間性を備え、幅広い視野で問題に対応できる人材の育成が求められる。

本県においては、平成8年度から地域医療の中核機関である奈良県立医科大学に看護短期大学部を併設し、看護師及び助産師の養成を進めてきた。今後も引き続きその責務を果たし、さらに発展させていくには、豊かな人間性を育てる教育の強化を図るとともに、効率的なカリキュラムのもとで、看護学及び助産学の教育に保健学の分野も加えて教育し、専門教育をさらに充実させる必要がある。併せて、地域医療・福祉の向上に寄与するため、看護学の研究体制の充実強化も図る必要がある。

このような状況をふまえ、平成16年4月、奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科（3年制課程）及び専攻科助産学専攻（1年課程）を統合発展させる形で、奈良県立医科大学医学部看護学科を設置した。

2) 基本的な考え方

看護職の業務は、人間関係の信頼と人間愛にもとづき、人道主義の概念が基盤にあってなし得るもので、看護を受ける個人や家族、地域集団の健康に関する諸問題に対し、支援する職務でもある。看護職にある者は、自己の業務範囲である機能と役割を真摯に受けとめ、看護の知識と、熟練した技術を追求し、看護を実践する能力を持ち合わせる必要がある。

そのため、絶え間なく変化する社会のニーズに対応することが出来るように、常に幅広い知識と国際感覚を身につけ、保健・医療・福祉の各領域との連携を密に、地域社会に貢献し得る人材を育成する。

3) 学科の特色

本学は、奈良県中央の大和三山に囲まれた緑豊かな場所に位置し、利便性においても交通網に恵まれたのどかな地にあり、奈良県民の健康管理面の中核機関として地域社会に貢献してきた。また、古くは、飛鳥時代の聖徳太子や奈良時代の光明皇后が病める人々に慈愛の看護を施されたといわれるなど、当地は看護の発祥の地とも言える。この歴史ある地に、この度設置された医学部看護学科は、高度医療に対応した看護実践能力の継承発展と、豊かな心の涵養を軸とした人間形成の開智に向け、大学全体が関わり、幅広く深い教養と総合的判断力を持った看護の専門職者として、積極的に社会に貢献しうる能力を持つ人材を育成する。

- (1) 卒業生全員が看護師の国家試験受験資格を取得するとともに、希望者は科目の選択により、保健師の国家試験受験資格を取得することができる。
- (2) 県民の高学歴化や生涯教育に対するニーズの高まりに応えるため、社会人入学制度を設け、看護職者の質の維持及び向上を図る目的で、編入学、科目等履修生等の制度を

設定する。

- (3) 本学の教育研究機能の積極的活用を図り、県内における看護職者との教育・研究等の交流を通して、看護に関する生涯教育の拠点としての役割を担う。
- (4) 看護や保健の分野で公開講座を開催し、県民福祉の向上に寄与する。

4) 教育目標

- (1) 看護の対象である人間を全人的に理解し、生命の尊厳と権利を擁護する姿勢を持ち、倫理的判断に基づいた行動ができる能力を育成する。
- (2) 看護の目的および意義を理解し、対象者に応じた技術の適用と必要性の判断を自己決定できる実践能力を育成する。
- (3) 変化する社会のニーズやあらゆる人々に応じた看護の展開方法を修得し、さらに幅広い学問を探究することで、看護学固有の課題を追求し、改革する能力を育成する。
- (4) 大学生活や看護の実践を通して、自己を洞察し、看護職者としてのアイデンティティの形成、人間形成等、自己の成長に努める姿勢を育成する。
- (5) 医療および関連職種との協働の必要性を理解し、ヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を育成する。
- (6) 地域および国際社会における看護職の役割を理解し、地域保健医療および国際協力活動に貢献できる基礎的能力を育成する。

5) 入学定員、修業年限及び学位

	定員	修業年限	学位
入学定員	85人	4年	学士（看護学）

6) 取得できる資格

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（選択により取得可能）

2 看護学科の教育課程

本学の教育目標を達成するために、授業科目を、人間・社会の理解、国際理解、生活・環境の理解、健康の理解、看護学の基本、看護学の展開、看護学の発展と探究の7区分とし、教育課程を構成している。開設する科目、単位数、時間数及び履修年次については、15～20頁の看護学科教育課程のとおりである。

奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日。以下「学則」という。）第8条の規定により、奈良県立医科大学医学部看護学科の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目等)

第2条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表1、別表2及び別表3のとおりとする。

(科目の履修)

第3条 学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。

2 学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。

3 科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。

4 単位を修得した科目は、再び履修することはできない。

5 入学前に他の大学等において修得した単位の認定については「奈良県立医科大学入学前の既修得単位の認定に関する規程」による。

(履修科目の制限等)

第4条 看護学実習科目については、次の要件を満たさなければ、履修することができない

一 基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、「健康の理解」に含まれる人体構造学・人体機能学、「看護学の基本」に含まれる科目のうち、第1年次に開講される科目（看護学概論・看護援助の基本・看護技術学Ⅰ・フィジカルアセスメント・看護過程論・基礎看護学実習Ⅰ）をすべて修得済みあるいは修得見込みであること。また、原則として、第2年次に開講される科目（看護技術学Ⅱ・健康障害と看護・ヘルスアセスメント）を修得済みあるいは修得見込みであること。

二 第3年次後期から始まる各看護学実習科目を履修するためには、第3年次前期終了までに開講される必修科目のうち別表1、別表2又は別表3に示す科目をすべて修得していること。

ただし、別表1、別表2又は別表3の目的区分の「人間・社会の理解」「国際理解」「生活・環境の理解」「健康の理解」の必修科目において、5単位以内の未修得科目があっても、各看護学実習科目を履修できるものとする。また、教育課程の変更等でやむを得ない事由が生じた場合は別段の判断を行うことがある。

三 統合実習を履修するためには、第3年次後期までに開講されているすべての看護学実習科目を修得しなければならない。

ただし、未修得の看護学実習科目が1科目の場合は、別段の判断を行うことがある。

2 第4年次で開講する保健師課程に関する科目を選択できる学生は20人以内とし、履修方法及び選考方法等については、別に定める。ただし、公衆衛生看護学実習を履修するためには、第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師課程科目（公衆衛生看護学実習を除く。）をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

3 その他の科目についても、履修学生数等を定めることがある。

(単位の計算方法)

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

一 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

二 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、15時間をもって1単位とすることができる。

三 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(卒業の要件)

第6条 看護学科を卒業するためには、4年（転入学生、再入学生については別に定める期間）以上在学し、必修科目と選択科目を併せて令和3年度以前入学生にあつては128単位以上、令和4年度以降入学生にあつては131単位以上を修得しなければならない。

(単位認定試験等の受験資格)

第7条 学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定試験等を受験することはできない。

- 一 履修する科目の出席時間が、当該科目の授業時間数の3分の2(実習科目にあつては5分の4)以上の者
- 二 出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認められた者

(成績の評価)

第8条 成績の評価は、試験(定期試験、随時試験)の結果及び授業への取り組み状況等によって判定する。試験は、筆記、口述、レポート、実技等より行われる。成績の表示は100点を満点とし、次の基準により行う。

ただし、看護学実習科目の単位の認定については、別に実習要綱で定める。

100～80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

- 2 追試験は、定期試験の受験資格を有する者が、疾病その他のやむを得ない理由により定期試験を受けることができなかつた場合に、願出により行う。
なお、追試験による評価及び成績の表示は、前項により行う。
- 3 前項の規定は、当該定期試験が開始されるまでに教育支援課に連絡した場合に適用する。
なお、適用を受け追試験を受けようとする者は、所定の追試験受験申請書に医師の診断書その他理由を証する書類を添えて、診断書による療養期間終了後すみやかに学長に提出しなければならない。
- 4 再試験は、定期試験が不合格となつた者に対して、担当教員が認めた場合に限り、願出により行うことがある。
ただし、再試験による成績の評価は、第1項により行うが、成績の表示は、次の基準により行う。

60点	60点未満
可	不可

- 5 前項の規定により再試験を受けようとする者は、所定の再試験受験申請書を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第9条 科目の単位認定は、成績の評価により、優、良及び可を「合格」、不可を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。

- 2 単位の認定は、授業科目の担当教員から提出された成績資料に基づき、成績判定会議で審議を行う。
- 3 成績判定会議は、看護学科教授をもって組織する。
- 4 単位の認定は、看護学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学科教授会議で報告するものとする。

(試験における不正行為)

第10条 試験において不正行為があつたときは、当該科目の試験を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(雑則)

第11条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要領は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 3 項の規定は、平成 26 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

附 則

この要領は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 2 項の規定は、平成 27 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

附 則

この要領は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この要領は、令和 4 年 1 月 18 日から施行する。

2 第 8 条第 2 項に規定する追試験の成績表示は、令和 4 年 1 月 1 日から適用する。

附 則

この要領は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

別表1 医学部看護学科の教育課程 (令和4年度以降入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学 年	1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後						
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2 *		30	1	■							39	必修 13単位 選択 1単位以上
		医療に関わる倫理学 I	★	2 *	30	1	■							41	
		臨床心理学	★	2 *	30	1	■							43	
		教育実践論	★	2 *	30	1	■							49	
		奈良学	★	1 *	30	1	■							53	
		次世代医療人育成論	★	1 *	30	1	■							54	
		カウンセリング論		1 *	30	2			■					103	
		情報科学	※	2 *	30	1	■	■						56	
		哲学	★		2	30	1	□						58	
		医療に関わる倫理学 II	★		2	30	1	□						60	
		日本国憲法	※		2	30	1	□						62	
		家族社会学			1	15	2		□					105	
		国際情勢論			2	30	1	□						64	
		異文化論	★		2	30	1	□						66	
基礎分野	国際理解	臨床英語 I	2 *		60	1	■						68	必修 8単位	
		臨床英語 II	2 *		60	1	■						70		
		英語表現法 I	1 *		30	2		■					106		
		英語表現法 II	1 *		30	2		■					108		
		アジア文化論	★	1 *	30	1	■						72		
		西洋文化論	★	1 *	30	1	■						74		
専門基礎分野	生活・環境の理解	微生物学	2 *		30	2		■					110	必修 8単位 選択 1単位以上 (生物学又は化学から選択)	
		社会福祉と医療法規	★	2 *	30	1	■						76		
		保健医療福祉行政論 I		2	30	4					■	■	187		
		公衆衛生概論		1 *	15	3				■			155		
		保健統計学 I		1 *	15	3				■			156		
		生物学			1	15	1	□					78		
		化学			1	15	1	□					79		
		疫学			2	30	4					□	188		
		保健医療福祉行政論 II			2	30	4					□	190		
		保健統計学 II	●		1	15	3				□		157		
専門基礎分野	健康の理解	健康科学	1 *		15	1	■	■					80	必修 23単位	
		健康運動学	1 *		45	1	■	■					81		
		人体構造学	2 *		30	1	■						82		
		人体機能学	2 *		30	1	■						84		
		生化学	2 *		30	1	■						86		
		栄養学	2 *		30	1	■						88		
		病態医学 I	2 *		30	1	■	■					90		
		病態医学 II	4 *		60	1	■						92		
		病態医学 III	4 *		60	2		■					114		
		基礎薬理学	1 *		15	2		■					-		
臨床薬理学	2 *		30	2		■					-				
専門分野	看護学の基本	看護学概論	1 *		15	1	■						94	必修 14単位	
		看護倫理学	1 *		15	2			■				116		
		看護援助の基本	1 *		15	1	■						95		
		看護技術学 I	1 *		30	1	■						96		
		看護技術学 II	1 *		30	2		■					117		
		フィジカルアセスメント	1 *		15	1	■						97		
		健康障害と看護	1 *		15	2		■					118		
		ヘルスアセスメント	1 *		15	2		■					119		
		看護過程論	2 *		30	1	■						98		
		医療安全	1 *		15	3				■			158		
		基礎看護学実習 I	1 *		45	1	■	■					100		
		基礎看護学実習 II	2 *		90	2		■	■				120		

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数		
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前			後	
専門分野	地域・在宅看護学	在宅看護学概論	2*		30	2				■				121	必修 63単位	
		在宅看護学援助論	2*		60	3				■				159		
		ヘルスプロモーションと健康教育	2*		30	3				■				161		
		在宅看護学実習	2		90	3					■			163		
	成人看護学	成人看護学概論	2*		30	2		■						123		
		成人看護学援助論Ⅰ（急性）	1*		30	2			■					125		
		成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	1*		30	2			■					127		
		成人看護学援助論Ⅲ（急性）	1*		30	3				■				164		
		成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	1*		30	3				■				166		
		成人看護学実習Ⅰ（急性）	3		135	3					■			168		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3		135	3					■			169		
		老年看護学の展開	老年看護学概論	2*		30	2		■							129
			老年看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■						131
	老年看護学援助論Ⅱ		1*		30	3				■				170		
	老年看護学実習		4		180	3					■			172		
	小児看護学	小児看護学概論	2*		30	2		■						133		
		小児看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■					135		
		小児看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■				173		
		小児看護学実習	2		90	3					■			175		
	母性看護学	母性看護学概論	2*		30	2		■						137		
		母性看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■					139		
		母性看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■				176		
		母性看護学実習	2		90	3					■			178		
	精神看護学	精神看護学概論	2*		30	2		■						141		
		精神看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■					143		
		精神看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■				179		
		精神看護学実習	2		90	3					■			181		
	看護学の発展と探求	応用看護学	緩和ケア論	1*		15	4						■	192		
			看護管理論	1		15	4						■	194		
			リハビリテーション看護	1*		15	4						■	195		
			家族看護学	2*		30	2			■				145		
		統合看護学	看護研究特論	1		30	4						■	196		
看護研究			2		60	4						■	197			
統合実習			2		90	4						■	198			
災害看護論			1		15	4						■	200			
チーム医療論			1		30	4						■	201			
国際看護論Ⅰ			1		15	4						■	203			
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学概論	2*		30	2		■					147			
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2*		30	2		■					149			
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2			□					151			
	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2			□					153			
	公衆衛生看護学活動展開論		4	60	4						□		204			
	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ		2	30	4						□		207			
	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ		2	30	4						□		209			
	産業保健活動論		1	15	4						□		211			
	学校保健活動論		1	15	4						□		212			
	公衆衛生看護管理論		2	30	4						□		213			
公衆衛生看護学実習Ⅰ	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2		90	4						□	□	215			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	3		135	4						□	□	216			
合計		129	39			開講時期を■または□で表示。（■は必修、□は選択）								131単位以上 必修 129単位 選択 2単位		

卒業に必要な単位数 131単位（認定単位を含む）

（注）

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（25単位）。なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計4単位）を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は156単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要がある選択科目を示す。

別表2 医学部看護学科の教育課程（令和2、3年度入学生）

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学 年	1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後						
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2*		30	1	■							39	必修 14単位 選択 1単位以上
		医療に関わる倫理学Ⅰ	★	2*	30	1	■							41	
		臨床心理学	★	2*	30	1	■							43	
		教育実践論	★	2*	30	1	■							49	
		奈良学	★	1*	30	1	■							53	
		次世代医療人育成論	★	1*	30	1	■							54	
		カウンセリング論		1*	30	2			■					103	
		社会福祉と医療法規	★	2*	30	1		■						76	
		保健医療福祉行政論Ⅰ		1*	15	3				■				187	
		保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3				□				190	
		哲学	★		2	30	1	□						58	
		医療に関わる倫理学Ⅱ	★		2	30	1	□						60	
		日本国憲法	※		2	30	1	□						62	
		家族社会学		1	15	2			□					105	
		国際情勢論		2	30	1	□							64	
異文化論	★		2	30	1	□						66			
基礎分野	国際理解	臨床英語Ⅰ	2*		60	1	■						68	必修 8単位	
		臨床英語Ⅱ	2*		60	1	■						70		
		英語表現法Ⅰ	1*		30	2		■					106		
		英語表現法Ⅱ	1*		30	2			■				108		
		アジア文化論	★	1*	30	1	■						72		
		西洋文化論	★	1*	30	1	■						74		
専門基礎分野	生活・環境の理解	微生物学	2*		30	2		■					110	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)	
		疫学		2	30	4					□		188		
		公衆衛生概論	1*		15	3				■			155		
		保健統計学Ⅰ	1*		15	3				■			156		
		保健統計学Ⅱ	●	1	15	3				□			157		
		生物学		1	15	1	□						78		
		化学		1	15	1	□						79		
		情報科学	※	2	30	1	□	□					112		
		健康科学	1*		15	1	■	■					80		
		健康運動学	1*		45	1	■	■					81		
人体構造学	2*		30	1	■						82				
人体機能学	2*		30	1	■						84				
生化学	2*		30	1		■					86				
栄養学	2*		30	1		■					88				
病態医学Ⅰ	2*		30	1	■	■					90				
病態医学Ⅱ	4*		60	1		■					92				
病態医学Ⅲ	4*		60	2			■				114				
基礎薬理学	1*		15	2			■				-				
臨床薬理学	2*		30	2				■			-				
専門分野	看護学の基本	看護学概論	1*		15	1	■						94	必修 13単位	
		看護倫理学	1*		15	2				■			116		
		看護援助の基本	1*		15	1	■						95		
		看護技術学Ⅰ	1*		30	1		■					96		
		看護技術学Ⅱ	1*		30	2			■				117		
		フィジカルアセスメント	1*		30	1		■					97		
		健康障害と看護	1*		15	2			■				118		
		ヘルスアセスメント	1*		15	2			■				119		
		看護過程論	2*		30	1		■					98		
		基礎看護学実習Ⅰ	1*		45	1	■	■					100		
		基礎看護学実習Ⅱ	2*		90	2			■	■			120		

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次				頁	卒業に必要な単位数					
		必修	選択		学年	1年	2年	3年			4年				
						前後	前後	前後			前後				
専門分野 看護学の展開	成熟看護学 成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2		■				123	必修 42 単位		
		成人看護学援助論 I (急性)	1 *		30	2			■			125			
		成人看護学援助論 II (慢性)	1 *		30	2				■		127			
		成人看護学援助論 III (急性)	1 *		30	3					■			164	
		成人看護学援助論 IV (慢性)	1 *		30	3					■			166	
		成人看護学実習 I (急性)	3		135	3						■		168	
		成人看護学実習 II (慢性)	3		135	3						■		169	
	老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2			■					129	
		老年看護学援助論 I	1 *		30	2				■				131	
		老年看護学援助論 II	1 *		30	3					■			170	
		老年看護学実習	4		180	3						■		172	
	育成看護学 小児看護学	小児看護学概論	2 *		30	2			■					133	
		小児看護学援助論 I	1 *		30	2				■				135	
		小児看護学援助論 II	1 *		30	3					■			173	
		小児看護学実習	2		90	3						■		175	
		母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2			■					137
			母性看護学援助論 I	1 *		30	2				■				139
			母性看護学援助論 II	1 *		30	3					■			176
	母性看護学実習		2		90	3						■		178	
	精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2			■					141	
		精神看護学援助論 I	1 *		30	2				■				143	
		精神看護学援助論 II	1 *		30	3					■			179	
		精神看護学実習	2		90	3						■		181	
	広域看護学 公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2			■					147	
		公衆衛生看護学活動論 I	2 *		30	2			■					149	
		公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2				□				151	
		公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2				□				153	
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4					□			204	
		公衆衛生看護学保健指導論 I		2	60	4					□			207	
		公衆衛生看護学保健指導論 II		1	30	4					□			209	
		産業保健活動論		1	15	4					□			211	
		学校保健活動論		1	15	4					□			212	
		公衆衛生看護管理論		2	30	4					□			213	
		公衆衛生看護学実習 I		2	90	4					□	□		215	
		公衆衛生看護学実習 II		3	135	4					□	□		216	
		看護学の発展と探究 応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	4							■	192
看護管理論	1			15	4						■	194			
リハビリテーション看護	1 *			15	4						■	195			
家族看護学	2 *			30	2				■			145			
統合看護学	在宅看護学概論		2 *		30	2				■			121		
	在宅看護学援助論		2 *		60	3					■		159		
	在宅看護学実習		2		90	3						■	163		
	看護研究特論		1		30	4						■	196		
	看護研究		2		60	4						■	197		
	ヘルスプロモーションと健康教育		2 *		30	3				■			161		
	統合実習		2		90	4						■	198		
	災害看護論		1		15	4						■	200		
	チーム医療論		1		30	4						■	201		
	医療安全		1 *		15	3					■		158		
国際看護論 I	1		15	4						■	203				
国際看護論 II		1	30	4						□	□	-			
合計		126	38			開講時期を■または□で表示。(■は必修、□は選択)					128 単位以上 必修 126 単位 選択 2 単位				

卒業に必要な単位数 128 単位 (認定単位を含む)

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す (22 単位)。
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ (授業科目の名称欄の●印、計6 単位) を修得しておかなければならない。
したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150 単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要がある選択科目を示す。

別表3 医学部看護学科の教育課程（平成29年～31年度入学生）

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数		
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前			後	
基礎分野	人間発達論	2 *		30	1	■								39	必修 14単位 選択 1単位以上	
	医療に関わる倫理学Ⅰ	★ 2 *		30	1	■								41		
	臨床心理学	★ 2 *		30	1	■	■							43		
	教育実践論	★ 2 *		30	1	■								49		
	奈良学	★ 1 *		30	1	■	■							53		
	次世代医療人育成論	★ 1 *		30	1	■								54		
	カウンセリング論	1 *		30	2			■						103		
	社会福祉と医療法規	★ 2 *		30	1	■								76		
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1 *		15	3				■					187		
	保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3				□					190		
	哲学	★	2	30	1	□								58		
	医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1	□								60		
	日本国憲法	※	2	30	1	□								62		
	家族社会学		1	15	3			□						105		
	国際情勢論		2	30	1	□								64		
異文化論	★	2	30	1	□								66			
国際理解	臨床英語Ⅰ	2 *		60	1	■								68	必修 8単位	
	臨床英語Ⅱ	2 *		60	1	■	■							70		
	英語表現法Ⅰ	1 *		30	2		■							106		
	英語表現法Ⅱ	1 *		30	2			■						108		
	アジア文化論	★ 1 *		30	1	■								72		
	西洋文化論	★ 1 *		30	1	■								74		
専門基礎分野	微生物学	2 *		30	2		■							110	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)	
	疫学		2	30	4					□				188		
	公衆衛生概論	1 *		15	3				■					155		
	保健統計学Ⅰ	1 *		15	3				■					156		
	保健統計学Ⅱ	●	1	15	3				□					157		
	生物学		1	15	1	□								78		
	化学		1	15	1	□								79		
	情報科学	※	2	30	1	□	□							56		
健康の理解	健康科学	1 *		15	1	■	■							80	必修 23単位	
	健康運動学	1 *		45	1	■	■							81		
	人体構造学	2 *		30	1	■								82		
	人体機能学	2 *		30	1	■								84		
	生化学	2 *		30	1		■							86		
	栄養学	2 *		30	1		■							88		
	病態医学Ⅰ	2 *		30	1	■	■							90		
	病態医学Ⅱ	4 *		60	1		■							92		
	病態医学Ⅲ	4 *		60	2			■						114		
	基礎薬理学	1 *		15	2			■						-		
臨床薬理学	2 *		30	2				■					-			
専門分野	看護学の基本	基礎看護学	看護学概論	1 *		15	1	■							94	必修 13単位
			看護倫理学	1 *		15	2			■					116	
			看護援助の基本	1 *		15	1	■							95	
			看護技術学Ⅰ	1 *		30	1		■						96	
			看護技術学Ⅱ	1 *		30	2			■					117	
			フィジカルアセスメント	1 *		30	1		■						97	
			健康障害と看護	1 *		15	2			■					118	
			ヘルスアセスメント	1 *		15	2			■					119	
			看護過程論	2 *		30	1		■						98	
			基礎看護学実習Ⅰ	1 *		45	1	■	■						100	
			基礎看護学実習Ⅱ	2 *		90	2			■	■				110	

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次										頁	卒業に必要な単位数		
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年						
						前	後	前	後	前	後	前	後					
専門分野	成熟看護学	成人看護学概論	2	*	30	2		■								123	必修 42 単位	
		成人看護学援助論Ⅰ(急性)	1	*	30	2			■							125		
		成人看護学援助論Ⅱ(慢性)	1	*	30	2			■							127		
		成人看護学援助論Ⅲ(急性)	1	*	30	3				■						164		
		成人看護学援助論Ⅳ(慢性)	1	*	30	3				■						166		
		成人看護学実習Ⅰ(急性)	3		135	3						■				168		
		成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3		135	3						■				169		
	老年看護学	老年看護学概論	2	*	30	2		■								129		
		老年看護学援助論Ⅰ	1	*	30	2			■							131		
		老年看護学援助論Ⅱ	1	*	30	3				■						170		
		老年看護学実習	4		180	3						■				172		
	育成看護学	小児看護学概論	2	*	30	2		■								133		
		小児看護学援助論Ⅰ	1	*	30	2			■							135		
		小児看護学援助論Ⅱ	1	*	30	3				■						173		
		小児看護学実習	2		90	3						■				175		
	看護学の展開	母性看護学概論	2	*	30	2		■								137		
		母性看護学援助論Ⅰ	1	*	30	2			■							139		
		母性看護学援助論Ⅱ	1	*	30	3				■						176		
		母性看護学実習	2		90	3						■				178		
	精神看護学	精神看護学概論	2	*	30	2		■								141		
		精神看護学援助論Ⅰ	1	*	30	2			■							143		
		精神看護学援助論Ⅱ	1	*	30	3				■						179		
		精神看護学実習	2		90	3						■				181		
	広域看護学	公衆衛生看護学概論	2	*	30	2		■								147		
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2	*	30	2		■								149		
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2			□							151		
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2			□							153		
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4							□			204		
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ			2	60	4							□			207			
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ			1	30	4							□			209			
産業保健活動論			1	15	4							□			211			
学校保健活動論			1	15	4							□			212			
公衆衛生看護管理論			2	30	4							□			213			
公衆衛生看護学実習Ⅰ			2	90	4							□	□		215			
公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	135	4							□	□		216				
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1	*	15	4								■	192	必修 22 単位		
		看護管理論	1		15	4							■		194			
		リハビリテーション看護	1	*	15	4							■		195			
		家族看護学	2	*	30	2			■						145			
	統合看護学	在宅看護学概論	2	*	30	2			■									121
		在宅看護学援助論	2	*	60	3				■								159
		在宅看護学実習	2		90	3						■						163
		看護研究特論	1		30	4							■				196	
		看護研究	2		60	4							■				197	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2	*	30	3				■							161	
		統合実習	2		90	4							■				198	
		災害看護論	1		15	4								■			200	
		チーム医療論	1		30	4								■			201	
		医療安全	1	*	15	3				■							158	
		国際看護論Ⅰ	1		15	4								■			203	
国際看護論Ⅱ		1	30	4							□	□		-				
合計		126	38			開講時期を■または□で表示。(■は必修、□は選択)										128単位以上 必修 126単位 選択 2単位		

卒業に必要な単位数 128 単位 (認定単位を含む)

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す(22単位)。
 なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ(授業科目の名称欄の●印、計6単位)を修得しておかなければならない。
 したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要がある選択科目を示す。

保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領

保健師課程アドミッションポリシー

1. 保健師として働きたいという気持ちを強く持っている人
2. 奈良県の保健活動に貢献する意思を有し、へき地の保健活動に強い関心を持っている人
3. 保健師として求められる対人関係能力とコミュニケーション能力を有する人
4. 単独実習及びへき地実習が可能な自律性を持っている人

奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領 第4条第2項の選考方法等に関する要領（抜粋）

（趣旨）

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領（平成16年4月1日施行）第4条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち公衆衛生看護学に係る選択科目（以下「保健師科目」という。）の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

（保健師科目の定義）

第2条 保健師科目の名称及び単位数、時間数は別表1-1及び別表1-2のとおりとする。

（履修の制限等）

第3条 第2条に定める保健師科目のうち、第4年次に開講する科目を履修しようとする者は、第3年次後期までに開講される卒業に必要な必修科目、選択科目の単位をすべて修得していなければならない。

- 2 第2条に定める公衆衛生看護学実習5単位を履修するためには、平成29年度以降の入学生は第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師科目（公衆衛生看護学実習を除く。）をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

（履修許可人数）

第4条 保健師科目の履修を許可する人数は20人以内とする。

（選考の時期等）

第5条 第2条の科目履修者の選考は別表2-1及び別表2-2の選考方法により、第3年次後期の看護学臨地実習終了後に行うものとする。

（履修志願手続き）

第6条 第2条の科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに学長に申請するものとする。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 - 1 平成 29 年度～令和 2 年度入学生の保健師科目及び単位数

科 目	年次	単 位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健医療福祉行政論Ⅱ *	3	2
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	1
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	22

*・・・3年次末の選抜試験を受け保健師課程の履修を希望する者は、保健師課程選考前に
*印がある科目を履修しなければならない。

別表 1 - 2 令和 4 年度以降入学生の保健師科目及び単位数

科 目	年次	単 位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
保健医療福祉行政論Ⅱ *	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	4
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	2
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	25

別表 2-1 平成 29 年度入学生の選考方法

選考方法	内 容
学力評価	以下を学力評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目 ・ 保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」
試験	・ 面接試験（個別） 看護学実習評価を面接試験の参考資料とする。
評価方法	・ 学力評価を 80 点、面接試験を 20 点、合計 100 点で評価し成績上位者から選考する。

別表 2-2 平成 30 年度以降入学生の選考方法

選考方法	内 容
成績評価	以下を成績評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目 ・ 保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」
実習評価	以下を実習評価の対象科目とする <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次から 3 年次に履修する全ての看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習
面接試験	・ 面接試験（個別）
評価方法	・ 成績評価を 60 点、実習評価を 20 点、面接試験を 20 点、合計 100 点とし、合計得点の上位者から選考する。

卒業に必要な単位数

(平成 29 年度以降入学生)

区 分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解 (保健師課程)	2 5 (2 7)	1 4 (1 4)	1 (3)	1 5 (1 7)
国際理解	8	8	0	8
生活・環境の理解 (保健師課程)	8 (1 1)	4 (4)	1 (4)	5 (8)
健康の理解	2 3	2 3	0	2 3
看護学の基本	1 3	1 3	0	1 3
看護学の展開 (保健師課程)	4 2 (5 9)	4 2 (4 2)	0 (1 7)	4 2 (5 9)
看護学の発展と探究	2 3	2 2	0	2 2
合計 (保健師課程)	1 4 2 (1 6 4)	1 2 6 (1 2 6)	2 (2 4)	1 2 8 (1 5 0)

() 内の数字は保健師国家試験受験資格取得の場合

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ、公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修 16 単位のうち、疫学の 2 単位は「生活・環境の理解」、その他の 14 単位は「看護学の展開」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2 年または 3 年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ (計 6 単位) を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は 150 単位となる。

奈良県立医科大学医学部看護学科における成績評価異議申立てに関する要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科に在籍する学生（以下、「学生」という。）が履修するすべての科目について、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条に規定する成績評価に対する異議申立てに関し必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2条 学生は、成績に対して確認すべき事項がある場合は、授業科目担当教員に、直接確認することができるものとする。

(確認依頼受付期間)

第3条 前条による確認依頼の受付期間は、成績開示日から起算して、3日以内（日曜日若しくは土曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日及び12月29日から翌年1月3日までの日を除く。以下、第4条1項、第6条において同じ。）とする。

(確認に伴う措置)

第4条 第2条による確認依頼を受けた授業科目担当教員は、学生から確認依頼があった日から起算して、3日以内に確認結果を回答するものとする。

2 前項の回答に当たっては、授業科目担当教員が直接当該学生に確認結果を回答するものとする。

(異議申立て)

第5条 前条の規定による確認結果に異議がある学生で、次の各号に掲げる事項に該当する場合は、別に定める「成績に対する異議申立書」（以下「異議申立書」という。）を学長あてに提出することにより、異議申立てができるものとする。

(1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの

(2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの

2 前項の異議申立書は教育支援課を通じて提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第6条 前条による異議申立ての受付期間は、当該学生が第4条による回答を受理した日から起算して、3日以内とする。

(受理)

第7条 学長は、第5条による異議申立書を受理した場合は、医学部教務委員会において当該異議申立ての審査を行うものとする。

2 学長は、異議申立てを受理する事由に該当せず、異議申立てを却下する場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

(審査結果の報告及び対応)

第8条 医学部教務委員会は、当該異議申立ての審査を行い、その結果を学長に報告し、学長が決定するものとする。

2 教育支援課は、当該学生及び当該授業科目担当教員に当該結果を成績に対する異議申立てに関

する回答書により通知する。この場合において、異議申立てを容認する結果であった場合は、授業科目担当教員に成績について変更する措置を行わせるものとする。

3 異議申立てへの回答に対して再異議申立ては認めない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、必要な要領は別に定める。

附 則

この要領は令和4年4月1日から施行する。

奈良県立医科大学医学部公欠規程

平成28年2月4日制定

(目的)

第1条 この規程は、奈良県立医科大学学則第25条に規定する学生の欠席について、奈良県立医科大学がやむを得ないと認める理由（以下「理由」という。）による欠席（以下「公欠」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(公欠の定義)

第2条 公欠とは、学生が次条に規定する理由により講義、実習等を欠席した場合、これを単位認定、科目修得及び履修要件における欠席扱いとしない取扱いをいう。

(公欠の理由)

第3条 公欠を認める理由は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 学生が学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は健康管理センター長が学生の出席停止措置が必要であると認めた場合
- (2) 気象警報の発表、交通機関の運休等により学生の通学が困難であると認められた場合
- (3) 学生の親族が死亡した場合（忌引）
- (4) 学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- (5) 学生がカリキュラム履修や教員の指導下で実施している自主的研究において、教員が必要と認める学会等に参加する場合
- (6) その他学長が必要と認めた場合

(公欠の基準)

第4条 前条第1号及び第3号における公欠の基準については、別表第1に定めるとおりとする。

(公欠の手続)

第5条 公欠の適用を受けようとする学生は、公欠届（別紙様式）に別表第2に定める書類を添えて、学長に提出するものとする。

- 2 学長は、前項の規定により公欠届の提出があったときは、その内容を第3条及び第4条の基準に基づき審査し、公欠として適正と認める場合はこれを許可する。
- 3 公欠の申出時期は、原則として別表第2のとおりとする。ただし、学長が別に定める場合はこの限りではない。
- 4 公欠の許可について、公欠届の内容及び理由によりやむを得ないと認められる場合には、学長は公欠希望日に遡ってこれを認めることができるものとする。

(公欠時の講義、実習等の取扱い)

第6条 教員は、公欠を許可された学生に対し、講義、実習等の履修において、補講、個別指導等の実施により当該学生が不利とならないよう配慮を行うものとする。

ただし、実習等については、公欠を許可されても、追実習、評価及び単位認定ができない場合がある。

(公欠時の定期試験等の取扱い)

第7条 公欠を許可された期間は、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第3項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第7条に規定する定期試験等の受験に係る授業時間数には含めないものとする。ただし、前条に規定する補講等が実施された場合は、当該時間数に含めるものとする。

2 公欠を許可された学生に対する定期試験等の取扱いにおいて、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第4項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条第2項に規定する疾病その他やむを得ない理由については、第3条各号を適用するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

暴風警報等発表時における授業の措置について

(平成26年1月8日 医学科・看護学科学務委員会等 決定)

台風等の接近に伴い奈良県北西部に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されたときの授業の取扱いは原則として次のとおりとする。

【共通事項】

- (1) 午前7時現在「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されているときは、午前の授業は休講とする。
- (2) 午前11時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されたときは、午後の授業のみ行う。
- (3) 午前11時以降も「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されないときは、当日の授業は休講とする。ただし、大学院は下記(7)によることとする。
- (4) 午前11時以降の授業時間中に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合は、当該授業終了後はすべて休講とし、速やかに帰宅させることとする。
 - ① 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合のクラブ活動等の課外活動は、禁止とする。
 - ② 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合の図書館及び自習室等の学内における学生の自習については、禁止とする。

【医学科】

- (5) 医学科の学内及び学外実習については、上記(1)～(4)を原則とし、当該実習施設の指導者の判断に基づき決定することとする。

【看護学科】

- (6) 看護学科の臨地実習については、原則上記(1)～(4)のとおりとする。ただし、学外で実習を行っている場合の措置については、当該実習担当教員が実習先の指導者と協議し、原則として実習を中止し帰宅させる。ただし、台風等の接近に伴い帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

【大学院】

- (7) 大学院については、午後4時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除された場合は、午後6時以降の授業を行う。午後4時以降も解除されない場合は、終日休講とする。
- (8) 実習については、上記(6)に準ずるものとする。

*なお、状況によって警報発表の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

地震発生等災害時における授業の措置について

地震発生等災害時における授業の取扱は原則として次のとおりとする。

1 講義

- ①教育支援課が被害状況、交通機関の運行状況等の情報収集を行い医学部長に報告
- ②医学部長が①を確認し、授業の実施、今後の方針等を判断（必要に応じて看護学科長（看護学科長と連絡が取れない場合は、看護教育部長）と協議）
なお、医学部長と連絡が取れない場合は、事務局長が判断
- ③教育支援課は医学部長の判断を教務システム及び大学ホームページに掲載し、周知

休講とする判断の目安

○近鉄大阪線及び橿原線が同時に運休した場合

※ 交通機関の運休等により登校できない場合は、公欠扱いとする。

2 実習

当該実習の担当教員、領域長及び指導者と協議し、必要に応じて実習を中止し帰宅させる。ただし、帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

※「暴風警報等発表時における授業の措置について」に準じる。

【災害等発生時 教育支援課 緊急連絡先】

- ① 0744-22-3051（大学代表番号）
- ② 0744-22-9844（教務係直通）
- ③ 0744-29-8805（入試・学生支援係直通）
- ④ 0744-29-8917（入試・学生支援係直通）

※係に関係なく、上記いずれかの番号に連絡すること

試験に関する諸注意

1 筆記試験の注意事項

- ① 試験開始後、原則として入室限度時刻を超過した遅刻者は受験できない。
- ② 試験開始後、原則として入室限度時刻までは退出できない。
- ③ 試験終了10分前以降は、退出できない。
- ④ 一度退出した者は、再び入室できない。
- ⑤ 受験中における私語及び物品の貸借は一切禁止する。
- ⑥ 机の上には学生証、筆記用具、時計（但し、計算、辞書、通信等の機能のある時計は禁止）、メガネ以外は置かないこと。
- ⑦ 携帯電話、スマートフォン、通信機能のある機器等を持っている者は、電源を切り、カバンの中に入れること。
- ⑧ その他、試験監督者の禁止するものを持ち込んで서는ならない。
- ⑨ 次の場合、当該試験は無効とする。
 - ・ 答案を提出しない場合
 - ・ 学籍番号・氏名等の記入がない場合
 - ・ 監督者の指示に従わない場合
- ⑩ 欠席する場合、必ず試験開始までに教育支援課に連絡を入れること。連絡がなく無断欠席した場合は、追試験の受験資格を失うため、注意すること。

2 不正行為について

- (1) 試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。
 - ア 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に参照すること。
 - イ 他人の答案をのぞき見ること。
 - ウ 答案を見せ合うこと。
 - エ 音声や動作等により解答に役立つ情報を伝え合うこと。
 - オ 机や下敷きなどに解答に役立つメモ等を残すこと。
 - カ 試験問題を試験前に不正に入手すること。
 - キ その他前記行為に類する行為。
- (2) 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に机の下部棚などに置くことは、実際に参照したかどうかを問わず、不正行為と見なす。
- (3) その他、不正行為に関する試験監督者の注意や指示に反する行為は、不正行為と見なす場合がある。

3 不正行為を行った者に対する処分

試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合には、学則第41条による懲戒処分を行う。

出席確認端末 (Early Bird) について

下記の講義室で講義が行われる際、出席管理システム端末 (Early Bird) で出席をとる場合があります。

1 Early Bird 導入教室

教養教育棟 第一～第四講義室、化学実習室、物理実習室
基礎医学棟 第一・第二講義室、生理・薬理・病理実習室、組織実習室、小講義室
臨床講義棟 第一・第二講義室
看護学科棟 第一～第三合同講義室、第一～第三講義室、情報科学室

2 操作手順

- ・出席確認端末 (Early Bird) では、授業開始前の 10 分間に学生証をかざした場合のみ「出席」と記録されます。(例) 1 時間目 (9:00 開始) の場合は 8:50～9:00
- ・出席管理端末 (Early Bird) に時刻が表示されている状態が正常な状態です。学生証をかざすことで、出席情報の登録を行います。
- ・端末に向かって右端に学生証をかざし、電子音が鳴り画面下部に「学籍番号」と「氏名」が表示されると読取り完了です。

3 注意事項

- ・出席確認方法は科目によって異なりますので、各教員の指示に従ってください。
- ・端末に記録が残されていない場合は欠席扱いになるので注意してください。
- ・学生証を忘れた場合は、欠席扱いとなるので注意してください。
- ・動作確認できない場合や操作に不安がある場合は、再度端末にカードをかざしてください。
- ・教務システム (Active Academy) の「修学ポートフォリオ」で各自の出席状況を確認できますが、実際の出席数を反映しているかどうかは、科目責任者に確認してください。
- ・なお、他人の学生証を端末に通す等の不正行為をすれば、学則第 41 条の規定により、けん責、停学又は退学処分の対象になるので十分注意してください。

〈参考〉奈良県立医科大学学則 (抜粋)

(懲戒処分)

第 41 条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は、次の各号の一に該当する者に対してのみ行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣行で成業見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

健康管理

1) 学生相談

学生が、勉学上や生活上の相談をしたい場合は、学生生活相談担当教員へ申し出てください。

また、毎週1回、学生カウンセリングを実施しています（予約制）。申込みは教育支援課または、直接カウンセラーに連絡してください。教育支援課に申し込みする場合、希望のカウンセリング日を伝えてください。教育支援課担当がカウンセラーと日程調整を行います。なお、相談の内容の秘密は固く守られます。

2) 健康相談

学生が健康上の相談をしたい場合は、校医(内科)による健康相談を受けることができます。教育支援課又は健康管理センターに申込み、日程調整をしてください。

3) 健康管理

健康状態について、常に自己管理を心がけてください。登校中、又は学内において体調が思わしくない場合は、教育支援課に欠席を届け出たうえで早めに帰宅して静養するなり、医療機関を受診するなどしてください。帰宅が難しいほど不調の場合は、教育支援課に連絡し（5）の健康管理センターの指示に従ってください。

4) 定期健康診断

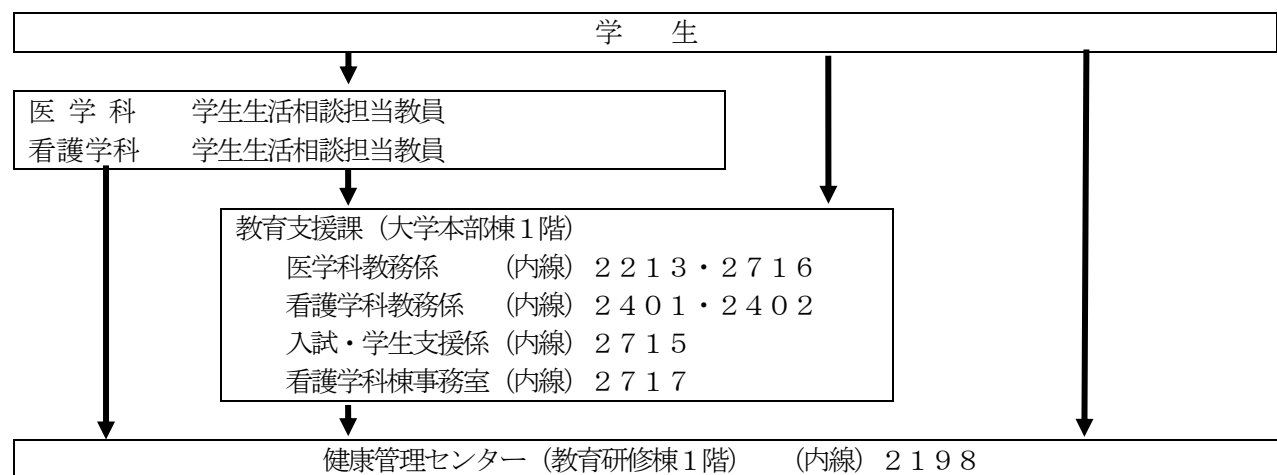
学校保健安全法により、定期健康診断の実施が義務付けられています。

各学年とも毎年1回、4月以降に実施する定期健康診断を受けなければなりません。定期健康診断を受診できなかった学生については、診断項目について自己責任で受診し（5）の健康管理センターに報告してください。

また、医学科1年生・編入2年生、看護学科1年生を対象に結核感染防止のためのIGRAs検査および麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の4種感染症抗体価検査とB型肝炎抗原抗体検査を実施します。さらに、B型肝炎抗原抗体検査の結果、ワクチン接種対象とされた方にはB型肝炎ワクチン接種を実施します。

5) 健康管理センター

学内において緊急を要する怪我・発病等の場合は、下記により健康管理センターに連絡してください。応急対応やベッドでの休憩などが可能です。必要に応じて医療機関を紹介します。なお、健康保険証は常に携帯しておくことを勧めます。



6) 感染症対策

感染症の疾患にかかった場合、速やかに医療機関を受診し、教育支援課に連絡してください。診断が出るまでは登校を控え、診断が出た場合は医師の指示に従ってください。併せて、診断結果を教育支援課に連絡し、登校後に診断書を提出してください。

本学生が学内・学外において実習に出ようとするときは、受入施設によりワクチン接種を済ませていることを要件とする場合があります。実習に参加できない事態を避けるため、定期健康診断においてワクチン接種が必要とされた者は、必ずワクチン接種を済ませておいてください。

別表第1（第4条関係）

感染症について(第3条第1号関係)

	対象疾病	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、MERS、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1、H7N9であるものに限る)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザH5N1を除く)	発症後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	症状により本学健康管理センター医師、その他医師が感染のおそれがないと認めるまで
	感染性胃腸炎(ノロ・ロタ等)	症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が消失してから48時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	症状により本学健康管理センター医師、その他医師が感染のおそれがないと認めるまで

忌引について(第3条第3号関係)

親等	対象範囲	日数(土日・祝祭日を含む)
	配偶者	最長7日
1親等	父母、子	最長7日
2親等	祖父母、兄弟姉妹、孫	最長3日

別表第2（第5条関係）

手続方法について

以下の理由により欠席する場合は、公欠届及び以下の添付書類を提出すること。

欠席理由	添付書類	申出時期
感染症等(第3条第1号)	医師の診断書	診断書による療養期間終了後すみやかに
忌引(第3条第3号)	会葬の案内状、礼状等	事後1週間以内
裁判員制度(第3条第4号)	用務内容が記載された書類	招集日の1週間前まで
学会等参加(第3条第5号)	学会等の概要がわかる書類	学会等参加の1週間前まで
その他(第3条第6号)	理由が証明できる書類	事後1週間以内

※(第3条第2号関係)

気象警報の発令、交通機関の運休等社会的要因によるものについては、添付書類の提出は不要とする。

公 欠 届

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

医学部 (医学科・看護学科)

第 学年 (学籍番号)

氏 名 _____

下記の理由により講義、実習等を欠席したいので、公欠の取扱いをお願いします。

記

1 理 由 (該当理由にレを入れること)

- 感染症等 (名称)
- 気象警報、交通機関運休等 (経路)
- 忌引 (続柄)
- 裁判員制度
- 学会等参加
- その他 ()

2 公欠期間及び公欠扱いを希望する講義・実習等名

年 月 日 ~ 年 月 日

<p><講義・実習等名 (詳しく記載すること)></p>	<p><経過> ※新型コロナウイルス感染症に関する場合のみ記載</p>
------------------------------------	---

(注1) 別表第2に定める書類を添付すること。

(注2) 新型コロナウイルス感染症に関する場合は、来学初日の授業開始前までに教育支援課へ提出すること。

なお、事前に公欠届の提出がない場合は、授業への出席を認めない。

3. 1年次開講科目の授業内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作		
概要	人間をより現実的に理解するために、身体・心理・社会的側面の統合体とし、人間が発達し続ける存在であるという観点から捉えようとする。つまり、身体的・心理的・社会的存在としての人間を発達という観点から全体として理解することを学ぶ。		
目標	1) 人間発達学とは何かを学び、その意義について理解する。 2) 人間の発達に影響を及ぼす因子について学ぶ。 3) 発達理論について学習し、理解する。 4) 人間の発達を6段階に分けて学習し、理解する。		
評価方法	評価方法：中間レポート（50%）、期末レポート（50%） 評価基準：提示された課題について、授業のテーマ毎の内容や考え方を理解し、文献学習も行き、自分なりの考えを持つことができているか。その考えが整理され、今後、人間発達学を活かしていく自己の考えが提示されているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 人間発達学とその意義	講義	太田
	第2回 発達における共通性（スキヤモンの発育曲線） 発達に影響を及ぼす因子	講義	太田
	第3回 発達理論（歴史的展開） ゲゼル、フロイトの発達理論	講義	太田
	第4回 エリクソンの発達理論	講義	太田
	第5回 乳幼児期の身体的発達 （歯、骨、脳、反射、排泄、運動）	講義	太田
	第6回 乳幼児期の心理・社会的側面の発達 1 （マラーの発達理論、ポウルビイの愛着理論）	講義	太田
	第7回 乳幼児期の心理・社会的側面の発達 2 （ピアジェの認知発達理論、遊びの発達、言語の発達）	講義	太田
	第8回 乳幼児の発達の評価、発達に関わる健康上の問題 児童虐待	講義	太田
	第9回 学童期の身体的発達、心理的発達、子どもの問題行動	講義	太田
	第10回 思春期の身体的発達、心理・社会的発達 発達に関わる健康上の問題（不登校、摂食障害、対人恐怖）	講義	太田
	第11回 青年期の身体的発達、心理・社会的発達	講義	太田
	第12回 成人期の身体的発達 成人期の心理・社会的発達（レビンソンの発達理論）	講義	太田

	第13回 成人期のストレス ストレスの病態生理、心身症	講義	太田
	第14回 老年期の身体的発達、老年期の心理・社会的発達	講義	太田
	第15回 まとめ	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそってテキスト「人間発達論ノート」を読み、自分が重要だと考えるキーワードを各回3つ抽出する。 事後学修：授業で取り上げたテーマに関して、これまでの生活での体験や見聞きした事柄などに照らし合わせ、それに対する自分の考えを整理しておく。		
テキスト	「人間発達論ノート」を配布する。参考資料を配布する。		
参考書	舟島なをみ・望月美知代 「看護のための人間発達学 第5版」 医学書院		
学生へのメッセージ等	人間を統合的に理解し、発達の観点から捉えてみると、自分自身のこともよく理解できるようになる。また、病気・疾患だけに目を向けるのではなく病を抱える人をどのように理解するかが重要であることを学んでもらいたい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	医療行為は患者の身体や生命、患者や患者の家族の人生に深く関わる。それだけに医療行為に携わる者には、医学・看護学に関する専門的な知識や技術だけでなく、人間に対する深い認識や高い倫理的意識をもつことが求められる。 本講義では、現代医療が抱える諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。		
目標	医療とは何か、またどうあるべきかを考え、医療者にとって必要な倫理的判断力を身につける。		
評価方法	毎時間提出してもらおうミニツツペーパー（30%）、期末試験（70%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 倫理学と医療倫理学	講義	池邊
	第2回 人間の尊厳と医療	講義	池邊
	第3回 インフォームド・コンセント（1） — 一定義 —	講義	池邊
	第4回 インフォームド・コンセント（2） — 歴史的経緯 —	講義	池邊
	第5回 患者の権利	講義	池邊
	第6回 研究倫理	講義	池邊
	第7回 輸血拒否	講義	池邊
	第8回 守秘義務	講義	池邊
	第9回 生殖医療の倫理的諸問題（1） — 社会問題としての不妊 —	講義	池邊
	第10回 生殖医療の倫理的諸問題（2） — 人工授精と体外受精 —	講義	池邊
	第11回 生殖医療の倫理的諸問題（3） — 代理出産 —	講義	池邊
	第12回 出生前診断の倫理的諸問題	講義	池邊
	第13回 脳死と臓器移植（1） — 脳死 —	講義	池邊
	第14回 脳死と臓器移植（2） — 臓器移植 —	講義	池邊
	第15回 人生の最終段階における医療・ケア	講義	池邊

授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。
参考書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考図書は講義中に随時紹介する。
学生へのメッセージ等	明確な問題意識を持って講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／近池 操		
概要	理論と実践の研究を統合して人の社会への適応と人格的成長について理解する。不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。心理的な問題のある人への理解と援助について実践的な知識を習得する。		
評価方法	出席状況 授業態度（30%） 定期試験（70%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史	講義	近池
	第2回 人の心の理解 知覚と認知 記憶	講義	近池
	第3回 人の心の理解 学習 動機 意欲	講義	近池
	第4回 人の心の理解 発達心理学 エリクソンとピアジェ	講義	近池
	第5回 人の心の理解 愛着理論	講義	近池
	第6回 臨床心理アセスメント 心理検査 質問紙法	講義	近池
	第7回 臨床心理 アセスメント 投影法	講義	近池
	第8回 力動的心理療法 精神分析的アプローチ	講義	近池
	第9回 臨床心理学的アプローチ 認知行動療法 1	講義	近池
	第10回 臨床心理学的アプローチ 認知行動療法 2	講義	近池
	第11回 強迫症、依存症について	講義	近池
	第12回 発達障害について 1	講義	近池
	第13回 発達障害について 2	講義	近池
	第14回 精神病への理解	講義	近池
	第15回 臨床心理実践に求められるもの 連携・守秘義務・倫理・スーパービジョン・研究	講義	近池
授業外学修（事前学修・事後学修）			

テキスト	授業中に配布します。
参考書	授業中に紹介します。
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／山本 典子		
概要	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。 心理的な問題のある人への理解と援助について実践的な知識を習得する。		
評価方法	受講態度（提出物なども含む）40%、 定期試験60%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史と発展	講義	山本
	第2回 人の心の理解 認知機能・学習	講義	山本
	第3回 人の心の理解 発達・パーソナリティー	講義	山本
	第4回 人の心の理解 観察法・面接法	講義	山本
	第5回 人の心の理解 心理検査	講義	山本
	第6回 臨床心理学における症状・問題とは	講義	山本
	第7回 臨床心理学的援助 深層心理学・精神分析学的理解とアプローチ	講義	山本
	第8回 臨床心理学的援助 行動主義心理学・認知心理学的理解とアプローチ	講義	山本
	第9回 臨床心理学的援助 色々な心理療法	講義	山本
	第10回 心理療法の過程 枠組み・効果・危機介入	講義	山本
	第11回 心理療法の過程 実習をまじえて	講義	山本
	第12回 臨床心理学的な問題 発達のなかで	講義	山本
	第13回 臨床心理学的な問題 社会のなかで	講義	山本
	第14回 臨床心理学的な問題 医療のなかで	講義	山本
	第15回 臨床心理実践に求められるもの	講義	山本

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	授業中に配布します。
参考書	授業中に紹介します。
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／宿谷 仁美		
概要	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格成長について理解する。不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助方法・技術・姿勢・倫理について学習する。		
目標	① 対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す ② 心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、実践的な知識を習得する		
評価方法	受講態度と提出物（40%）、定期試験（60%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年9月26日（月） オリエンテーション、臨床心理学とは 受講にあたっての留意点。臨床心理学とは、臨床心理学の歴史と現代的意義について学ぶ。	講義	宿谷
	第2回 人の心の理解1「知覚、認知」 知覚の機能、認知の機能について学び、人はいかに見ているように見えていないか、聞いているように聞いていないかについて学術的に理解する。	講義	宿谷
	第3回 人の心の理解2「学習、発達とパーソナリティ」 学習の理論、生来的な気質や後天的に体験を通して学習し形成される人のパーソナリティについて学ぶ。	講義	宿谷
	第4回 人の心の理解3「アタッチメントとコミュニケーション」 心身機能の発達とアタッチメントの発達、コミュニケーションのあり方について学ぶ。	講義	宿谷
	第5回 臨床心理学的アセスメント1「心理検査：質問紙法」 臨床心理学的アセスメントと医療的診断との違いについて学ぶ。心理学的アセスメントの一つとして、質問紙法を体験し、その検査メリット・デメリットについて考える。また、自分自身のあり方について考える。	講義	宿谷
	第6回 臨床心理学的アセスメント2「心理検査：発達検査、知能検査、性格検査」 さまざまな心理検査について概要を学ぶ。実際に性格検査を体験し、その検査のメリット・デメリット、限界について考える。また、自分自身のあり方について考える。	講義	宿谷
	第7回 臨床心理実践に求められるもの「心理的援助の枠組み、構造、倫理」 さまざまな心理的援助、心理療法、心理治療のための枠組みや構造、倫理的課題について学ぶ。	講義	宿谷
	第8回 臨床心理学的援助1「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ①」 人の心のしくみと働きについての理論と実践について学ぶ。	講義	宿谷
	第9回 臨床心理学的援助2「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ②」 人の心のしくみについての精神分析理論、自我機能、病態水準、防衛機制について学ぶ。	講義	宿谷
	第10回 臨床心理学的援助3「認知・行動療法、マインドフルネス」 認知療法の基本、自動思考、マインドフルネスについて学ぶ。	講義	宿谷
	第11回 臨床心理学におけるテーマ1「精神的な問題と身体症状、職場のメンタルヘルス」	講義	宿谷

	働く人を取りまく環境とそれが人の心身に与える影響働く人を取りまく環境とそれが人の心身に与える影響について学ぶ。ストレス、ストレスが人の心身機能に与える影響、ストレスチェック制度のあり方とその課題（医療者の役割）、対人援助者が陥りやすい心理について学ぶ。		
第12回	臨床心理学におけるテーマ2「学校のメンタルヘルス、ひきこもり、発達障害」 スクールカウンセラーの活動の実際、子どもの心をはぐくむ学校教育・システムのあり方、医療との連携について学ぶ。昨今のひきこもりや発達障害の理解と支援のアプローチについて学ぶ。	講義	宿谷
第13回	臨床心理学におけるテーマ3「虐待、DV、離婚」 虐待やDVが人の心のあり方に及ぼす影響について学ぶ。両親の不仲や離婚が子どもの心のあり方に及ぼす影響について学ぶ。	講義	宿谷
第14回	臨床心理学におけるテーマ4「被災者支援、被害者／加害者支援」 被災者支援のあり方、災害派遣医療チームについて学ぶ。事故や事件の被害者支援・加害者支援の実際について学ぶ。外傷的な出来事に直面した際の支援者が陥りやすい心理的危機について学ぶ。	講義	宿谷
第15回	臨床心理学におけるテーマ5「精神病、依存症」 統合失調症、うつや躁鬱病、依存症、器質性疾患、摂食障害などさまざまな精神疾患と援助アプローチについて学ぶ。	講義	宿谷
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	特になし。資料を授業中に配布します。		
参考書	特になし。資料を授業中に配布・紹介します。		
学生へのメッセージ等	自分を含めた人の発達・成長・心のあり方に興味関心を持って、授業に積極的に参加することを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／池上 徹		
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	①患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。 ②発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるよう伝えることができる。		
評価方法	前半が講義、後半がグループワークとなり、最終回に授業中試験を行う。 講義ではシャトルペーパー（10%）を毎回記入してもらう。実際にはimakikuというサービスを利用する予定である。 前半の講義を受けて後半のグループワークで発表したい内容を記したレポート（10%）を課す。 班で話し合っ資料を作成し、プレゼンテーション（40%）を行う。 最終回に論述の試験（40%）を実施する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月7日（木） オリエンテーション （医療従事職として教育実践論を学ぶ意義）	講義	池上
	第2回 2022年4月14日（木） 子ども観の変遷 （『子どもの誕生』）	講義	池上
	第3回 2022年4月21日（木） 教育をめぐる時代の変化 （モダン社会からポストモダン社会へ）	講義（遠隔）	池上
	第4回 2022年4月28日（木） 現代における教育問題の例 （学校化社会・病院化社会という問題）	講義（遠隔）	池上
	第5回 2022年5月12日（木） これからの学校教育の実践例 （茅ヶ崎市立浜之郷小学校の実践）	講義（遠隔）	池上
	第6回 2022年5月19日（木） 家族と教育 （最初の社会化集団）	講義	池上
	第7回 2022年5月26日（木） 生涯学習社会の先進事例 （「学びの社会」スウェーデン）	講義（遠隔）	池上
	第8回 2022年6月2日（木） 教育とジェンダー （教育におけるジェンダーの問題を考える）	講義	池上
	第9回 2022年6月9日（木） プレゼンテーションの準備1 （課題の設定 個人でレポート作成）	演習（遠隔）	池上
	第10回 2022年6月16日（木） プレゼンテーションの準備2 （発表資料の作成 班で一つのパワーポイントファイルを作成）	演習（遠隔）	池上
	第11回 2022年6月23日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション1	演習	池上
	第12回 2022年6月30日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション2	演習（遠隔）	池上
	第13回 2022年7月7日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション3	演習	池上
	第14回 2022年7月14日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション4	演習（遠隔）	池上

	第15回	2022年7月21日（木） 21世紀における教育のありかた （授業中試験）	講義	池上
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	『教育の理念と思想のフロンティア』伊藤良高・富江英俊編、晃洋書房、2017 また、必要に応じて授業中に資料を配付する。			
参考書	『子どもと教育と社会』腰越滋編、学文社、2016 『看護のための教育学 「知る」から「分かる」への教育』鈴木正幸編、メヂカルフレンド社、1993 『看護学生と看護職のための教育学概論』山崎裕二著、青山社、2012 『看護現場で使える 教育学の理論と技法』中井俊樹編著、メディカ出版、2014			
学生へのメッセージ等	後半はグループによる発表が中心となるため、主体的に取り組んでもらいたい。非常勤講師が担当する授業であるが、発表のために事前にファイルを提出するなど、授業時間以外の学びも重視すること。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／板橋 孝幸		
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	①患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。 ②発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるよう伝えることができる。		
評価方法	シヤトルペーパー、レポート、プレゼンテーション、試験で評価する。 1. シヤトルペーパー、レポート、プレゼン：50% 2. 最終試験：50%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション	講義	板橋
	第2回 教育における理念と目的	講義	板橋
	第3回 教授論①：人に教えるということ	講義	板橋
	第4回 教授論②：教育における目標と評価	講義	板橋
	第5回 教授論③：よりよい患者教育を行うためには	講義	板橋
	第6回 学習論①：大学での学びと職業に就いてからの学びの違い	講義	板橋
	第7回 学習論②：生涯学習の意義と役割	講義	板橋
	第8回 学習論③：学び続ける医療従事者になるためには	講義	板橋
	第9回 教育の方法と技術①：課題の設定と解決の工夫（発表準備1回目含む）	講義・演習	板橋
	第10回 教育の方法と技術②：協同学習の要件と技法（発表準備2回目含む）	講義・演習	板橋
	第11回 教育の方法と技術③：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 1回目	講義・演習	板橋
	第12回 教育の方法と技術④：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 2回目	講義・演習	板橋
	第13回 教育の方法と技術⑤：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ	講義・演習	板橋

	グループによる発表 3回目		
	第14回 教育の方法と技術⑥：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 4回目	講義・演習	板橋
	第15回 まとめ	講義・演習	板橋
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	木村元編『教育学』（系統看護学講座基礎分野第8版）医学書院、2021年 日本医学教育学会倫理・行動小委員会、準備教育小委員会編『人間学入門 医療のプロをめざすあなたに』南山堂、2009年		
学生へのメッセージ等	グループによる話し合いを行うので、主体的に授業に取り組むことを期待する。		

講義科目名称： 奈良学

授業コード： K080060

英文科目名称： Nara study

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
教養教育部長			
添付ファイル			

全担当教員	教養教育部長／看護教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／外部講師		
概要	<p>1 実施期間 令和5年1月30日（月）～2月3日（金）</p> <p>2 実施概要 奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県内の医療機関を訪問して県の医療状況を知り、奈良の医療に貢献する意思を涵養する。</p>		
目標	<p>(1) 奈良の地域や行政について学び、その特色を理解する。</p> <p>(2) 県内医療機関への訪問や医療体験実習等を通じて、奈良県の医療への関心を深めることができる。</p> <p>(3) 奈良県の医療の現状と将来について議論し、課題を見つけることができる。</p>		
評価方法	ミニッツペーパーの提出を含む受講態度（100%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 奈良学について	講義	教養教育部長
	第2回 奈良の歴史と文化	講義	ゲストスピーカー
	第3回 奈良県の地理・気候・自然災害について	講義	ゲストスピーカー
	第4回 奈良の文化・歴史・自然学習	演習	—
	第5回 病院見学（医療体験）	演習	—
	第6回 本学の過去・現在・未来について	講義	学長
	第7回 奈良県の医療について	講義	奈良県医療政策局長
	第8回 奈良県の医療に関する発表会	演習	教養教育部長 看護教育部長 若月 幸平（教育開発センター教育教授）
	第9回 奈良県の医療に関するシンポジウム	演習	教養教育部長 看護教育部長 若月 幸平（教育開発センター教育教授）
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生へのメッセージ等	みなさんは将来、奈良県の医療に貢献するものと期待されています。そのために本講義を機に、奈良県の文化・歴史・自然、そして保健・医療・福祉の現状と課題に興味をもち、主体的に学習してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
看護教育部長			
添付ファイル			

全担当教員	看護教育部長／教養教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／石井 均（医師・患者関係学）／外部講師		
概要	<p>1 実施期間 令和4年9月5日（月）～9日（金）</p> <p>2 実施内容</p> <p>(1) 知的生産技術 チーム医療を担う医療人として求められる「能動的な情報収集力」、「他者と協力して学び合う力」、「論理的思考力」及び「批判的思考力（クリティカル・シンキング）」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。 また、レポート・論文の作成方法やプレゼンテーションなどの技法についての修得を目指す。 さらに、レポートや論文における盗用・剽窃が不正行為であることを学ぶ。</p> <p>(2) コミュニケーション 多様性が増す昨今において、医療人として、他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶことが必要である。 また、自分と他者の違いを理解するための「ソーシャルスタイル理論」や、人間関係を構築する上でのステップなどを学び、それぞれが今後のコミュニケーションレベルアップに必要な課題を自覚し、日常の中で恒常的にトレーニングできる状態を目指す。 さらに、障がいを持つ患者の話聞いて、医療者と患者コミュニケーションの基本的な姿勢、視点を身につける。</p> <p>(3) 人権教育 男性も女性も自分らしく力を発揮し、1一人一人の幸せを実現できる社会である男女共同参画について学ぶ。 障がい者や性同一性障害者、性的マイノリティに対する社会の障壁について考えるとともに、偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会を実現していこうとする態度を身に付ける。</p>		
目標	<p>(1) 知的生産技術</p> <p>① 「批判的に思考するとはどういうことか」を他者に説明することができ、自ら実行することができる。</p> <p>② 協同学習の考え方を理解し、他者と学び合う際に注意すべき点について、説明することができる。</p> <p>③ 情報リテラシーを理解し、情報を適切に収集及び活用することができる。</p> <p>(2) コミュニケーション</p> <p>① コミュニケーションの仕組みについて説明できるようになる。</p> <p>② 自分と他者の違いを理解し、相手に合わせたコミュニケーションの取り方が実践できる。</p> <p>③ 苦手なタイプを理解し、その対処法を自分なりに工夫し実践することができる。</p> <p>④ 患者の話から、患者の気持ちや想いを汲み取ることができる。</p> <p>(3) 人権教育</p> <p>① 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができ、態度や行動にまで現れることができる。</p> <p>② 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考え、気持ちなどを理解できる。</p> <p>③ 具体的な人権問題に直面し、それを解決しようと実践することができる。</p>		
評価方法	ミニッツペーパーの提出を含む受講態度（100%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1,2回 クリティカル・シンキング	講義	外部講師
	第3,4回 レポートについて	講義	外部講師
	第5,6回 ソーシャルスタイル -理論に基づくコミュニケーション	講義・演習	外部講師
	第7,8,9回 理論に基づいて医療で使えるコミュニケーション	講義・演習	外部講師
	第10回 臨床コミュニケーション：会話分析の知見から	講義・演習	外部講師
	第11,12回 医療者・患者関係学	講義・演習	石井教授（医師・患者関係学）
	第13回 男女共同参画社会について	講義	外部講師

	第14回 人権教育について A班：LGBT、B班：共生社会	講義	外部講師
	第15回 次世代医療人育成論に関するグループワーク及び発表会	演習	看護教育部長 教養教育部長 若月 幸平（教育 開発センター教育 教授）
授業外学修（事前 学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生へのメッセー ジ等	この科目は、後期に開講する「奈良学」と同様に本学独自の科目として医学看護学合同で開講します。医療人としての基礎能力を修得できるよう多彩なゲストスピーカーを招き、グループワークも取り入れて構成していますので感性や価値観への刺激を体験することになると思います。積極的に参加しましょう。詳細な参加方法等については別途通知します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
浅野 弘明			
添付ファイル			

全担当教員	浅野 弘明		
概要	情報機器、特に、パソコンの使いこなしは、学生や社会人にとって必須の知識・技術となっている。パソコンを使いこなす上で必要となる知識や操作方法を、実習を通じ学習し、パソコンの有効活用につなげる。		
目標	機器やネットに関する基礎知識を理解するとともに、代表的なアプリケーションソフトである「ワープロ、表計算、プレゼンテーション」を中心に、機能や使い方を習得し、使いこなしのレベル向上を目指す。		
評価方法	講義への参加意欲(30%)、各種課題に対する取り組み(40%)、最終課題(30%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	実習	浅野
	授業の進め方、機器構成・基本用語の説明 各種アプリケーションソフトの基本機能		
	第2回	実習	浅野
	ワードの使い方1、エクセルの使い方1、 パワーポイント(PP)の使い方1		
	第3回	実習	浅野
	ワードの使い方2、エクセルの使い方2、PPの使い方2		
	第4回	実習	浅野
	情報セキュリティについて(USBメモリの取り扱い方) ワードの使い方3、エクセルの使い方3、PPの使い方3		
	第5回	実習	浅野
	ネット検索1、ファイル・フォルダーの基礎 ワードの使い方4、エクセルの使い方4、PPの使い方4		
	第6回	実習	浅野
	ネット検索2、ファイル・フォルダーの管理1 ワードの使い方5、エクセルの使い方5、PPの使い方5		
	第7回	実習	浅野
ネット検索3、ファイル・フォルダーの管理2 ワードの使い方6、エクセルの使い方6、PPの使い方6			
第8回	実習	浅野	
エクセルの使い方7(グラフ作成1)、PPの使い方7 PPを用いたプレゼン資料の作成1			
第9回	実習	浅野	
エクセルの使い方8(グラフ作成2)、PPの使い方8、 PPを用いたプレゼン資料の作成2			
第10回	実習	浅野	
エクセルの使い方9(グラフ作成3)、 PPを用いたプレゼン資料の作成3			
第11回	実習	浅野	
エクセルの使い方10(マクロ機能1) PPを用いたプレゼン資料の作成4			
第12回	実習	浅野	
エクセルの使い方11(マクロ機能2) PPを用いたプレゼン資料の作成5			
第13回	実習	浅野	

	PPを用いたプレゼン資料の発表 1		
	第14回	実習	浅野
	PPを用いたプレゼン資料の発表 2 エクセルの使い方 (まとめ)		
	第15回	実習	浅野
	まとめ、最終課題		
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	特になし (教材用資料は当日USB等に配付)		
参考書	特になし		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 哲学

授業コード： K080070

英文科目名称： Philosophy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	<p>哲学的思索は、世界や人間の根本原理を追求する営みである。それゆえ、現実と遊離したところで行われる「机上の空論」という印象を抱く人がいるかもしれない。しかし、哲学が理念として描く事柄は、現実の日常生活から抽出した事柄である。哲学的思索の出発点は今ここに生きる「私」であり、「私を取り巻く現実」である。</p> <p>本年度はシェリー・ケーガン『「死」とは何か』などを手引きにしながら、以下に列挙した主題について考えていくことにする。</p>		
目標	自らの生き方や現代社会のあり方について、明確な問題意識をもって問うていく哲学的思考力を身につける。		
評価方法	毎時間提出してもらいミニツツペーパー（30%）、期末レポート（70%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 哲学とは何か	講義	池邊
	第2回 私とは何か／反出生主義	講義	池邊
	第3回 魂（心）と身体（1） —二元論と物理主義—	講義	池邊
	第4回 魂（心）と身体（2） —自由意志、死後生—	講義	池邊
	第5回 魂（心）と身体（3） —プラトン、デカルト—	講義	池邊
	第6回 人格の同一性（1） —身体説—	講義	池邊
	第7回 人格の同一性（2） —人格説—	講義	池邊
	第8回 死すべき存在としての人間 —ハイデガー—	講義	池邊
	第9回 死の人称性	講義	池邊
	第10回 当事者意識と孤独感	講義	池邊
	第11回 死と不死	講義	池邊
	第12回 死が教える「人生の価値」	講義	池邊
	第13回 生の肯定	講義	池邊
	第14回 自殺	講義	池邊
	第15回 まとめ	講義	池邊

授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。
参考書	シェリー・ケーガン（柴田裕之訳）『「死」とは何か [完全翻訳版]』文響社 その他の参考書は講義中に随時紹介する。
学生へのメッセージ等	哲学には絶対に正しいといえる答えはありません。大切なのは「自分で考えること」です。 講義で取り上げる主題は受講者数、受講者の要望などに応じて、適宜、変更します。積極的に問題提起されることを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	<p>生命科学や医療技術の発達に伴って、技術的に可能なことと倫理的に容認されることの間にはどのような折り合いをつけていけばよいのかが問われる場面が多々生じている。われわれは今日、従来の生命観や価値観を問い直すことを余儀なくされている。</p> <p>本講義では「医療に関わる倫理学Ⅰ」に引き続き、現代医療をめぐる倫理的諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p>		
目標	医療現場で直面する諸問題について、明確な問題意識をもって倫理的に思考する能力を身につける。		
評価方法	評価方法： 毎時間提出してもらいミニツペーパー（30%）、期末試験（70%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 パンデミックの倫理学	講義	池邊
	第2回 医学研究の倫理（1） —歴史的経緯—	講義	池邊
	第3回 医学研究の倫理（2） —被験者保護—	講義	池邊
	第4回 動物実験の倫理	講義	池邊
	第5回 人工妊娠中絶とパーソン論（1） —パーソン論とは—	講義	池邊
	第6回 人工妊娠中絶とパーソン論（2） —パーソン論の展開—	講義	池邊
	第7回 重症新生児の治療の差し控えと中止	講義	池邊
	第8回 エンハンスメントの倫理的諸問題	講義	池邊
	第9回 医療におけるナラティブ（1） —EBMとNBМ—	講義	池邊
	第10回 医療におけるナラティブ（2） —ナラティブ・メディスン—	講義	池邊
	第11回 痛みと人間（1） —痛みの両義性—	講義	池邊
	第12回 痛みと人間（2） —痛みと医療—	講義	池邊
	第13回 ケアの倫理	講義	池邊
	第14回 緩和ケア	講義	池邊
	第15回 スピリチュアルケア	講義	池邊

授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。
参考書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考図書は講義中に随時紹介する。
学生へのメッセージ等	明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
河野 秀壽命			
添付ファイル			

全担当教員	河野 秀壽命		
概要	憲法の講義とは、往々にして難しい専門用語と論理を多用することが一般的である。しかし日本人としてこの変動期に生きるためには、法学的思考・表現方法の習得は必然の前提となる。われわれの学ぶべきは、憲法の原理であり形成過程の歴史である。判例解釈を必要最小限にしていく。		
目標	学生諸兄の学ぶ意欲を高め、人権の主張の意味（権利主張ではなく、義務行使の重要性）を問う。法学的思考の人間力形成にどのように役に立つかを問う。		
評価方法	定期試験（50%）、提出物（20%）、受講態度（30%）で総合評価を行う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 はじめに なぜに憲法を学ぶのか	講義	河野
	第2回 第1章 憲法の特徴とその構造	講義	河野
	第3回 第2章 1. 大日本憲法の形成とその原理	講義	河野
	第4回 2. 日本国憲法制定過程	講義	河野
	第5回 第3章 憲法の基本原則 1. 国民主権	講義	河野
	第6回 2. 恒久平和主義	講義	河野
	第7回 3. 民主主義	講義	河野
	第8回 第4章 基本的人権 1. 基本的人権の理論	講義	河野
	第9回 2. 自由権の内容	講義	河野
	第10回 3. 社会権の形成	講義	河野
	第11回 第5章 統治構造 1. 国会の構造とその種類	講義	河野
	第12回 2. 議院内閣制	講義	河野
	第13回 第6章 裁判所 1. 司法権の意味（三権分立論）	講義	河野
	第14回	講義	河野

	2. 弁護制度・裁判員制度		
	第15回	講義	河野
	まとめ 憲法の意義		
授業外学修（事前学修・事後学修）	ネットの情報だけに頼るのではなく、新聞を読んでください。特に一紙だけではなく、比較して読むこと。		
テキスト	担当者からレジュメを配布する。		
参考書	小林直樹『憲法講義（上・下）』 長谷部恭男『憲法』 『あたらしい憲法のはなし』（童話屋）		
学生へのメッセージ等	諸兄よ、講義に出て教師の声を真剣に聞いてください。学ぶ楽しさ、苦しさの経験こそ学生の特権です。そして法とは人間を「自由」にするためのものであり、「支配」の道具ではないことを学んでください。多くの皆様の参加を望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
古屋 哲			
添付ファイル			

全担当教員	古屋 哲		
概要	「世界」という言葉から、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。この講義では、おもに先住民や移民と呼ばれる人びとの声と姿をつうじて世界を考えてみます。「身近なもの」ではない世界にふれるために、文章を読んだり、映像番組を観たりします。		
目標	看護師になるみなさんが、多様な過去や立場をもち、さまざまな生活をおくる世界の人びとのことを、知ろう、理解しようとする姿勢を身につけてほしいと思います。		
評価方法	授業中に短い感想を聞かせて（あるいは書いて）ください。期末には簡単なレポートを提出してもらいます。それらを総合して評価します。率直な感想、意見を期待しています。評価配分は、おおむね、授業参加や途中のレポートを50%、期末レポートを50%とします。また、世界と人びとの暮らしを知ろう、考えようとする姿勢をくみ取って、評価の基準とします。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月8日（金） コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり（1）	講義	古屋
	第2回 2022年4月15日（金） コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり（2）	講義	古屋
	第3回 2022年4月22日（金） 南米の先住民グアラニーの歴史といま（1）	講義	古屋
	第4回 2022年5月6日（金） 南米の先住民グアラニーの歴史といま（2）	講義	古屋
	第5回 2022年5月13日（金） アマゾンの開発と先住民（1）	講義	古屋
	第6回 2022年5月20日（金） アマゾンの開発と先住民（2）	講義	古屋
	第7回 2022年5月27日（金） 1990年代 ペルーの強制不妊手術（1）	講義	古屋
	第8回 2022年6月3日（金） 1990年代 ペルーの強制不妊手術（2）	講義	古屋
	第9回 2022年6月10日（金） アメリカ合衆国の先住民（1）	講義	古屋
	第10回 2022年6月17日（金） アメリカ合衆国の先住民（2）	講義	古屋
	第11回 2022年6月24日（金） 日本の外国人労働者導入政策（1）	講義	古屋
	第12回 2022年7月1日（金） 日本の外国人労働者導入政策（2）	講義	古屋
	第13回 2022年7月8日（金） シリア難民、ラーマのつぶやき（1）	講義	古屋
	第14回 2022年7月15日（金） シリア難民、ラーマのつぶやき（2）	講義	古屋
	第15回 2022年7月22日（金）	講義	古屋

	まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	とくにありません。		
参考書	授業中に指示します。		
学生へのメッセージ等	少し変わった海外旅行のつもりで、気軽に受講してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
Ehrlich, Sven Martin			
添付ファイル			

全担当教員	Ehrlich, Sven Martin		
概要	世界が広い。世界国々文化は多種多様なものです。だから面白い。今期に、テーマ別様々な国の文化を紹介し、くらべます。少しだけ幅広い世界を知ることができます。各参加者は面白そうなテーマ選んで深く調べて発表します。そして世界に興味を持つ。卒業後の仕事場で他国患者さんの伴えるバックグラウンドを少しだけ理解できるようになってください。		
目標	世界の国々文化知ると興味を持つこと。		
評価方法	出席 66%以上が必要です 授業参加度（毎回授業后感想提出） 60% 発表 30% レポート 10%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 挨拶、授業内容、評価方法、発表、テーマ紹介、テーマ選択	講義	Sven
	第2回 漫画とComic 例：US Comic、日本（Dragon Ball） フランス：Asterix, Luky Luke、TinTin	講義	Sven
	第3回 Cityscape 町の作り方 衛生地図を使って、街の作り比べます。 例：大阪, Los Angeles, Paris, Köln, Accra	講義・発表	Sven
	第4回 家の作り 伝統的と現代の家作りを比べます。 例：日本、Mexico, スペイン、ドイツ、カメルーン	講義・発表	Sven
	第5回 音楽 20世紀で出来た当時新スタイルの音楽を比べます。 例：フランス（Chanson）、ブラジル（Bossa Nova）、コロンビア（Salsa）、日本（演歌）、インド、コンゴ	講義・発表	Sven
	第6回 伝統的な服 例：日本（着物）、インド(サリ、ルンギ)、Mexico、マリ、ドイツ	講義・発表	Sven
	第7回 今の服 例：Klaus Lagerfeld、Pineda-Covalin などなど	講義・発表	Sven
	第8回 映画 例：Hollywood、Bollywood(インド)、Nollywood（ナイジェリア）ヨーロッパ国々の映画、日本	講義・発表	Sven
	第9回 食べ物 例：トルコ、Mexico, フランス・イタリア、ブラジル、日本	講義・発表	Sven
	第10回 日常の生活、ルール 例：電車、食べる、お酒とタバコ、挨拶、など	講義・発表	Sven
	第11回 フェスティバル 例：Carneval de Rio, New Orleans の Mardi Gras, Koelner Karneval, Love Parade ねぶた祭り	講義・発表	Sven
	第12回 出産と医学の伝統	講義・発表	Sven

	第13回 言葉とコミュニケーション	講義	Sven
	第14回 追加予定	講義	Sven
	第15回 まとめ	講義	Sven
授業外学修（事前学修・事後学修）	特にないですが、事前・事後に内容を自分で調べると、ますます面白くなっていきます。		
テキスト	発表テーマによる。		
参考書	発表テーマによる。		
学生へのメッセージ等	楽しんで参加して、そして世界の華やかな文化に興味をもって欲しいです。		

講義科目名称： 臨床英語 I

授業コード： K160160 K16016A K16016B
K16016C K16016D

英文科目名称： Academic English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			

全担当教員	Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Ghashut Rima/Elfandi Sufian/Hamilton Melissa /Murray Claire		
概要	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening) の育成を目的とする。さらに、学生達の英語文法及び語彙への理解と知識を身につけることが期待され、英語の英語のプレゼンテーションスキルの向上が見込まれます。		
目標	<p>前期修了までに以下のことを習得する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般的な話題に関する考えや意見を、流暢かつ自身を持って口語及び文語英語で表現する (間違いを恐れない) 2. 中級レベルの英語文法と語彙を正しく理解し使用できる 3. 中級レベルの英語文法や語彙を理解したり正しく使ったりする 4. 各トピックにつき、英語で約 4分間のミニプレゼンテーションを準備し発表する。 		
評価方法	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする。(例：3回欠席＝ - 5%、4回欠席＝ - 10%、5回欠席＝ - 15% etc)。 ・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題(授業課題、宿題etc.)が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。 <p>評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題と授業への参加 = 10% ・Speakingの流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。 ・Readingの流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は最後のreadingの流暢小テストで60%正解すること。 ・Writingの流暢さ = 10% ・語彙や文法の小テスト = 20% ・ミニプレゼンテーション = 10% ・最終プレゼンテーション = 10% ・期末試験 = 40% <p>※ 期末試験の最低合格点は 20 点(満点は 40 点)です。また、期末試験は 3 セクションで構成 されています。それぞれのセクションごとの得点が、合格に必要な最低点以上あること。(各セクションの合格判定割合は 40%)</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
WEEK 1	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 6 April & Friday, 8 April Orientation + Unit 1: Hometown	講義・演習	Bolstad Mathieson Elfandi Ghashut Hamilton Murray
WEEK1A	9:00 am - 5:00 pm, Saturday, 9 April TOEFL Test (at NMU)	試験	”
WEEK 2	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 13 April & Friday, 15 April Unit 1: Hometown	講義・演習	”
WEEK 3	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 20 April & Friday, 22 April Unit 1: Hometown	講義・演習	”
WEEK 4	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 27 April Unit 1: Hometown [Vocabulary and Grammar Quiz 1]	講義・演習	”
WEEK 5	1:00 pm - 2:30 pm, Friday, 6 May Special Lesson	講義・演習	”
WEEK 6		講義・演習	”

	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 11 May & Friday, 13 May Unit 2: Music		
WEEK 7	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 18 May & Friday, 20 May Unit 2: Music	講義・演習	〃
WEEK 8	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 25 May & Friday, 27 May Unit 2: Music [Vocabulary and Grammar Quiz 2]	講義・演習	〃
WEEK 9	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday 1 June & Friday, 3 June Unit 3: Books	講義・演習	〃
WEEK 10	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 8 June & Friday, 10 June Unit 3: Books	講義・演習	〃
WEEK 11	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 15 June & Friday, 17 June Unit 3: Books [Vocabulary and Grammar Quiz 3]	講義・演習	〃
WEEK 12	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 22 June & Friday, 24 June Unit 4: Family	講義・演習	〃
WEEK 13	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 29 June & Friday, 1 July Unit 4: Family	講義・演習	〃
WEEK 14	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 6 July & Friday, 8 July Unit 4: Family [Vocabulary & Grammar Quiz 4]	講義・演習	〃
WEEK 15	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 13 July & Friday, 15 July Review Classes [Fluency Reading Test]	講義・演習	〃
WEEK 16	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 20 July & Friday, 22 July Exam + Video	試験・演習	
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	1. Cullen, B. & Mulvey, S. (2016). Scrap. Perceptia Press. ISBN: 4939130847. 2. Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 4902290235 ISBN-13: 9784902290233.		
参考書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、両方の教科書の英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			
全担当教員	Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Ghashut Rima /Elfandi Sufian/Hamilton Melissa /Murray Claire		
概要	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening) の育成を目的とする。さらに、学生達の英語文法及び語彙への理解と知識を身につけることが期待され、英語の語彙やプレゼンテーションスキルの向上が見込まれます。		
目標	<p>前期修了までに以下のことを習得する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般的な話題に関する考えや意見を、流暢かつ自身を持って口語及び文語英語で表現する（間違いを恐れない） 2. 中級レベルの英語文法と語彙を正しく理解し使用できる 3. 中級レベルの英語文法や語彙を理解したり正しく使ったりする 4. 各トピックにつき、英語で約 4分間のミニプレゼンテーションを準備し発表する 5. 一般的なトピックにつき、英語で約 8分間の最終プレゼンテーションを準備し発表する。 		
評価方法	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から 5%のペナルティを課すこととする(例:3 回欠席= - 5%、4 回欠席= - 10%、5 回欠席= - 15% etc)。 ・授業内への取り組み:出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。 ・授業課題と宿題:授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題(授業課題、宿題etc.)が何だっ たかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。 <p>評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題と授業への参加 = 10% ・speaking の流暢さの最終評価 = 合否判定※ <p>※単位取得の為の合格基準は流暢に 5 分間英語で会話できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・reading の流暢さ = 合否判定※ <p>※単位取得の為の合格基準は最後の reading の流暢小テストで 60%正解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・writingの流暢さ = 10% ・語彙や文法の小テスト = 20% ・ミニプレゼンテーション = 10% ・最終プレゼンテーション = 10% ・期末試験 = 40%※ <p>※ 期末試験の最低合格点は 20 点(満点は 40 点)です。また、期末試験は 3 セクションで構成 されています。それぞれのセクションごとの得点が、合格に必要な最低点以上あること。(各セクションの合格判定割合は 40%)</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
WEEK 1	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 21 September Orientation	講義・演習	Bolstad Mathieson Elfandi Ghashut Hamilton Murray
WEEK 2	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 28 September & Friday, 30 September Unit 5: Travel	講義・演習	〃
WEEK 3	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 5 October & Friday, 7 October Unit 5: Travel	講義・演習	〃
WEEK 4	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 12 October & Friday, 14 October Unit 5: Travel [Vocabulary and Grammar Quiz 5]	講義・演習	〃
WEEK 5	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 19 October & Friday, 21 October Unit 6: School	講義・演習	〃
WEEK 6		講義・演習	〃

	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 26 October & Friday, 28 October Unit 6: School		
WEEK 7	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 2 November & Friday, 4 November Unit 6: School [Vocabulary and Grammar Quiz 6]	講義・演習	〃
WEEK 8	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 9 November & Friday, 11 November Unit 7: Food	講義・演習	〃
WEEK 9	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 16 November & Friday, 18 November Unit 7: Food [Vocabulary and Grammar Quiz 7]	講義・演習	〃
WEEK 10	1:00 pm - 2:30 pm, Friday, 25 November SPECIAL LESSON	講義・演習	〃
WEEK 11	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 30 November & Friday, 2 December Unit 8: Friends	講義・演習	〃
WEEK 12	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 7 December & Friday, 9 December Unit 8: Friends [Vocabulary and Grammar Quiz 8]	講義・演習	〃
WEEK 13	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 14 December & Friday, 16 December Final presentations preparation	講義・演習	〃
WEEK 14	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 21 December & Friday, 23 December Final presentations	講義・演習	〃
WEEK 15	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 4 January & Friday, 6 January Final Presentations [Fluency Reading Test]	講義・演習	〃
WEEK 16	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 11 January & Friday, 13 January Review Classes	講義・演習	〃
WEEK 17	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 18 January Exam	試験	
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	1. Cullen, B. & Mulvey, S. (2016). Scraps. Perceptia Press. ISBN: 4939130847. 2. Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 4902290235 ISBN-13: 9784902290233.		
参考書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、両方の教科書の英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター）／浅井 良純／水野 杏紀／富岡 三智		
概要	<p>(浅井) 戦後、朝鮮半島では大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）という二つの国家として独立し、対立するなかで民族が分断された状態にある。また近年、日韓両政府はいわゆる「徴用工」や「慰安婦」などの問題で関係が悪化している。さらに朝鮮半島問題を複雑にしているのは、それを取り巻く米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差しているためである。本講座では朝鮮半島問題を理解するために、その地政学的構造に留意し、歴史とその認識における文化的相違性について考察する。</p> <p>(富岡) インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱えながら、多様な民族・宗教・文化を擁し、「多様性の統一」を国是とする国である。日本と歴史的、政治的、経済的に関わりの深いインドネシアの文化を知ることを通して、多様な価値を認め合い共存を目指す社会について考える。</p> <p>(水野) 中華文化圏とは中国、香港、台湾などの文化エリアを示す。本講義では、この文化圏の歴史、地理、気候、民族、言語、さらには暦法と習俗、飲食と養生、思想（諸子百家）、芸術文化などを学び、中華文化圏の特性を総合的に理解する。</p>		
目標	<p>(浅井) 朝鮮半島の諸問題について説明できるようになる。</p> <p>(富岡) (1) 多様な宗教や慣習の存在を知る。 (2) 多様性を生んだ地理的・歴史的背景について理解する。 (3) 多様性を維持するための努力やアイデンティティの表現について考える。</p> <p>(水野) 歴史的に深いつながりを持ち、文化的共通性のある近隣、中華文化圏の思想や文化を多角的に学び、理解をする。これにより、将来それぞれの立場において、中華文化圏の人々との交流を深めるとともに、国際的視野にたち、グローバルに活躍できる人材となることを目指す。</p>		
評価方法	<p>(浅井) 受講評価（授業毎に提出するミニレポートの内容と回数）30%、及び試験（最終講義(5回目)の後半で到達度確認のための試験を行う）70%による総合評価</p> <p>(富岡) 平常評価（30%）、期末試験（70%）により評価する。</p> <p>(水野) 授業参加度・リアクションペーパー（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	朝鮮半島の地政学的構造と歴史（1）	講義	浅井
第2回	朝鮮半島の地政学的構造と歴史（2）	講義	浅井
第3回	日韓歴史問題の認識と相違（1）	講義	浅井
第4回	日韓歴史問題の認識と相違（2）	講義	浅井
第5回	日韓歴史問題の認識と相違（3）	講義	浅井
第6回	インドネシアの地理、歴史、言語、宗教	講義	富岡
第7回	インドネシアの冠婚葬祭と死生観	講義	富岡
第8回		講義	富岡

	インドネシアの衣食住		
	第9回 インドネシアの現代史	講義	富岡
	第10回 インドネシアの観光と文化	講義	富岡
	第11回 中華文化圏の特性（歴史、地理、気候、言語、民族、漢字など）	講義	水野
	第12回 中華文化圏の暦法と歳時記（元旦、清明節、端午節、重陽節など）	講義	水野
	第13回 中華文化圏の飲食と養生（四季の食養生、中国六大茶など）	講義	水野
	第14回 中華文化圏の思想（諸子百家の孔子、孟子、老子、荘子など）	講義	水野
	第15回 中華文化圏の芸術（書画、絵画、民居、庭園など）	講義	水野
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	<p>(浅井) 特になし、また必要な資料は講義時に配布する。</p> <p>(富岡) 特に使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。</p> <p>(水野) 特に使用しない。最初にレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>(浅井) 授業中に紹介する。</p> <p>(富岡) 授業中に紹介する。</p> <p>(水野) 水野杏紀『易、風水、暦、養生、処世 東アジアの宇宙観』（講談社選書メチエ、講談社、2016年） 白川静『中国史』上下（岩波文庫、岩波書店、2015年） 白川静『漢字の世界：中国文化の原点』（平凡社ライブラリー、平凡社、2003年） 森内清『中国の天文暦法』増補改訂（平凡社、1990年） 奈良行博『中国の吉祥文化と道教：祝祭から知る中国民衆の心』（明石書店、2011年） 辰巳洋『実用中医薬膳学』（東洋学術出版社、2008年） 張競『中華料理の文化史』（ちくま文庫、筑摩書房、2013年） 布目潮風『中国喫茶文化史』（岩波現代文庫学術、岩波書店、2001年） 林語堂著、鋤柄治郎訳『中国：文化と思想』（講談社学術文庫、講談社、1999年） 森三樹三郎『中国思想史』上下（レグルス文庫、第三文明社、1978年） 王其鈞著、恩田重直訳『図説民居：イラストでみる中国の伝統民居』（科学出版社、2012年） 楼慶西著；高村雅彦日本語版監修『中国歴史建築案内』（TOTOP出版、2008年） 宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波新書、岩波書店、2014年）</p>		
学生へのメッセージ等	<p>(浅井) 朝鮮半島は日本に隣接する地域でありながら理解を難しくしている要因の一つが半島を取り巻く国際環境にあります。東アジア全体から朝鮮半島の諸問題を捉えなおしてみましょう。 注意：授業中、私語等で注意を受けた場合、評価対象から外れる場合があるので注意されたい。</p> <p>(富岡) 現在はインドネシアに駐在する日本人の数も、日本で働くインドネシア人の数も増え、相互理解の必要性はますます高まっています。皆さんの職業人生において、異なる文化背景の人々とどのように接してゆくべきか、この講義を契機として考えてみてください。</p> <p>(水野) 日本は中国と古くよりさまざまな交流があり、思想や文化、技術、芸術など多くのものが伝播し、これらはまた日本で独自の発展を遂げています。中国を理解することは日本を理解することにもつながります。そうした視点も踏まえながら、学んでほしいと思います。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／池邊 寧／勝井 伸子／折井 穂積		
概要	<p>(池邊) ナチ時代のドイツを取り上げ、ドイツ国民はなぜヒトラーを支持したのかについて考えていく。</p> <p>(勝井) 21世紀の現在の世界に大きな影響力を及ぼしているアメリカの文化的背景について考える機会を持ち、その文化的背景がグローバル化とともに世界に浸透しているということを改めて認識することで、世界の中で生きる視点を持つことを目的とする。</p> <p>(折井) 世界遺産や文化財に指定されている建造物をたどりながら、それらの背景となった歴史や文化を考察する。扱われる建造物は、ガロ・ロマン時代の遺跡から始まり、ロマネスクやゴシックの聖堂、英仏百年戦争時代の古城、絶対王政期の宮殿、産業革命期の工場や社宅、戦前の駅舎、大戦時の軍事施設、ペレヤル・コルビュジエの作品など。また、授業の残り時間を利用して最近の流行歌を紹介し、それらを通してフランス語圏の現在を考える。扱われる内容は、パリとジャズ・マヌーシュ、ラップと性差別および家庭内暴力の問題、カナダのフランス語圏、アフリカにルーツを持つ歌手、喫煙や認知症を主題とする歌など。</p>		
目標	<p>(池邊) ナチ時代のドイツを通じて、ドイツの歴史と文化の一端を理解する。</p> <p>(勝井) アメリカ文化を構成する要素のいくつかを取り上げて、その歴史的・文化的背景と、それがどのように表れているかについて知識を得ることを目標とする。</p> <p>(折井) 授業で扱われる建造物について、それらの背景を自分の言葉で説明できること。それぞれの時代の思想の特徴や、その変遷について、自分なりの意見を述べられること。</p>		
評価方法	<p>(池邊) ミニッツペーパー（100%）。 ミニッツペーパー（全5枚）で評価するが、内容次第では追加のレポートを課すことがある。</p> <p>(勝井) 授業中ミニレポート・貢献度（50%）、および期末レポート（50%）で評価する。</p> <p>(折井) 毎回の授業において、興味深く感じたこと、疑問に思ったこと、さらに調べてみたいことなどを書いて提出していただき、この小レポートで成績評価する（100%）。内容次第では追加レポートが課される場合もある。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	異文化理解としてのアメリカ文化とヒーロー	講義	勝井
第2回	アメリカ文化の特質としてのフロンティア	講義	勝井
第3回	イデオロギーとしてのアメリカの農民	講義	勝井
第4回	アメリカの主流文化と移民	講義	勝井
第5回	フロンティアの経験と暴力	講義	勝井
第6回	ナチズムの成立	講義	池邊
第7回	ナチズムとドイツ国民	講義	池邊
第8回	ナチズムと哲学・文学	講義	池邊

	第9回 ナチズムと医学・優生思想	講義	池邊
	第10回 ナチズムとホロコースト	講義	池邊
	第11回 古代と中世	講義	折井
	第12回 中世末期とルネサンス	講義	折井
	第13回 ブルボン王朝時代	講義	折井
	第14回 19世紀	講義	折井
	第15回 20世紀	講義	折井
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	<p>(池邊) 使用しない。</p> <p>(勝井) 使用しない。</p> <p>(折井) 使用しない。</p>		
参考書	<p>(池邊) 使用しない。</p> <p>(勝井) 使用しない。</p> <p>(折井) 使用しない。</p>		
学生へのメッセージ等	<p>(池邊) 他国のこと、昔のことと突き放さず、自分に引きつけて受講してください。</p> <p>(勝井) 今まで特に意識していなかったことを前景化する＝意識化することで、世界の見え方が変わる！という経験を一緒に味わえればと思います。授業中の質問やコメントは貢献度として評価しますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。</p> <p>(折井) 時間的な制約のため、ここではテーマを一つに絞って時代順に見ていく形をとります。したがって、授業で扱われるのは文化史のひとつの断面に過ぎません。そこに留意し、これから自分で文化を考える際の参考になしてください。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター）／谷 直之／倉持 史朗		
概要	<p>(倉持) 本講義の目的は、「社会福祉」に含まれる制度や実践の理解、および、「社会福祉」の価値や視点を理解することである。社会福祉に関する制度や社会福祉が対象とする諸問題と実践内容を取り上げることを通して、社会福祉の今日的意義と医療とのかかわりについて考えることを目指す。</p> <p>(谷) 法とは何かを理解し、法的視点から、医療、保健衛生、福祉の概要と諸問題について理解を深める。</p>		
目標	<p>(倉持) ・わが国の社会福祉に関する制度を理解する。 ・社会福祉実践が対象とする生活問題および援助実践について理解する。 ・社会福祉と医療のかかわりについて考える。</p> <p>(谷) ・医療専門職・医療従事者として必要な法的知識を修得する。 ・医師・看護師の法的地位・責任について理解する。 ・生命倫理問題について、法的な視点から考察できる。</p>		
評価方法	<p>(倉持) 期末試験 70%、授業への参加姿勢（授業態度、小レポートの提出など）30%</p> <p>(谷) 期末試験 90%授業への参加姿勢（授業態度、小レポートの提出など）10%</p> <p>※評価点数は『社会福祉』の評価点（100点を満点）×2/3+『医療法規』の評価点（100点を満点）×1/3で算出し、60点以上を合格とする。この評価点とは、試験、レポート、出席を含む平常評価すべてを総合した最終的な評価点であって、筆記試験の点数を指しているわけではない。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	(医法1)法学オリエンテーション ①法とは何か？法と倫理 ②自然法論と法実証主義 ③パターナリズムと自己決定権	講義	谷
第2回	(福祉1)オリエンテーション	講義	倉持
第3回	(福祉2)社会福祉の価値と理念	講義	倉持
第4回	(医法2)医事法制医療法・医療職の資格法 ①医療法の目的・理念と医療施設 ②医療職の資格要件と業務規程	講義	谷
第5回	(福祉3) 社会福祉に関する制度 －社会保障・社会福祉の体系－ 社会福祉の実践 －障がい児・者福祉－	講義	倉持
第6回	(福祉4) 社会福祉支援（ソーシャルワークの視点）	講義	倉持
第7回	(医法3) 医療従事者の法的責任 ①医療契約 ②医療過誤 ③法的責任 * 刑事上の責任 * 民事上の責任 * 行政上の責任	講義	谷
第8回		講義	倉持

	(福祉5) 社会福祉の実践 -子ども家庭福祉①子どもの貧困-		
第9回	(福祉6) 社会福祉の実践 -子ども家庭福祉②児童虐待-	講義	倉持
第10回	(福祉7) 社会福祉の実践 -婦人保護事業・DV-	講義	倉持
第11回	(医法4) 医療倫理 ①法と医療倫理 ②出産前診断・人工妊娠中絶 ③移植医療	講義	谷
第12回	(福祉8) 医療現場における社会福祉の実践 -MSW・PSW等-	講義	倉持
第13回	(福祉9) 医療現場における社会保障	講義	倉持
第14回	(福祉10) 医療現場における社会保障	講義	倉持
第15回	(医法5) 薬機法・感染症法と薬害訴訟 ①薬機法の目的と概要 ②感染症法の目的と概要 ③薬害・薬禍問題 (B型肝炎)	講義	谷
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	(倉持) 特に指定しない。プリント・資料などを配布する。 (谷) 「姫嶋瑞穂『維持法学入門 (第2版)』」成文堂、2021年		
参考書	(倉持) 授業中に適宜紹介する。 (谷) 必要に応じて適宜指示する。		
学生へのメッセージ等	(倉持) 社会福祉は生活を支える制度であり実践です。皆さんが向き合っていく人達はたとえ同じような病気や症状をみせていても、それぞれに異なる生活歴や環境の中で生きている「固有の存在」です。そのような人間観を持つことが、現代社会において医療・保健・福祉が協働していく意義を理解いただけると思います。 (谷) 法律というと、難解で自分とは縁遠いもの、と思われがちですが、小説やドラマで頻繁に取り上げられているように、実は、私たちの生活、とりわけ、医師・看護師の業務とは密接に関連しています。法を守ることには、第一に患者さんを守ることであり、同時に自分自身や自分の同僚を守ること。興味関心を持って受講されることを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
裏山 悟司			
添付ファイル			

全担当教員	裏山 悟司		
概要	生命の捉え方・生命活動の様式について、将来の専門教育課程で学ぶための基礎知識を習得することを目的とする。		
目標	1. 細胞、タンパク質、DNAといった生物学の基本的な用語の意味を説明できる。 2. 生物学の基本的な用語を用いて、生物の構造や生命現象について説明できる。		
評価方法	定期試験 (80%) 授業態度/小テスト/課題 (20%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス/細胞とは ・生物が細胞からできていることを理解する。 ・細胞がどのような物質でつくられているかについて理解する。 ・遺伝情報がDNAに存在していることを理解する。 ・DNAの複製について理解する。	講義	裏山
	第2回 遺伝情報の複製/発現 ・遺伝情報の複製の仕組みについて理解する。 ・遺伝情報の発現の仕組みについて理解する。	講義	裏山
	第3回 細胞内呼吸 ・第2回の続き ・生体内での代謝活動を営む酵素の働きや性質を理解する。 ・生体エネルギーの産生を行う代謝系について理解する。	講義	裏山
	第4回 体細胞分裂 ・第3回の続き ・体細胞分裂について理解する。	講義	裏山
	第5回 減数分裂 ・減数分裂について理解する。 ・生殖の仕組みを知る。 ・ヒトの初期発生を知る。	講義	裏山
	第6回 生体防御機構/生命維持機構 ・細胞間情報伝達システム、生体防御機構や生体維持機構といった、多細胞生物の自己維持機構について一端を知る	講義	裏山
	第7回 遺伝学 ・遺伝の生物学的な機構を知る。 ・ヒトの遺伝子疾患についての基礎的知識を習得する。	講義	裏山
	第8回 まとめ 復習回;シラバス上では第8回に記載しているが、必要に応じて第4回以降で実施。なお、進捗状況に遅れがあれば、通常授業を実施	講義	裏山
授業外学修 (事前学修・事後学修)	授業前に教科書(実施単元)を一読することが望ましいでしょう。また、授業後にも忘れないうちに教科書や資料に一度目を通すことをお勧めします。		
テキスト	・やさしい基礎生物学 (第2版) / 南雲保 編 / 羊土社 ※読みやすいテキストです。毎回の授業前に簡単に目を通しておいて下さい。		
参考書	特にありませんが、高校の生物基礎/生物の教科書を持っていれば、参考になります。		
学生へのメッセージ等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生物を取っていない学生でも理解できるように、基礎的な部分に重点をおいた講義にしますが、やはり予習復習は大事です。簡単に良いのをお願いします。 ・本講義の選択を検討している学生は、第1回目から受講して下さい(第1回目にも出席点を付与します)。 ・上述のテキスト(やさしい基礎生物学の第2版)を準備しておいてください。前期の選択科目という性質上、例年、準備に手間取りますが、あわてる必要はありません。 ・各授業回での計画はあくまで目安です。 ・質問があれば、urayama [] naramed-u.ac.jp までご連絡ください。その際は名前を名乗ってくださいね。 ※括弧をアットマークに変換してください。		

講義科目名称： 化学

授業コード： K080230

英文科目名称： Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
山本 恵三			
添付ファイル			

全担当教員	山本 恵三		
概要	化学は看護学を修める学生にとっても基本的で重要な科目である。学生が日常生活や健康・看護・医療に関係した知識、および、最近の看護・医療の急激な発展に関する知識を理解できるようにするために、化学的視点を養うことを目的とする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子・分子の構造を理解できる。 2. 溶液の濃度の計算ができる。 3. 緩衝液について理解できる。 4. 有機化合物の構造式や命名法が理解できる。 5. 糖、タンパク質の構造が理解できる。 		
評価方法	各授業における小テスト (20%)、期末試験 (80%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月8日 (金) 第1章 化学をなぜ勉強するのか? 原子の構造と放射能	講義	山本
	第2回 2022年4月15日 (金) 第2, 3章 原子の電子構造 周期表と元素	講義	山本
	第3回 2022年4月22日 (金) 第4, 5章 化学結合と分子 物質の量 酸・塩基	講義	山本
	第4回 2022年5月6日 (金) 第8章 有機化合物の構造	講義	山本
	第5回 2022年5月13日 (金) 第9章 異性体と立体化学	講義	山本
	第6回 2022年5月20日 (金) 第10章 有機化学反応	講義	山本
	第7回 2022年5月27日 (金) 第12章 (前半) 糖質の化学	講義	山本
	第8回 2022年6月3日 (金) 第13章 タンパク質の化学	講義	山本
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前に授業内容に関する教科書の個所を読み、講義に臨むこと。 各授業後に行った小テストの内容について復習し、理解しておくこと。		
テキスト	コ・メディカル化学 (裳華房) 各授業についてプリントを配布します。		
参考書	なし		
学生へのメッセージ等	化学は難しいものではありません。高校で化学を履修しなかった学生の履修を奨励します。化学的視点で身の回りを見ると、今までと違ったものが見えてくるとと思います。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

全担当教員	石指 宏通		
概要	生命活動の基礎的機序ならびに運動時の生理学的な生体変化についての知識を身につけるとともに、将来、医療現場及び地域での活躍が期待される者として、運動が健康の保持・増進や疾病予防に果たす役割を認識する。		
目標	1) 運動の健康に対して果たす役割について理解する。 2) 運動の身体諸機能（骨格器系、呼吸・循環器系、消化器系、神経・内分泌系）に及ぼす影響について理解する。 3) 各個人の体力水準に応じた運動量を理解し、実際に処方する。 4) 運動によって起こりうる様々な障害を理解する。		
評価方法	平常点 40% 授業への出席はもちろんのこと、積極的な取り組みを重視する。 レポート課題 20% 一回ごとの授業での内容の理解度を重視して評価する。 定期試験 40% 8回の授業を通して得た知識の理解度を総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 健康と体力 1) 平均寿命と健康寿命 2) 健康づくりと運動 3) 体力測定の目的と評価	講義	石指
	第2回 運動に関わるからだの解剖学的・生理学的仕組み① 1) 運動と骨格筋 2) 運動と神経・内分泌 3) 運動と呼吸・循環器	講義	石指
	第3回 運動に関わるからだの解剖学的・生理学的仕組み② 4) 運動と代謝 5) 運動と水分摂取（体温調節）	講義	石指
	第4回 年齢に適した運動 1) 発育と運動 2) 加齢と運動	講義	石指
	第5回 生活習慣病とその予防① 1) 肥満と運動 2) 糖尿病と運動	講義	石指
	第6回 生活習慣病とその予防② 3) 高血圧と運動 4) 高脂血症と運動	講義	石指
	第7回 運動処方 1) 運動のもつ有効性と危険性 2) 運動負荷試験の意義と実際	講義	石指
	第8回 運動障害と予防 1) 内科的障害 2) 外科的障害	講義	石指
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修課題：関連図書・資料などで予習する。 事後学修課題：ノート、配布資料を整理して授業内容の復習する。		
テキスト	授業ごとに資料を配布する。		
参考書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義と実技を別々に捉えるのではなく、生涯にわたる健康保持の基本姿勢を身に付けてほしい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			
全担当教員			
石指 宏通			
概要	生涯にわたって断続的・計画的にスポーツを享受し続けることができるように、日常的なスポーツ実施による行動体力および防衛体力への将来的影響を予測し、いつまでもスポーツを楽しみながら実施できる姿勢を養う。		
目標	1) 体力の実態をつかむ必要性を理解し、各々の体力要素の測定方法を習得するとともに評価方法を理解する。 2) 運動習慣が各体力要素に及ぼす影響について理解する。 3) 各スポーツ種目における運動形態・様式から各体力要素に及ぼす影響を理解する。 4) 既成のスポーツに固執することなく、能力差に応じて、ルール等を改変したり、新しいスポーツを創造したりする必要もあることを理解する。 5) 各種スポーツのルールを守り、仲間と共同してプレーするとともに、「楽しさを引き出す方法」「強める方法」を理解する。		
評価方法	平常点80% 出席はもちろんのこと、実技で行うゲーム等への積極的な参加、仲間との協力など取り組む姿勢を重視して評価する。 レポート課題20% 生涯スポーツに向けて、運動の有効性と危険性が理解されているかを評価する。		
授業計画	第1回～第22回共通、授業形態…実技、担当者…石指 体力テスト・運動能力テスト バレーボール バスケットボール テニス バドミントン 卓球 などの種目を適時実施する。また、 テーピング等の応急処置 運動負荷検査法 の実習を実施する。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修課題：実技で行うスポーツについて関連図書・資料などでルールや楽しみ方について考える。 事後学修課題：次に行うための改変すべきルールや協力体制等を考える。		
テキスト	参考資料を配布する。		
参考書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	各自が運動に適した服装、シューズを用意すること。 生涯にわたってスポーツを継続する姿勢を身に付けてほしい。		

講義科目名称： 人体構造学

授業コード： K080270

英文科目名称： Human Anatomy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
西 真弓			
添付ファイル			

全担当教員	西 真弓／秦野 修／東 超／堀井 謹子		
概要	人体の正常な構造を学ぶ。		
目標	1) 人体の構造を機能と関連して理解する。 2) 人体の構造を発生学的な面から理解する。		
評価方法	定期試験 (100%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月6日 (水) 人体構造学総論	講義	秦野
	第2回 2022年4月13日 (水) 組織学総論	講義	秦野
	第3回 2022年4月20日 (水) 骨格系・筋系 1	講義	秦野
	第4回 2022年4月27日 (水) 骨格系・筋系 2	講義	秦野
	第5回 2022年5月11日 (水) 骨格系・筋系 3	講義	秦野
	第6回 2022年5月18日 (水) 心脈管系	講義	秦野
	第7回 2022年5月25日 (水) 呼吸器系	講義	秦野
	第8回 2022年6月1日 (水) 消化器系	講義	東
	第9回 2022年6月8日 (水) 消化器系	講義	東
	第10回 2022年6月15日 (水) 泌尿・生殖器系・内分泌系	講義	堀井
	第11回 2022年6月22日 (水) 泌尿・生殖器系・内分泌系	講義	堀井
	第12回 2022年6月29日 (水) 神経系	講義	堀井
	第13回 2022年7月6日 (水) 神経系	講義	堀井
	第14回 2022年7月13日 (水) 感覚器	講義	西
	第15回 解剖見学実習 時期未定	実習	西・秦野・堀井・東
授業外学修 (事前学修・事後学修)	教科書や参考書等の授業内容の各項目に該当する箇所をよく読み、講義の理解を深める。		
テキスト	入門人体解剖学：藤田恒夫著 (南江堂)		

参考書	系統看護学講座 解剖生理学－人体の構造と機能〔1〕（医学書院）、ラングマン人体発生学（医学書院）
学生へのメッセージ等	解剖学は基礎や臨床の看護学を学ぶ上での根幹となる学問であり、将来臨床の現場に出てからも必須の知識となります。しっかり時間をかけて学んで下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
齋藤 康彦			
添付ファイル			

全担当教員	齋藤 康彦／坂野 公彦		
概要	人体の生理機能について学習し、人体の内部環境の恒常性（ホメオスタシス）の維持機構、及び、神経系による感覚と運動の統御機構を理解する。		
目標	1) ホメオスタシスの維持機構を説明することができる。 2) 血液のはたらきを説明することができる。 3) 循環、呼吸、消化吸収、体液調節のしくみを説明することができる。 4) 内分泌系のしくみとはたらきを説明することができる。 5) 自律神経系、中枢神経系のはたらきを説明することができる。		
評価方法	講義内容を理解できているかを期末試験にて評価する（100％）。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 体液・ホメオスタシス	講義	坂野
	第2回 消化 1	講義	坂野
	第3回 消化 2	講義	坂野
	第4回 呼吸	講義	坂野
	第5回 血液 1	講義	坂野
	第6回 血液 2	講義	坂野
	第7回 循環 1	講義	坂野
	第8回 循環 2	講義	坂野
	第9回 腎臓	講義	齋藤
	第10回 体液調節と自律神経	講義	齋藤
	第11回 内分泌系 1	講義	齋藤
	第12回 内分泌系 2	講義	齋藤
	第13回 神経伝達機構	講義	齋藤
	第14回 感覚器と感覚系	講義	齋藤
第15回 骨格筋と運動系	講義	齋藤	

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容に該当するテキストの箇所を読んでおく。 事後学修：講義内容に沿ったレポート課題を作成し、提出する（レポートを出席確認にも使用する）。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
参考書	特になし
学生へのメッセージ等	生理学は人体のしくみを、分子、細胞、及び、システムのレベルから理解することを目指します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
高澤 伸			
添付ファイル			

全担当教員	高澤 伸／山内 晶世／牧野 舞		
概要	生体の恒常性の維持に必要とされる生体基本物質の構造と機能並びにそれらの代謝に関する知識を習得し、将来の看護の実践のための糧とする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) アミノ酸、タンパク質の一般構造と機能ならびにそれらの代謝の概略を説明できる。 2) 酵素の反応機構ならびにその活性の調節機構の概略を説明できる。 3) 糖質や脂質の一般構造と機能ならびにそれらの代謝の概略を説明できる。 4) 核酸の構造と機能ならびにその代謝の概略を説明できる。 5) 生体基本物質の代謝系の相互関連性について理解できる。 6) 生体の恒常性維持に必要なエネルギーの獲得ならびにその利用について説明できる。 7) 細胞内外の情報伝達物質が生体の恒常性維持にどう関わるのかを理解できる。 8) 上記の各種生体基本物質の質的あるいは量的異常が、病因となることを理解できる。 		
評価方法	試験(100%)：学期末試験(筆記試験)で合格基準点(60点以上)に達すること。試験では生化学的知識(理解)と生化学的思考力を問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年9月21日(水) 生化学を学ぶための基礎知識	講義	高澤 山内 牧野
	第2回 2022年9月28日(水) 代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	高澤 山内 牧野
	第3回 2022年10月5日(水) 糖質の構造と機能	講義	高澤 山内 牧野
	第4回 2022年10月12日(水) 糖質代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第5回 2022年10月19日(水) 脂質の構造と機能	講義	高澤 山内 牧野
	第6回 2022年10月26日(水) 脂質代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第7回 2022年11月2日(水) タンパク質の構造と機能	講義	高澤 山内 牧野
	第8回 2022年11月9日(水) タンパク質代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第9回 2022年11月16日(水) ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第10回 2022年11月30日(水) 遺伝子と核酸	講義	高澤 山内 牧野
	第11回 2022年12月7日(水) 遺伝子の複製・修復・組換え	講義	高澤 山内 牧野
	第12回 2022年12月14日(水) 転写	講義	高澤 山内 牧野
	第13回 2022年12月21日(水) 翻訳と翻訳後修飾	講義	高澤 山内 牧野
	第14回 2023年1月4日(水) シグナル伝達	講義	高澤 山内 牧野

	第15回 2023年1月11日（水） がん	講義	高澤 牧野 山内
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマにそって教科書を読み(各回1章づつ)、内容を理解しておく。また理解できない部分がある場合は、何処が理解できないのかを明確にして講義に臨む。 事後学習：各回の授業内容と関連のある他の講義科目（主に生物学、化学、健康科学、人体構造学、人体機能学、栄養学、病態医学Ⅰ、病態医学Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学）との関連性を整理しておく。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 2 人体の構造と機能[2] 生化学（医学書院）並びに配布するプリントを使用		
参考書	リップンコットイラストレイテッド生化学（丸善）、カラー生化学（西村書店）、シンプル生化学（南江堂）		
学生へのメッセージ等	講義で知りうる詳細な内容全体を暗記するのではなく、基本的項目や重要項目について十分理解できるように努めて欲しい。 他科目の講義や本等で知り得た病気についても、生化学的観点から考察する習慣を身につけて欲しい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
小島 ゆかり			
添付ファイル			

全担当教員	小島 ゆかり		
概要	食は健康の保持・増進に関わる重要な要素の一つである。栄養素の摂取状況は生活習慣病などの疾病の予防・改善に大きく関わっている。そこで本講義では、栄養素の消化・吸収過程やその働きといった基礎的なことを学んだ上で、疾病との関わりなどについて学習することを目的とする。		
目標	食品中の栄養素の体内での吸収や代謝の過程を知り、その働きを理解することができる。さらに種々の疾病に対する食事療法等について理解することができる。		
評価方法	評価方法：受講態度 20%、授業内課題 20%、期末試験 60% 評価基準：授業内課題は、授業テーマの内容を理解できているか、また課題については、自分の考えをまとめて文章にできるかを評価する。期末試験は、授業で学習したことを理解できているかを評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 授業ガイダンス、栄養学とは	講義	小島
	第2回 栄養学概論	講義	小島
	第3回 栄養素の種類とはたらき(1) 炭水化物	講義	小島
	第4回 栄養素の種類とはたらき(2) たんぱく質、脂質	講義	小島
	第5回 栄養素の種類とはたらき(3) ビタミン、ミネラル	講義	小島
	第6回 栄養素の消化・吸収	講義	小島
	第7回 栄養素の代謝	講義	小島
	第8回 エネルギー代謝	講義	小島
	第9回 日本人の食事摂取基準（2020年版）	講義	小島
	第10回 ライフステージと栄養(1) 成長期の栄養	講義	小島
	第11回 ライフステージと栄養(2) 成人期・高齢期の栄養	講義	小島
	第12回 栄養ケア・マネジメント	講義	小島
	第13回 食事療法(1) 肥満、循環器疾患、消化器疾患患者の食事療法	講義	小島
	第14回 食事療法(2) 栄養・代謝疾患患者の食事療法	講義	小島
	第15回 総まとめ	講義	小島

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマにそった教科書の内容を読み、予習しておくこと。 重要点を抽出しておくこと。 事後学習：授業で取り上げたテーマについて復習し、整理しておくこと。
テキスト	・系統看護学講座 「専門基礎 3 人体の構造と機能 (3) 栄養学」 医学書院 ・新食品成分表編集委員会 「新食品成分表」 東京法令出版
参考書	
学生へのメッセージ等	健康な生活を送るための食生活や栄養の重要性を学び、実践に役立つ能力を養ってください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
藤井 智美			
添付ファイル			

全担当教員	藤井智美/武田麻衣子/内山智子/森田剛平/西川武/佐々木翔/杉本澄美玲/畠山金太		
概要	疾病の基本概念を理解するために、病態の成り立ちを器官、組織の変化を通して修得し、看護師として必要な基本的な病理学的知識を身につける。		
目標	1) 種々の病理診断業務を知り、看護に関わる意義を理解する。 2) 病因論を通して疾病の成り立ちを理解する。 3) 疾病の分類を学び、疾病に応じた看護の必要性を理解する。 4) 疾病における器官、組織の変化を理解することで、必要な看護学を学ぶ基礎とする。		
評価方法	筆記テスト(100%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年6月28日 (火) 総論 病理学とは	講義	藤井
	第2回 2022年7月5日 (火) 先天異常・代謝障害、循環障害	講義	武田
	第3回 2022年7月12日 (火) 炎症・免疫と膠原病・感染症	講義	武田
	第4回 2022年7月19日 (火) 腫瘍、老化・死	講義	藤井
	第5回 2022年9月20日 (火) 各論 消化管系の疾患	講義	内山
	第6回 2022年9月27日 (火) 肝・胆・膵の疾患	講義	森田
	第7回 2022年10月4日 (火) 血液・造血器系の疾患	講義	藤井
	第8回 2022年10月11日 (火) 呼吸器系の疾患	講義	武田
	第9回 2022年10月18日 (火) 循環器系の疾患	講義	畠山
	第10回 2022年11月1日 (火) 腎・泌尿器・男性生殖器系の疾患	講義	藤井
	第11回 2022年11月15日 (火) 乳腺・内分泌系の疾患	講義	松岡
	第12回 2022年11月22日 (火) 脳、神経、筋肉の疾患	講義	佐々木
	第13回 2022年11月29日 (火) 骨関節の疾患、耳、眼、皮膚の疾患	講義	内山
	第14回 2022年12月6日 (火) 婦人科系の疾患	講義	杉本
	第15回 2022年12月13日 (火) 病理検査とは	講義	西川

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	系統看護学講座、専門基礎4 病理学、医学書院
参考書	わかる病理学 第2版 小西登編 恒心社出版
学生へのメッセージ等	病気の成り立ちを理解することは、看護に携わる際に極めて重要な知識となるので十分に修得してほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	4	必修
担当教員			
濱田 薫			
添付ファイル			

全担当教員	濱田 薫		
概要	臨床的観点から系統別疾患概念を学び、「疾病のしくみ」を理解する		
目標	内科、外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、眼科、整形外科の各領域について、代表的疾患などの病態を理解し、同時に症状、臨床所見、検査、治療経過、予後などの実際的な臨床的知識を習得する。		
評価方法	1) 期末試験20% 2) 課題レポート40% 3) 講義時の習熟度チェック20% 4) 履修態度20%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	講義	濱田
	病態医学Ⅱ総論		
	第2回	講義	濱田
	呼吸器1		
	第3回	講義	濱田
	呼吸器2		
	第4回	講義	濱田
	呼吸器3		
	第5回	講義	濱田
	循環器1		
	第6回	講義	濱田
	循環器2		
	第7回	講義	濱田
	循環器3		
	第8回	講義	濱田
	消化器1		
第9回	講義	濱田	
消化器2			
第10回	講義	濱田	
消化器3			
第11回	講義	濱田	
代謝1			
第12回	講義	濱田	
代謝2			
第13回	講義	濱田	
内分泌1			
第14回	講義	濱田	
内分泌2			
第15回	講義	濱田	
腎・泌尿器1			
第16回	講義	濱田	
腎・泌尿器2			

	第17回		講義	濱田
		脳神経 1		
	第18回		講義	濱田
		脳神経 2		
	第19回		講義	濱田
		脳神経3		
	第20回		講義	眼科専門医
		眼科 1		
	第21回		講義	眼科専門医
		眼科 2		
	第22回		講義	耳鼻咽喉科専門医
		耳鼻咽喉・頭頸部外科 1		
	第23回		講義	耳鼻咽喉科専門医
		耳鼻咽喉・頭頸部外科 2		
	第24回		講義	整形外科専門医
	整形外科 1			
第25回		講義	整形外科専門医	
	整形外科 2			
第26回		講義	整形外科専門医	
	整形外科 3			
第27回		講義	整形外科専門医	
	整形外科4			
第28回		特別講義	消化器総合外科 庄教授	
	消化器外科特別講義			
第29回		特別講義	河村准教授	
	整形外科特別講義			
第30回		特別講義	消化器総合外科 池田准教授	
	消化器総合外科（乳腺疾患）特別講義			
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	医学書院「系統看護学講座 専門分野 成人看護学」の循環器・呼吸器・消化器・内分泌代謝・脳神経・腎泌尿器・眼科・耳鼻咽喉科・整形外科（運動器）領域			
参考書	ヌーベルヒロカワ 臨床病態学 第2版 文光堂 わかりやすい内科学 第4版 南山堂 看護のための臨床病態学 改訂2版 南江堂 看護のための臨床病態学 第4版			
学生へのメッセージ等	看護学を学ぶ上で必要な医学的知識は膨大で、また高度な内容を要求されています。高いレベルを目標とし、本質を理解し正しいイメージを確立することによって基礎となる事項を習得するという取り組みを期待します。看護職という高度にプロフェッショナルな集団の一員となることを自覚し、日常にあふれる健康に関する情報からも正しい知識を得るようにしてください。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子		
概要	看護学における基礎となる主要概念（人間、生活、健康、環境、看護）について、自己成長や生活について観察し、グループワークを通して学習する。 自己の看護観を育むために、看護実践や歴史について探索し、看護行為や看護倫理や看護の専門性について学ぶ。		
目標	1) 時代の変遷における看護の社会的な役割・機能について述べるができる。 2) 健康状態と環境の変化について述べることができ、保健・医療・福祉に携わる人々の役割機能と看護活動について理解する。 3) 看護を構成する5つの主要概念（人間・生活・健康、環境、看護）について観察する視点が理解できる。 4) 看護実践における倫理的側面、看護技術、看護の専門性について説明することができる。		
評価方法	授業参加度（20%）、課題レポート（60%）、知識習得度確認（20%）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 看護の役割・機能、その対象を捉える視点（人・健康・生活・環境）について 人の発達段階とその環境の変化や健康行動について	講義	松田
	第2回 生活することの意味や生活過程について	講義・演習	松田
	第3回 保健医療福祉システムと看護活動について	講義・演習	松田
	第4回 看護の歴史について	講義	松田
	第5回 健康状態と保健行動および環境の変化について	講義	松田
	第6回 看護専門性、看護実践と看護倫理	講義	松田
	第7回 看護専門性、看護実践と看護理論	講義	松田
	第8回 知識習得度確認・まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：単元のテーマに沿って教科書を読む。目標を達成するための課題レポートを出題するため、課題に取り組み臨むこと 事後学修：各単元で取り上げた内容について自己の考えを整理しておく。		
テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学①看護学概論 メジカルフレンド社		
参考書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	日頃の生活を振り返り、健康や生活に関心をもっていきましょう。講義を通して自己の看護に対する考えを深めていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			
全担当教員 松田 明子／吉川 あゆみ／徳谷 純子／浅野 沙奈絵／白田 梨奈			
概要	本科目では、講義や演習を通して、全ての看護援助に共通する基本的な姿勢や、コミュニケーション、感染予防、ボディメカニクスなどの看護援助の知識・技術・態度の習得を目指す。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人関係構築のためのコミュニケーションの技術を理解し説明できる。 2. 感染予防における基礎知識を理解し、適切な感染予防の技術を習得する。 3. ボディメカニクスの原理を理解し実施できる。 4. 療養環境を整える目的を理解し、環境の調整・整備を習得できる。 5. グループメンバーを思いやり、協力して行動することができる。 6. 演習の目的に応じて、授業で使用する物品を適切かつ丁寧に扱うことができる。 7. 体調を整え健康管理に取り組むことができる。 8. 看護学生としてふさわしい態度・姿勢で授業に取り組むことができる。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加度：10%、2. 演習前後の課題：20%、3. 最終レポート：40%、4. 小テスト：30% <p>*本科目では、定期試験は行わない。上記の1～4により総合的に評価する。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション 看護援助とは 看護における観察の意義	講義	松田
	第2回 人間関係を成立・発展させるための技術	講義	吉川
	第3回 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術	講義	白田 他
	第4回 快適な環境をつくる技術①	講義	松田、浅野 他
	第5回 快適な環境をつくる技術②	演習 演習	松田、浅野 他
	第6回 感染予防を推進する技術①	講義	徳谷 他
	第7回 感染予防を推進する技術②	演習	徳谷 他
	第8回 小テスト、まとめ	講義	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元に沿って教科書の該当箇所を読む。また各授業で事前課題が提示された場合は課題に取り組む 事後学修：各単元の復習および各授業で事後課題が提示された場合は課題に取り組む。また、各単元の講義・演習内容を各自で復習し、自己学習ノート等にまとめ、整理する。		
テキスト	松尾ミヨ子, 他 「ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(株式会社 メディカ出版, 2022) 松尾ミヨ子, 他 「ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ」(株式会社 メディカ出版, 2022)		
参考書	医療情報科学研究所編 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 (メディックメディア, 2018) 任 和子 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院, 2017) 吉田みつ子 看護技術 ナラティブが教えてくれたこと (医学書院, 2014) その他、授業で随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	看護援助の基本では、全ての看護援助において共通して大切な知識・技術・姿勢を学びます。ぜひ、体調を整えて主体的に演習に臨んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			
全担当教員 松田 明子／浅野 沙奈絵／白田 梨奈／吉川 あゆみ			
概要	本科目では、講義・演習を通して、対象者の健康を促進するために必要な日常生活行動の援助技術について学習する。看護師、患者、観察者の3つの役割に分かれ日常生活援助(車椅子移送、清潔援助、食事援助など)を学び、対象者の安全・安楽・自立を実現できるような援助を行う。		
目標	1. 看護職者が日常生活行動の援助を行う意義を説明できる。 2. 日常生活援助の看護基本技術について、原理・原則を理解し説明できる。 3. 対象者の安全・安楽・自立の視点にたち、日常生活援助の技術を習得できる。		
評価方法	定期試験：50%、演習前後の課題：40%、授業参加度：10%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション、バイタルサインとは	講義	松田 他
	第2回 バイタルサインの測定	演習	松田 他
	第3回 バイタルサインの測定	演習	松田 他
	第4回 活動・運動を支援する技術	講義	松田
	第5回 活動・運動を支援する技術	演習	松田 他
	第6回 安楽かつ快適さを確保する技術	講義	浅野
	第7回 身体の清潔を援助する技術	講義	松田
	第8-12回 身体の清潔を援助する技術	演習	浅野、松田 他
	第13回 排泄を促す技術	講義・演習	浅野 他
	第14-15回 食事・栄養摂取を促す技術、まとめ	講義・演習	長谷川、松田
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修：各単元に沿って教科書の該当箇所を読む。また各授業で事前課題が提示された場合は課題に取り組む 事後学修：各単元の復習および各授業で事後課題が提示された場合は課題に取り組む。また、各単元の講義・演習内容を各自で復習し、自己学習ノート等にまとめ、整理する。		
テキスト	1. 松尾ミヨ子, 他 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(株式会社 メディカ出版, 2022) 2. 松尾ミヨ子, 他 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ」(株式会社 メディカ出版, 2022)		
参考書	1. 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版」(メディックメディア, 2018) 2. 大久保暢子 日常生活行動からみるヘルスアセスメントー看護形態機能学の枠組みを用いて (日本看護協会出版社, 2016) 3. 任 和子「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院, 2017) 4. 吉田みつ子 看護技術 ナラティブが教えてくれたこと (医学書院, 2014) その他、授業で随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	例えば、人間にとって「食べる」とはどういう意味があるのでしょうか。「排泄する」についてはどうでしょうか？ この科目では、皆さんが普段の生活の中で何気なく行っている日常生活行動が阻害された方に対する基本的な援助方法を学びます。また、本科目は基礎看護学実習Ⅱ履修のための前提科目です。		

講義科目名称： フィジカルアセスメント

授業コード： K090460

英文科目名称： Physical assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			
全担当教員 松田 明子／三好 雅之／吉川 あゆみ／浅野 沙奈絵／白田 梨奈／			
概要	対象者の健康状態を査定するために必要な基本的なフィジカルイグザミネーションを習得し、系統的にフィジカルアセスメントできる知識・技術を習得する。		
目標	1. 看護基本技術に必要な身体診察技術の方法について述べることができる。 2. 基本的なフィジカルイグザミネーションを安全に正確に実施することができる。 3. 情報収集・判断・実施・評価の一連のプロセスを踏まえた看護実践ができる。		
評価方法	・授業参加度 (20%) ・課題レポート (60%) ・小テスト (20%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 フィジカルアセスメントとは/身体診察技術とその観察方法	講義	松田
	第2・3回 呼吸器・循環器系フィジカルアセスメント	演習	松田 他
	第4回 運動器・脳神経系のフィジカルアセスメント	演習	松田 他
	第5回 消化器系のフィジカルアセスメント	演習	松田 他
	第6回 知識習得度確認/事例検討		松田
	第7・8回 統合演習：事例検討	演習	松田 他
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修：科目に必要な解剖生理学の知識を学習して臨むこと。各単元に示す学習内容に取り組み、演習に臨むこと。 事後学修：各単元に示す内容を学習すること。		
テキスト	フィジカルアセスメント完全ガイド 学研 基礎看護技術 南江堂 2018		
参考書	関連科目で用いるテキスト		
学生へのメッセージ等	演習・講義を通して、看護実践に活用できるヘルスアセスメントの視点を学び、適切かつ安全な看護基本技術を身につけていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子／白田 梨奈／吉川 あゆみ		
概要	対象者が健康によりよく生きていくことを支援する看護実践活動に必要な理論と方法論について学び、看護援助を意図的かつ科学的に実施していくために、対象者の健康状態を的確にアセスメントし、個別性のある看護を展開するための基礎的な技術を身につける。 本科目では、V.ヘンダーソンの14の基本的看護の構成要素に基づき、事例を用いて看護過程の展開を行い、看護を実践する思考方法の基本である看護過程の基本的な考え方と方法を学ぶ。また、臨床推論等を取り入れながら、事例の看護過程の展開を通して、看護の役割を考える。 授業は、自らの力で考える能力が身につくよう、講義、個人ワーク、グループワークを組み合わせで行う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における看護過程の意義が説明できる。 2. 看護過程を構成する要素とそのプロセスについて説明できる。 3. 事例を通して、看護過程の各段階における思考方法を説明できる。 4. 事例を用いて看護過程の展開ができる。 5. 事例の看護過程を展開して考えた看護の役割について、自己の考えを述べることができる。 6. グループワークに、自己の考えを述べつつ仲間の考えを聴き、ともに学ぶ姿勢で取り組むことができる。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート：60%（提出状況10%、完成度50%） 各回の課題提出状況と、提出物の完成度で評価する。 2. 小テスト：30% 看護過程に関する知識の確認として2～3回実施する。 3. 授業及び課題への取り組み姿勢：10% ※定期試験は実施しない。1～3により総合的に評価する。 		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス／看護過程とは ・看護過程と問題解決過程 ・看護過程の構成要素と相互関係 ・V.ヘンダーソンの理論に基づく看護の実践 *事例提示	講義	松田・白田
	第2～3回 情報収集とアセスメント ・情報収集の意義と情報の種類 ・V.ヘンダーソンの基本的看護の構成要素の視点に基づいた情報収集と整理 ・情報の持つ意味（解釈・分析・判断・推測）	講義	白田，他
	第4～5回 看護問題の明確化・統合・優先順位① ・全体像把握のための関連図の意義と内容 ・アセスメントとの関連、問題の統合 ・問題の優先順位 *小テスト①（看護過程と問題解決過程、看護過程の構成要素と相互関係）	講義	白田，他
	第6回 看護問題の明確化・統合・優先順位② グループワーク	講義・演習	白田，他
	第7-8回 看護問題の明確化・統合・優先順位③ 発表会 *小テスト②（情報収集とアセスメント、看護問題の明確化、統合、優先順位）	講義・演習	白田，他
	第9回 看護目標の設定と看護計画 看護計画の実施と評価①	講義	白田，他
	第10回 看護目標・看護計画の確認 グループワーク	講義・演習	白田，他
	第11～12回 看護計画の実施と評価② グループワーク	講義・演習	白田，他
	第13～14回 事例の看護過程のまとめ 事例を通して考えたその人らしさとは	講義	松田・白田，他

	第15回 まとめ *小テスト③(看護目標の設定、看護計画、実施、評価)	講義	松田・白田
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修: テキストの該当範囲を読む。課題の個人ワークに取り組む。 事後学修: 各回の授業で学習した内容に基づき、課題の個人ワークに取り組む。 授業でフィードバックされた内容について、各自で提出課題を見直し、不十分な点を修正する。		
テキスト	1. 宮脇美保子「新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論」(メヂカルフレンド社) 2. ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)		
参考書	秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」(ノーヴェルヒロカワ) その他、授業中に適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	看護過程を展開するには、病態医学、人体構造学、人体機能学、栄養学や、看護学概論、看護援助の基本、フィジカルアセスメント、看護技術学I等の知識を活用します。 授業には、既習の知識の復習と、教科書の該当範囲を読む等による予習や、課題学習を行い、自分の考えを持って臨んで下さい。 疑問点等は、積極的に質問し解決に努めること。 本科目は、2年次の「基礎看護学実習II」を履修するための先修科目です。		

講義科目名称： 基礎看護学実習 I

授業コード： K080500

英文科目名称： Fundamental Nursing Practicum I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田明子、吉川あゆみ、白田梨奈、浅野沙奈絵
概要	基礎看護学実習 I では、実際に奈良県立医科大学附属病院に赴き、病院の施設・設備、また対象者の療養環境について理解を深めることを目的としている。また各病棟では、実際に看護師の活動や対象者との関わりを観察し、既習内容と併せて実習目標の理解を深める。
目標	1. 病院の施設・設備・機能を理解し説明できる。 2. 様々な健康段階にある対象者の療養環境を理解し説明できる。 3. 看護師の役割を理解し説明できる。 4. 看護学生として学ぶために基本的な態度をとることができる。
評価方法	実習要項に準ずる。
授業計画	基礎看護学実習 I の要項を参照
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：既習内容である「看護学概論」「看護援助の基本」「看護技術学 I」の復習に取り組む。 事後学修：実習での体験やカンファレンス等から得た学びや、実習を通して考えた看護の役割等について、自己の考えを整理して看護観を深め、今後の課題を明確化する。
テキスト	今までの授業で用いたテキスト
参考書	今までの授業で紹介した参考書
学生へのメッセージ等	基礎看護学実習 I は、みなさんが看護学生として初めて取り組む実習です。実習を通して、みなさんには、患者さんが療養生活を送る病院・病棟とはどんな場所なのか？そして、看護師はどのような活動をしているのか？また、どのように対象者と関わっているのか？ということをしっかり見て、そして考えてほしいと思います。実習前の授業ですでに学んだ内容を総動員し、五感をフル活用して実習に取り組みましょう！

4. 2年次開講科目の授業内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
中川 晶・田中佐和子			
添付ファイル			

全担当教員	中川 晶／田中 佐和子		
概要	看護を実践する中では、相手を受容し共感しながら、援助的な人間関係を形成することが望まれる。この授業では、看護に必要な心理的援助のあり方について、カウンセリングの理論と技法を通し習得することを目的とする。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心について関心を持ち、理解しようとする姿勢を身につける。 ・カウンセリングについての理論と技法を理解し、基本的態度を体験的に学ぶ。 ・事例より、実際の心理的援助のあり方を検討する。 		
評価方法	<p>評価方法：講義内で実施する小レポート（50%）、期末レポート（50%）</p> <p>評価基準：小レポートは、各講義テーマについて理解し、自分なりの視点で意見が述べられているか。期末レポートは、カウンセリングの視点から、事例を通して自分の考え、関わり方、援助の仕方について考察しているか。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年9月16日（金） 現代社会とカウンセリング	講義	田中
	第2回 2022年9月30日（金） カウンセリングの視点（1）心理援助の基本的構図	講義・演習	田中
	第3回 2022年10月7日（金） カウンセリングの視点（2）発達・認知・行動	講義	田中
	第4回 2022年10月21日（金） 援助的コミュニケーションの技法(1)関わることとは	講義・演習	田中
	第5回 2022年10月28日（金） 援助的コミュニケーションの技法(2) 聴くこととは	講義・演習	田中
	第6回 2022年11月4日（金） ストレス・マネジメント／レジリエンス	講義・演習	田中
	第7回 2022年11月11日（金） 心理アセスメント(1)自死予防と現状	講義・演習	田中
	第8回 2022年11月18日（金） 心理アセスメント(2)メンタルヘルス	講義・演習	田中
	第9回 2022年11月25日（金） 心理アセスメント(3)緊急支援	講義・演習	田中
	第10回 2022年12月2日（金） 箱庭療法ほか 事例を通して DVD視聴	講義・演習	田中
	第11回 2022年12月9日（金） トラウマとPTSD—トラウマ回復支援	講義・演習	田中
	第12回 2022年12月16日（金） 働く人のメンタルヘルス	講義・演習	田中
	第13回 2022年12月23日（金） 看護に活かすカウンセリング：アサーション・トレーニング	講義・演習	田中
	第14回 2023年1月6日（金） 臨床心理学的地域援助・事例研究 ニート・ひきこもりの支援	講義	田中
第15回 ストレスの正体	講義	中川	

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマについて、資料の中から関心のある項目について自分の考えをまとめておく。 事後学習：講義内容の中から、自分が関心を持った項目について、どのように理解したか、活用していくにはどうしたら良いかについて洞察を深める。		
テキスト	授業中に適宜配布。		
参考書	管佐和子編著「医療現場に活かす臨床心理学」 朱鷺書房 玉瀬耕治著「カウンセリングの技法を学ぶ」有斐閣 窪田由紀・森田美也子・氏家達夫監修 河野荘子・金子一史・清川幸子編著「こころの危機への心理学的アプローチ」金剛出版 平木典子編著「ナースのためのアサーション」 金子書房		
学生へのメッセージ等	自己他者理解・自己表現を促すためにも積極的な参加が求められる。 こころの支援について、個人・コミュニティ・社会といった多様な視点から考えていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	選択
担当教員			
堀 あきこ			
添付ファイル			

全担当教員	堀 あきこ		
概要	私たちにとって当たり前のような存在である「家族」。その家族について、改めて学ぶことに一体どのような意義があるのだろうかと思われられるかも知れません。しかし、家族について学ぶことは、皆さんの将来を展望するうえで大きな意味を持つことになるでしょう。なぜなら家族は介護や看護、子育てと深く関わっているだけでなく、労働や貧困など、様々な社会的問題ともつながっているからです。この授業では、「家族」とはいったい何であるのかを問い直します。そして、家族を軸に、戦後の社会構造の変容や日本社会がはらみもつ諸問題を学び、「家族」を客観的に考えることから、他者とのつながりや社会のあり方を検討していきます。		
目標	①家族に関する基本的概念を、基礎的なデータや文献から理解できること。 ②現代社会における家族を取り巻く諸問題について、データから考察できること。 ③問題解決に取り組むための基礎知識を学び、自らの意見を記述できること。		
評価方法	評価方法：授業参加度と各授業の課題（50%）、期末レポート（50%） 評価基準：各授業の課題は、提示したキーワードについて、適切なデータを用いて調べられているか（事前学修）。期末レポートは、自分の問題意識を客観的なデータや理論を用い、整理して論じられているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2022年4月6日（水） 「家族」とは何か 家制度、近代家族の成立（ガイダンスを含みます）	講義	堀
第2回	2022年4月13日（水） 家族と少子高齢化社会 人口動態変化、少子高齢化にともなう諸問題について	講義	堀
第3回	2022年4月20日（水） 家族と労働 性別役割分業、長時間労働、非正規雇用について	講義	堀
第4回	2022年4月27日（水） 家族と結婚 結婚の変化、晩婚化・未婚化、同性婚、LGBTQについて	講義	堀
第5回	2022年5月11日（水） 家族とケア 家事労働、育児、介護について	講義	堀
第6回	2022年5月18日（水） 家族と暴力 親子間暴力、DV（ドメスティック・バイオレンス）について	講義	堀
第7回	2022年5月25日（水） 家族と福祉 社会保障、生活保護、貧困について	講義	堀
第8回	2022年6月1日（水） 家族の多様性 もう一度、「家族」の範囲を考える	講義	堀
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：授業中に提示するキーワードについて、次の授業までに適切なデータを用いて調べ、まとめておく。 事後学修：事前学修の内容と授業の説明を照らし合わせ、授業のテーマとともに確認しておく。		
テキスト	使用しない。授業中にプリントを配布する。		
参考書	岩間暁子・大和礼子・田間泰子著（2015）『問いからはじめる家族社会学ー多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣。神原文子・竹田美知・杉井潤子編著（2016）『よくわかる現代家族【第2版】』ミネルヴァ書房。他の文献は授業中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	授業中に提示するキーワードについて、次の授業まで調べておくこと（事前学修）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			

全担当教員	Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Blodgett Michael/北澤 良子
-------	---

概要	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening) の育成を目的とする。さらに、看護と医療に関する様々なトピックを英語で学習することで、語学力、知識、語彙、批判的思考力を高める。
----	---

目標	<p>前期に以下のことを習得する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護と医療に関する様々なトピックについて、英語で流暢に書き、読み、議論する 2. 関連する看護・医療の英語の語彙を理解し、使用する 3. 看護・医療のトピックに関連した様々な英語の文章を読解し、議論する 4. 日本で暮らしている外国人にとって重要な公衆衛生について英語で議論し文章作成する。
----	---

評価方法	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする(例：3回欠席= -5%、4回欠席= -10%、5回欠席= -15% etc.)。 ・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内の活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題(授業課題、宿題etc.)が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。 <p>評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題と授業への参加 = 10% ・speaking の流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。 ・reading の流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は最後の reading の流暢小テストで60%正解すること。 ・writing の流暢さ = 10% ・毎週実施する看護・医療に関する語彙の小テスト = 10%※ ※単位取得の為には最後の復習クイズで60%正解すること。 ・ビデオの小テスト = 10% ・公衆衛生のグループプロジェクト = 20% ・期末試験 = 40%※ ※ 期末試験の最低合格点は20点(満点は40点)です。また、期末試験は3セクションで構成されています。それぞれのセクションごとの得点が、合格に必要な最低点以上あること。(各セクションの合格判定割合は40%)
------	---

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第α週	2022年4月9日 (土) 9:00 am - 5:00 pm, Saturday, 9 April TOEFL Test (at NMU)	試験	Bolstad Mathieson Blodgett
第1週	2022年4月12日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 12 April Orientation	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第2週	2022年4月19日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 19 April UNIT 1A Why Do Nurses Need English?	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第3週	2022年4月26日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 26 April UNIT 1B Why Do Nurses Need English? II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第4週	2022年5月10日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 10 May UNIT 2A Sleep	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第5週	2022年5月17日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 17 May	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤

	UNIT 2B Sleep II		
第6週	2022年5月24日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 24 May UNIT 3A Stress	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第7週	2022年5月31日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 31 May UNIT 3B Stress II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第8週	2022年6月7日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 7 June UNIT 4A Nutrition	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第9週	2022年6月14日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 14 June UNIT 4B Nutrition II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第10週	2022年6月21日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 21 June UNIT 5A Hygiene	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第11週	2022年6月28日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 28 June UNIT 5B Hygiene II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第12週	2022年7月5日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 5 July SPECIAL UNIT Public Health Group Project - Presentations	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第13週	2022年7月12日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 12 July REVIEW 1 Units 1 - 5 Public Health Group Project Review Paper due Vocabulary Review Test Speed Reading Review Test	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第14週	2022年7月19日 (火) 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 19 July REVIEW 2	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第15週	2022年7月26日 (火) Tuesday, 26 July EXAM	試験	
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	Murphy, R. (2017). Grammar in Use - Intermediate. Cambridge University Press. ISBN-10: 4889969233 ISBN-13: 978-4889969238		
参考書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			

全担当教員	Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Blodgett Michael/北澤 良子		
概要	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening) の育成を目的とする。さらに、看護と医療に関する様々なトピックを英語で学習することで、語学力、知識、語彙、批判的思考力を高める。		
目標	前期に以下のことを習得する： <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護と医療に関する様々なトピックについて、英語で流暢に書き、読み、議論する 2. 関連する看護・医療の英語の語彙を理解し、使用する 3. 看護・医療のトピックに関連した様々な英語の文章を読解し、議論する 4. 異文化理解に関するポスタープレゼンテーション、議論及び文章作成を英語で行う。 		
評価方法	出席、授業課題、宿題： <ul style="list-style-type: none"> ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする (例：3回欠席 = - 5%、4回欠席 = - 10%、5回欠席 = - 15% etc.)。 ・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題(授業課題、宿題etc.)が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。 評価： <ul style="list-style-type: none"> ・宿題と授業への参加 = 10% ・speakingの流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為に合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。 ・readingの流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為に合格基準は最後のreadingの流暢小テストで60%正解すること。 ・writingの流暢さ = 10% ・毎週実施する看護・医療に関する語彙の小テスト = 10%※ ※単位取得の為に最後の復習クイズで60%正解すること。 ・ビデオの小テスト = 10% ・異文化理解へのグループプロジェクト = 20% ・期末試験 = 40% ※ 期末試験の最低合格点は 20 点(満点は 40 点)です。また、期末試験は 3 セクションで構成 されています。それぞれのセクションごとの得点が、合格に必要な最低点以上あること。(各セクションの合格判定割合は 40%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1週	2022年9月20日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 20 September Orientation	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第2週	2022年9月27日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 27 September UNIT 6A Health & Happiness	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第3週	2022年10月4日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 4 October UNIT 6B Health & Happiness II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第4週	2022年10月11日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 11 October UNIT 7A Pain	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第5週	2022年10月18日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 18 October UNIT 7B Pain II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第6週	2022年10月25日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 25 October SPECIAL UNIT	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤

	Nursing & Intercultural Understanding		
第7週	2022年11月1日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 1 November UNIT 8A Mental Health	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第8週	2022年11月8日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 8 November UNIT 8B Mental Health II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第9週	2022年11月15日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 15 November UNIT 9A Ageing	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第10週	2022年11月22日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 22 November UNIT 9B Ageing II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第11週	2022年11月29日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 29 November UNIT 10A Death & Dying	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第12週	2022年12月6日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 6 December UNIT 10B Death & Dying II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第13週	2022年12月13日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 13 December SPECIAL UNIT Nursing & Intercultural Understanding - Poster Presentations (Preparation)	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第14週	2022年12月20日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 20 December SPECIAL UNIT Nursing & Intercultural Understanding - Poster Presentations	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第15週	2023年1月10日 (火) 9:00am-10:30am & 10:40am-12:10pm, Tuesday, 10 January REVIEW Intercultural Understanding Review Paper due Vocabulary Review Test Speed Reading Review Test	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
第16週	2023年1月17日 (火) Tuesday, 17 January EXAM	試験	
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 0521189063 ISBN-13: 978-0521189064		
参考書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。		

講義科目名称： 微生物学

授業コード： K080170

英文科目名称： Microbiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
矢野 寿一			
添付ファイル			

全担当教員	矢野 寿一／中野 竜一／中野 章代／鈴木 由希		
概要	感染症の原因となる病原微生物の基礎的知識を習得し、適切な感染防御策をとることができる。		
目標	1) 微生物についての基礎的知識を学ぶ 2) 滅菌と消毒の概念と手段を学び、新型コロナウイルスを含めた感染予防策を理解する 3) 病院で行われる微生物検査法を理解する		
評価方法	評価方法：筆記試験80点、レポート20点、合計100点のうち、60点以上を合格とする。 評価基準：レポートは講義で学習した微生物（細菌、ウイルス）から一つ選び、まとめるものであるが、教科書を写すだけでなく、講義で学んだ内容が整理され記載されているかを重要視する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1回目 2022年4月12日（火） 4限目 微生物学の歴史と感染症	講義	矢野
	2回目 2022年4月19日（火） 4限目 総論：微生物とは、形態、機能、代謝	講義	中野章代
	3回目 2022年4月26日（火） 4限目 院内感染対策1：標準予防策と個人防護具	講義	鈴木
	4回目 2022年5月10日（火） 4限目 院内感染対策2：感染経路別予防策と職業感染対策	講義	鈴木
	5回目 2022年6月1日（水） 1限目 微生物検査1	講義	矢野
	6回目 2022年6月15日（水） 1限目 微生物検査2	講義	矢野
	7回目 2022年6月21日（火） 4限目 滅菌と消毒	講義	鈴木
	8回目 2022年6月22日（水） 4限目 細菌学各論1：グラム陽性菌	講義	中野竜一
	9回目 2022年6月28日（火） 4限目 細菌学各論2：グラム陰性菌	講義	中野竜一
	10回目 2022年6月29日（水） 4限目 抗菌化学療法	講義	鈴木
	11回目 2022年7月5日（火） 4限目 薬剤耐性菌1：グラム陽性菌	講義	中野竜一
	12回目 2022年7月6日（水） 4限目 薬剤耐性菌2：グラム陰性菌	講義	中野竜一
	13回目 2022年7月12日（火） 4限目 ウイルス総論、各論	講義	中野章代
	14回目 2022年7月13日（水） 4限目 乳酸菌などその他の細菌	講義	中野章代
	15回目 2022年7月20日（水） 1限目 まとめ	講義	矢野

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	感染制御の基本がわかる『微生物学・免疫学』羊土社
参考書	『統計看護学講座 専門基礎6 微生物学』医学書院 『微生物学・感染看護学』医歯薬出版
学生へのメッセージ等	Infection Control Nurse（感染管理認定看護師）を目指しませんか？

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
浅野 弘明			
添付ファイル			

全担当教員	浅野 弘明		
概要	情報機器、特に、パソコンの使いこなしは、学生や社会人にとって必須の知識・技術となっている。パソコンを使いこなす上で必要となる知識や操作方法を、実習を通じ学習し、パソコンの有効活用につなげる。		
目標	機器やネットに関する基礎知識を理解するとともに、代表的なアプリケーションソフトである「ワープロ、表計算、プレゼンテーション」を中心に、機能や使い方を習得し、使いこなしのレベル向上を目指す。		
評価方法	講義への参加意欲(30%)、各種課題に対する取り組み(40%)、最終課題(30%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	実習	浅野
	授業の進め方、機器構成・基本用語の説明 各種アプリケーションソフトの基本機能		
	第2回	実習	浅野
	ワードの使い方1、エクセルの使い方1、 パワーポイント(PP)の使い方1		
	第3回	実習	浅野
	ワードの使い方2、エクセルの使い方2、PPの使い方2		
	第4回	実習	浅野
	情報セキュリティについて(USBメモリの取り扱い方) ワードの使い方3、エクセルの使い方3、PPの使い方3		
	第5回	実習	浅野
	ネット検索1、ファイル・フォルダーの基礎 ワードの使い方4、エクセルの使い方4、PPの使い方4		
	第6回	実習	浅野
	ネット検索2、ファイル・フォルダーの管理1 ワードの使い方5、エクセルの使い方5、PPの使い方5		
	第7回	実習	浅野
ネット検索3、ファイル・フォルダーの管理2 ワードの使い方6、エクセルの使い方6、PPの使い方6			
第8回	実習	浅野	
エクセルの使い方7(グラフ作成1)、PPの使い方7 PPを用いたプレゼン資料の作成1			
第9回	実習	浅野	
エクセルの使い方8(グラフ作成2)、PPの使い方8、 PPを用いたプレゼン資料の作成2			
第10回	実習	浅野	
エクセルの使い方9(グラフ作成3)、 PPを用いたプレゼン資料の作成3			
第11回	実習	浅野	
エクセルの使い方10(マクロ機能1) PPを用いたプレゼン資料の作成4			
第12回	実習	浅野	
エクセルの使い方11(マクロ機能2) PPを用いたプレゼン資料の作成5			
第13回	実習	浅野	

	PPを用いたプレゼン資料の発表 1		
	第14回	実習	浅野
	PPを用いたプレゼン資料の発表 2 エクセルの使い方 (まとめ)		
	第15回	実習	浅野
	まとめ、最終課題		
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	特になし (教材用資料は当日USB等に配付)		
参考書	特になし		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 病態医学Ⅲ

授業コード： K080330

英文科目名称： Clinical Medicine Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	4	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作、福島 英賢、川井 廉之、前川 尚宜、瓜園 泰之、山崎 正晴、内田 優美子、大前 隆志、荻原 建一、長谷川 真理、大西 智子、鮫島 謙一、田中 晴之、阿部 龍一、木村 麻衣、長安 実加、伊藤 高広、西尾福 英之、森澤 洋介、清水 卓斗		
概要	疾患の病態生理を学習し、臨床的に系統別疾患概念の理解を深め、「疾病のしくみ」を把握する。		
目標	内科学（血液疾患、免疫疾患）、救急医学、産婦人科学、小児科学、臨床検査医学、麻酔科学、放射線医学、泌尿器科学、精神医学の各領域における代表的な疾患の病態・治療・検査と臨床所見について理解する。		
評価方法	評価方法：前期試験の他に2回中間試験を行う。中間試験（60%）、前期試験（40%） 評価基準：各領域における代表的な疾患の病態・治療・検査と臨床所見について理解できているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 救急医学 1	講義	福島
	第2回 救急医学 2	講義	福島
	第3回 救急医学 3	講義	川井
	第4回 救急医学 4	講義	前川
	第5回 救急医学 5	講義	瓜園
	第6回 臨床検査医学	講義	山崎
	第7回 小児科学 1	講義	内田
	第8回 小児科学 2	講義	大前
	第9回 小児科学 3	講義	荻原
	第10回 小児科学 4	講義	長谷川
	第11回 小児科学 5	講義	大西
	第12回 内科（膠原病・アレルギー疾患）	講義	鮫島
	第13回 内科（血液疾患1）	講義	田中
	第14回 内科（血液疾患2）	講義	田中
	第15回 麻酔科学	講義	阿部
	第16回	講義	木村

	産婦人科学 1		
第17回	産婦人科学 2	講義	木村
第18回	産婦人科学 3	講義	長安
第19回	産婦人科学 4	講義	長安
第20回	放射線医学 1	講義	伊藤
第21回	放射線医学 2	講義	西尾福
第22回	泌尿器科学 1	講義	森澤
第23回	泌尿器科学 2	講義	清水
第24回	精神医学 1 正常と異常 精神症状	講義	太田
第25回	精神医学 2 統合失調症	講義	太田
第26回	精神医学 3 気分障害、神経症	講義	太田
第27回	精神医学 4 神経症各論、心身症	講義	太田
第28回	精神医学 5 アルコール依存、薬物依存	講義	太田
第29回	精神医学 6 児童思春期精神医学	講義	太田
第30回	精神医学 7 老年性精神障害、認知症	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそって教科書を読み、提示された事前学修用問題に取り組む。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
テキスト	系統看護学講座「成人看護学② 呼吸器」～「成人看護学⑮ 歯・口腔」 医学書院 系統看護学講座「母性看護学② 母性看護学各論」 医学書院 系統看護学講座「小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院 系統看護学講座「精神看護学① 精神看護の基礎」 医学書院		
参考書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	授業内容が多く、範囲が膨大であるが挫折せずがんばりましょう。		

講義科目名称： 看護倫理学

授業コード： K160420

英文科目名称： Nursing Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子／安藤 泰至／伊藤 雪絵／大河内 大博		
概要	現代医療において看護師は、日常診療やケアにおいてさまざまな意思決定場面に遭遇し、倫理的課題に直面する。そのなかで看護師は、適切に患者に支援する債務がある。看護師が患者に適切に倫理的支援を行うためには、看護学生自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養う必要がある。本科目では、患者の意思決定支援や患者を擁護する方法や倫理原則について学び、グループで討議し、自らがその価値観の感性を育くみ、研鑽する姿勢を養う。また、医療チームにおける看護の役割について、どのように患者の倫理的課題に気づき、取り組むのかを検討し、看護職として協働していく役割について学ぶ。		
目標	1. 看護実践における倫理的課題に気づき、科学的に分析し、その対策が立案できる。 2. 患者を擁護する方法について学び、自らがその価値観の感性を育成し、研鑽していく姿勢を養う。 3. 自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養う。		
評価方法	授業参加度 (20%) , 課題レポート (60%) 小テスト (20%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1・2回 看護実践のための倫理的概念・倫理原則	講義	松田
	第3-5回 看護実践における倫理的課題とその対処 ケースで考える臨床現場の倫理的ジレンマ/事例分析	講義	伊藤雪絵・松田
	第6回 知識習得度確認/事例発表	演習	伊藤雪絵・松田
	第7回 終末期医療における倫理的課題	講義	安藤泰至
	第8回 看護実践における倫理的感性の育成とその課題	講義	大河内大博
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：ICN看護師の倫理綱領について読む 事後学修：指示された用紙に、各单元ごとに「学びと課題」について記入する。		
テキスト	1年次看護学概論使用したテキスト		
参考書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義を通して自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養っていこう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子／浅野 沙奈絵／白田 梨奈／吉川 あゆみ		
概要	治療・検査、及び与薬など、診療に伴う援助技術の基本を学ぶ。演習では、無菌操作、酸素吸入療法、吸引、導尿、包帯法、採血法や注射法等の基本技術について学習する。診療に関わる援助を患者が安全・安楽に確実に受けるための基礎的技術を習得することを目指す。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う援助技術の目的及び対象者の観察の視点について説明できる。 2. 診療に伴う看護援助を、安全・安楽・自立の視点で具体的に方法を考え、説明できる。 3. 診療に伴う援助技術の原理・原則を理解し、根拠に基づき安全かつ確実な技術を習得できる。 4. 身体侵襲を伴う援助が、対象者の心身に及ぼす影響について述べるができる。 		
評価方法	定期試験：40%、演習記録（事前・事後課題）：45%、授業参加度：15%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス／診療補助業務とは／6Rとは 与薬と看護①：経口与薬法	講義	松田
	第2回 感染予防技術①	講義	吉川
	第3～4回 感染予防技術② 無菌操作	演習	吉川，他
	第5回 創傷管理の援助技術 包帯法	講義・演習	白田
	第6回 検査と看護① 静脈血採血	講義	浅野
	第7～8回 検査と看護② 静脈血採血	演習	浅野，他
	第9～10回 与薬と看護② 直腸与薬法、注射法	講義	浅野
	第11回 呼吸・循環を整える技術① 酸素吸入療法・吸引	講義	白田
	第12～13回 呼吸・循環を整える技術② 酸素吸入療法・吸引	演習	白田，他
	第14～15回 排泄障害のある患者の看護 導尿	講義・演習	浅野
	授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元に沿ってテキストの該当箇所を読む。 各授業で事前課題が提示された場合は課題に取り組む。 事後学修：各授業で事後課題が提示された場合は課題に取り組む。 各単元の講義・演習内容について復習し、自己学習ノート等にまとめ、整理する。	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂） 2. 三上れつ他「演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版」（ヌーヴェルヒロカワ） 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.1 基礎看護技術」（メディックメディア） 2. 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.2 臨床基礎看護技術」（メディックメディア） 3. 松尾ミヨ子他「ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」（メディカ出版） 4. 任和子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） その他、授業中に適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	身体侵襲を伴う技術を学習します。安全かつ確実に援助を実施するために、主体的な事前・事後学習を行い、積極的な学習姿勢で臨んでください。 本科目では、既習の病態医学、人体構造学、人体機能学、薬理学や、基礎看護学領域の科目（フィジカルアセスメント、看護援助の基本、看護技術学Ⅰ等）の知識を活用するため、しっかり復習しておくこと。 本科目は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子		
概要	看護の基本として多様な健康上のニーズをもつあらゆる人々への看護について以下の観点から学ぶ。健康上のニーズを持つ対象者および健康状態の経過に基づく看護、症状をもつ対象者や治療・処置を受ける対象者への看護について学習する。また、健康維持していくための行動について探索し、援助方法について熟考する。		
目標	(1) 健康の概念を理解し、健康状態の経過に基づく看護について述べるができる。 (2) 治療を受ける対象者を取り巻く環境や治療過程について理解し、総合的に判断し、支援方法について述べるができる。		
評価方法	授業参加度：20%、知識習得度確認：40%、課題：30%、レポート（学びと課題）：10% 定期試験：なし		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 健康状態と保健行動/健康状態の経過に応じた看護	講義	松田
	第2回 視覚障害をもつ患者の看護 ～周術期における看護～	講義 演習	ゲスト・松田
	第3回 視覚障害をもつ患者の看護 ～周術期における看護～/知識習得度確認	講義 演習	ゲスト・松田
	第4回 治療を受ける患者の健康と観察/摂食嚥下障害をもつ患者の看護	講義 演習	ゲスト・松田
	第5回 放射線治療を受ける患者の看護	講義	松田
	第6・7回 治療を受ける患者の看護/症状アセスメント	講義	松田
	第8回 健康維持・増進と看護	講義	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	各課題に沿って事前学修を行う。事後学修：単元ごとに目標に沿って看護の役割について検討する。		
テキスト	基礎看護学④ 臨床看護総論 メディカルフレンド社 第3版 看護技術学ⅠⅡで使用したテキスト、講義時の資料		
参考書	授業で随時紹介する。 臨床看護学総論 基礎看護学④ 医学書院		
学生へのメッセージ等	看護行為は、知識・技能・態度の3つから構成されるといわれており、これらを論理的に統合していくことは、根拠のある看護実践の基本です。本科目は、対象者への侵襲の高い診療に伴う技術を安全に実施するための知識を学びます。なお、本科目は「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための科目です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			
全担当教員	松田 明子/白田 梨奈/浅野 沙奈絵/吉川 あゆみ		
概要	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、フィジカルイグザミネーションを活用して、科学的根拠のある技術の適用と必要性を判断し、対象者の健康状態を的確にアセスメントできる基礎能力を身につける。授業では、事例患者を用いて、臨床場面を想定した演習を行う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる。 対象者の健康状態について、問診、観察、フィジカルイグザミネーションの技術を用いて、身体的・精神的・社会的側面から情報収集することができる。 得られた情報を解釈・分析し、対象者の健康状態を判断して説明することができる。 健康状態の判断をもとにして、対象者に必要な看護援助を述べることができる。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 課題レポート：80%（事前40%、事後40%） 演習の取り組み姿勢：20% ※定期試験は実施しない。1～2により総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス/ヘルスアセスメントとは	講義	松田・白田
	第2回 事例患者の紹介 事例患者のアセスメント	講義	白田
	第3回 事例患者の看護上の問題と援助の方向性について① グループワーク	講義・演習	松田・白田，他
	第4回 事例患者の看護上の問題と援助の方向性について② グループワーク・発表会	講義・演習	松田・白田，他
	第5回 事例患者の援助計画の共有	講義・演習	松田・白田，他
	第6回 事例患者への援助① 援助計画に基づく実施と評価	演習	松田・白田，他
	第7回 事例患者への援助② 援助計画に基づく実施と評価	演習	松田・白田，他
	第8回 まとめ	講義	松田・白田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：テキストの該当箇所を読む。各回で事前課題が提示された場合は、課題に取り組む。 事後学修：各回で事後課題が提示された場合は課題に取り組む。授業内容を復習する。 課題が不十分な場合には、教員による個別指導を行う。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 藤崎郁「フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版」（学研） 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂） 		
参考書	授業中に適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	既習の「フィジカルアセスメント」「看護過程論」「看護技術学Ⅰ」の知識を活用して授業を行います。特に「看護過程論」は基盤となります。しっかり復習して臨んで下さい。 本科目は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			
全担当教員			
松田 明子／白田 梨奈／浅野 沙奈絵／吉川 あゆみ			
概要	病院の外来、他部署、病棟での実習を通して、病院における保健・医療・福祉チームが協働する医療体制とその意義について理解し、看護の役割を考察する。そして、入院生活を送っている患者を受け持ち、生活場面や診療場面への援助的関わりを通して、患者を身体的・精神的・社会的側面から理解し、患者の個性に応じた日常生活援助の実践過程を学ぶ。また、看護を展開する中で、対象者と円滑な人間関係を築くための基礎的な技術を身につけるとともに、今後の自己の学習課題を見出す。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉チームが協働する医療体制、及びその意義について説明できる。 2. 対象者との関わりを通して、援助的人間関係構築に向けた取り組みができる。 3. 患者を身体的・精神的・社会的側面から全人的に捉えることができる。 4. 患者の基本的ニーズの充足状況をアセスメントし説明できる。 5. 患者の個性をふまえた看護計画を立案できる。 6. 患者の健康状態を観察し、状態に応じた日常生活援助を実践できる。 7. 看護学生としての自覚と、医療チーム・看護チームの一員としての責任感をもって行動できる。 8. 実習での学びを通して、自己の看護観を深め、今後の学習課題を見出すことができる。 		
評価方法	評価表に基づき、実習記録、実習態度等によって評価する。		
授業計画	基礎看護学Ⅱ要項を参照 なお、基礎看護学実習の日程は要項通りとする。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：実習に活用できるように、以下の科目の履修内容を復習しておく。 看護援助の基本、看護技術学Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、看護過程論、健康障害と看護等 事後学修：実習での体験やカンファレンス等から得た学びや、実習を通して考えた看護の役割等について、自己の考えを整理して看護観を深め、今後の課題を明確化する。		
テキスト	今までの授業に用いたテキスト		
参考書	今までの授業に用いた参考書。 その他、実習の中で適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	この実習は、皆さんが病院にて受け持ち患者を担当し看護実践を行う初めての実習になります。看護は、対象者が「その人らしく」生き、生活するために必要な援助を行います。これまで学習した知識や技術を総動員して、看護援助を考え、実践して下さい。患者・家族からたくさんの学びを得て、看護のすばらしさを感じてほしいと思います。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	必修
担当教員			
小竹 久実子			
添付ファイル			
在宅看護学概論事前課題表2022.docx			
概論レポート事前事後課題20220310.pdf			

全担当教員	小竹 久実子/栗田 麻美/武田 以知郎		
概要	在宅療養の場や在宅看護の対象を理解し、生活を捉えた在宅の視点と在宅看護の特徴を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養の場を理解する。 2. 在宅看護の対象を理解する。 3. 在宅看護の歴史の変遷を捉え、現在の保健医療福祉制度の知識を学び、在宅看護とのつながりを理解する。 4. 在宅療養者の持つ疾病の特徴と健康の捉え方を理解する。 5. 訪問診療の実際を知り、シームレスにケアをつなぐために、どのようなケアシステムと連携が必要か理解する。 6. 療養者とその家族の意思決定を支援し、倫理的配慮をする必要性を理解する。 7. 在宅看護を行うためにコミュニケーションスキルを磨くことの重要性を理解する。 8. 在宅の視点(生活の視点)を理解する。 9. 在宅における看護師の役割を理解する。 		
評価方法	<p>主体性、積極性、発言力、チームワーク（協働連携）、レポート、予習および復習（事前事後課題含む）、授業参加状況、最終試験等から総合的に評価する。</p> <p>主体性、積極性、発言力、チームワーク、レポート、予習および復習(事前事後課題含む) ⇒最大40点まで配点 最終試験⇒60点配点</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2022年9月26日（月） 在宅療養の場と在宅看護の対象	講義	小竹
第2回	2022年9月26日（月） 在宅看護の歴史と保健医療福祉制度の変遷	講義	小竹
第3回	2022年10月3日（月） 在宅における保健医療福祉制度（介護保険） 1	講義/GW GW	小竹
第4回	2022年10月3日（月） 在宅における保健医療福祉制度（介護保険） 2 -事例でとらえる-	GW 発表	小竹
第5回	2022年10月17日（月） 在宅における保健医療福祉制度（医療保険）	講義/GW GW	栗田・小竹
第6回	2022年10月24日（月） 病院と在宅をシームレスにつなぐケア体制1	講義/GW GW	栗田・小竹
第7回	2022年10月24日（月） 病院と在宅をシームレスにつなぐケア体制2	GW/発表	栗田・小竹
第8回	2022年10月31日（月） 療養者とその家族の意思決定支援と倫理的配慮	講義/GW GW	小竹
第9回	2022年10月31日（月） 在宅の視点：生活を捉える視点	講義/GW GW	小竹
第10回	2022年11月7日（月） 訪問看護師のケアの実際と役割	講義/GW	小竹
第11回	2022年11月15日（火） 訪問診療の実際-具体事例から再考する在宅ケアのあり方-	講義/GW 発表	武田・小竹
第12回	2022年11月15日（火） 訪問診療の実際-具体事例から再考する在宅ケアのあり方-	GW/発表会 GW	武田・小竹

	第13回	2022年11月21日（月） 在宅看護の災害・緊急時対策	講義 GW	小竹
	第14回	2022年11月28日（月） まとめ1（発表会：訪問看護過程のプランまで）	GW 発表	小竹
	第15回	2022年11月28日（月） まとめ2（発表会：訪問看護過程のプランまで）	GW 発表	小竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>授業毎に事前・事後課題があります。添付ファイルをご覧ください。</p> <p>事前学習課題：添付ファイルにある事前事後課題内容一覧表2022を確認し、授業前に学習すること。 在宅看護学概論事前課題表2022は、提示された期限までに作成し授業終了後提出すること。</p> <p>事後学習課題：添付ファイルにある事前事後課題内容一覧表2022を確認し、提出期限までに在宅看護学メールボックスまたは教務システムのレポート登録課題一覧在宅看護学概論レポートのコーナーに提出すること（詳細はシラバスに添付されたワードを確認すること）</p>			
テキスト	河野 あゆみ編集：地域・在宅看護論 第6版、メヂカルフレンド社、2021			
参考書	臺有桂 他編集：ナースングラフィカ在宅看護論、地域療養を支えるケア、メディカ出版、2019.			
学生へのメッセージ等	<p>2025年問題が迫る中、在宅看護は重要であり、在宅看護師が担うべき役割は大きいです。在宅看護は、予防から健康増進回復、ターミナルケア、災害看護などの救急を含み、全年齢、あらゆる疾患をもった療養者とその家族と関わる看護の集大成ともいえる分野でもあります。また同時に看護の本質を学べる科目でもあります。在宅看護学を学びながら、「看護とは何か」を一緒に考えていきましょう。</p> <p>※コロナの影響で授業スタイル等が変更する可能性があります。</p>			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
石澤 美保子／田中 登美			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子／田中 登美		
概要	健康に障害をもつ成人期にある人の看護を実践するために、成人期の変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉えられるようになる。成人期のさまざまな健康障害に対しての基本となる考え方や理論、看護技術の根拠を論ずることができるようになる。		
目標	1) 成人の生活と健康について説明できる。 2) 成人の特徴を捉えつつ大人をレポートし、ディスカッションを通じて身近な大人の発達段階を説明できる。 3) 成人の看護アプローチの基本を説明できる。 4) 成人の健康レベルに応じた看護を説明できる。 5) 成人の健康生活を促すための看護技術の基本を知り説明できる。		
評価方法	小テストと前期試験90%、第4回単元の授業参加度および提出レポート5%、毎回授業終了後のNote of lectureの記載状況5%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 成人看護学総論1 成人の生活と健康－成人と生活－	講義	石澤美保子
	第2回 成人看護学総論2 成人の生活と健康－成人と生活、生活と健康－	講義	石澤美保子
	第3回 成人看護学総論3 成人への看護アプローチの基本	講義	石澤美保子
	第4回 成人看護学総論4 身近な大人の発達段階を探る、グループワークおよび発表 －大人インタビューから学ぶ－	演習	石澤美保子
	第5回 成人急性期看護学1 成人の健康生活を促すための看護 －侵襲的治療を受ける患者への看護技術①－	講義	石澤美保子
	第6回 成人急性期看護学2 成人の健康生活を促すための看護 －侵襲的治療を受ける患者への看護技術②－	講義	石澤美保子
	第7回 成人看護学総論5 疾病の経過からみた健康状態（急性期、回復期、慢性期、終末期）の特徴	講義	田中登美
	第8回 成人慢性期看護学1 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 ストレス・コーピング理論と看護への活用－	講義	田中登美
	第9回 成人急性期看護学3 成人の健康生活を促すための看護技術－創傷管理技術①－	講義	石澤美保子
	第10回 成人急性期看護学4 成人の健康生活を促すための看護技術－創傷管理技術②－	講義	石澤美保子

	第11回 成人慢性期看護学2 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 危機理論と危機介入①－	講義	田中登美
	第12回 成人慢性期看護学3 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 危機理論と危機介入②－	講義	田中登美
	第13回 成人慢性期看護学4 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康生活の慢性的な揺らぎと再調整を促す看護 病みの軌跡理論と看護への活用－	講義	田中登美
	第14回 成人慢性期看護学5 成人の健康生活を促すための看護技術 －成人の学習者の特徴と学習を促す看護技術－	講義	田中登美
	第15回 成人慢性期看護学6 成人の健康生活を促すための看護技術 －症状マネジメントモデルと看護への応用－	講義	田中登美
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布する）を熟読し、講義に臨むこと。事後学修として、学修した内容をふまえた授業の復習または課題に取り組むこと。講義開始時に事前事後学修の確認のための小テストを実施する場合がある。		
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 （テキストは毎回の講義時必ず持参してください。）		
参考書	講義時に紹介する。		
学生へのメッセージ等	疾患をもった大人に対して核となる大切な領域です。講義を聴いて、講義内容から自分たちで考える習慣をつけてもらいたいと思います。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
松田 常美			
添付ファイル			

全担当教員	松田常美／森脇 裕美／堀井 えりな／石澤 美保子		
概要	手術を受ける患者および危機的状況にある患者とその家族に対する看護を理解する。		
目標	1) 手術療法が患者とその家族に与える影響を理解する。 2) 手術侵襲に伴う変化、回復状況、社会生活への適応に向けた看護を理解する。 3) 危機的状態にある患者とその家族に必要な看護を理解する。		
評価方法	評価方法：定期試験（90％）、出席カード（10％） 評価基準：定期試験では、各回の内容を理解しているか。出席カードでは、各回の授業に関心を持ち参加したか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス 手術侵襲と生体反応	講義	石澤 美保子
	第2回 手術前患者の看護	講義	石澤 美保子
	第3回 手術室における看護	講義	手術看護認定看護師
	第4回 手術後患者の看護①	講義	松田 常美
	第5回 手術後患者の看護②	講義	松田 常美
	第6回 呼吸機能障害をもつ患者の看護 肺がん患者の看護①	講義	森脇 裕美
	第7回 呼吸機能障害をもつ患者の看護 肺がん患者の看護②	講義	森脇 裕美
	第8回 運動機能障害をもつ患者の看護 人工股関節置換術を受ける患者の看護	講義	松田 常美
	第9回 性機能障害をもつ患者の看護 乳がん患者の看護	講義	森脇 裕美
	第10回 循環機能障害をもつ患者の看護 急性心筋梗塞患者の看護①	講義	堀井 えりな
	第11回 循環機能障害をもつ患者の看護 急性心筋梗塞患者の看護②	講義	堀井 えりな
	第12回 集中治療を受ける患者の看護	講義	森脇 裕美
	第13回 脳・神経機能障害をもつ患者の看護 くも膜下出血患者の看護	講義	松田 常美
	第14回 消化・吸収障害をもつ患者の看護 胃がん患者の看護	講義	松田 常美
	第15回 消化・吸収障害をもつ患者の看護 大腸がん患者の看護	講義	石澤 美保子

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：事前に各回に関する教科書の箇所を全て精読してから講義に臨むこと。 事後学修：各回に関する教科書の箇所、講義資料の内容が理解できたか復習し確認する。
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2][3][5][7][9][10] 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
参考書	授業中に紹介する
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
石橋 千夏			
添付ファイル			

全担当教員	石橋 千夏／升田 茂章		
概要	病気とともに生きる患者・家族が病気をマネジメントしながらその人らしく生活することへの看護について学ぶ		
目標	1) 生涯にわたり病気のコントロールを必要とする患者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解する 2) 代表的な慢性疾患を通して、疾患特異的なセルフマネジメントについて理解する 3) 患者・家族がその人らしく生活するために、個別性を考慮した看護を計画し、実践・評価できる		
評価方法	定期試験40%、レポート60%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 2022年9月22日（木） 慢性の病気とともに生きる患者・家族の特徴	講義	石橋
	2 2022年9月29日（木） 慢性病のセルフマネジメントと看護	講義	石橋
	3 2022年10月6日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護① 糖尿病患者の看護	講義	石橋
	4 2022年10月13日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際① セルフモニタリングが必要な糖尿病患者への看護介入(1)	演習	石橋
	5 2022年10月20日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際① セルフモニタリングが必要な糖尿病患者への看護介入(2)	演習	石橋
	6 2022年10月27日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際① セルフモニタリングが必要な糖尿病患者への看護介入(3)	演習	石橋 升田
	7 2022年11月3日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護② 慢性腎不全患者の看護	講義	石橋
	8 2022年11月10日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護③ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の看護	講義	石橋
	9 2022年11月17日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際② 症状マネジメントが必要なCOPD患者への看護介入(1)	演習	石橋
	10 2022年11月24日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際② 症状マネジメントが必要なCOPD患者への看護介入(2)	演習	石橋
	11 2022年12月1日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際② 症状マネジメントが必要なCOPD患者への看護介入(3)	演習 演習	石橋
	12 2022年12月8日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護④ 心不全患者の看護	講義 演習	石橋
	13 2022年12月15日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護⑤ クロウン病患者の看護	講義 演習	石橋
	14 2022年12月22日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護⑥ パーキンソン病患者の看護	講義 演習	石橋
	15 2023年1月5日（木） まとめ：「慢性の病気とともに生きるひとを支える」	講義 演習	石橋

授業外学修（事前学修・事後学修）	①患者の理解の基盤となる人体構造学、人体機能学、病態医学、薬理学は、単元で提示する代表疾患にそって復習しておきましょう。 ②成人看護学概論で学んだ理論・概念を、実際に活用できるように理解を深めておきましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]～[10] 医学書院 成人看護学 慢性期看護論 第3版 ニューヴェルヒロカワ		
参考書	適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	病態医学や成人看護学概論での学びを基盤に、療養生活を送る患者・家族への支援について考え、実践します。 日常生活での経験も活用し、自ら考えることを望みます。 今後の臨床での実践をイメージして、主体的に取り組みましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子		
概要	生理的加齢変化と生活機能、高齢者の生活史と心理を理解する。 老年看護学に必要なとされる理論及び高齢者の包括的アセスメントを学ぶ。 高齢者看護学の基本と看護師の役割を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的加齢変化を説明できる。 2. 高齢者の生活機能を理解する。 3. 高齢者の生活史と心理を理解する。 4. 老年看護学に必要なとされる理論について説明できる。 5. 高齢者の包括的アセスメントの特徴について具体的に述べるができる。 6. 高齢者に多い症状と特徴的な健康障害について説明できる。 		
評価方法	定期試験70%、課題レポート30%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 老年期の特徴と高齢者の生活の理解	講義	澤見、木村、古角
	第2回 加齢に伴う心身の変化、疑似体験オリエンテーション	講義	澤見、木村、古角
	第3回 高齢者の総合的機能評価	講義	澤見、木村、古角
	第4回 右麻痺患者の疑似体験	演習	澤見、木村、古角
	第5回 疑似体験におけるグループワークの発表	演習	澤見、木村、古角
	第6回 生理的加齢変化	講義	澤見、木村、古角
	第7回 グループホーム・特養の概要とケア	講義	澤見、木村、古角
	第8回 特養・老健の概要とケア	講義	木村、古角、澤見
	第9回 GH・特養・老健についてのグループワーク、発表会①	演習	木村、古角、澤見
	第10回 発表会②、高齢者の生活支援①	講義	木村、古角、澤見
	第11回 消化器疾患と検査、消化器疾患患者のケア	講義	木村、古角、澤見
	第12回 脳神経疾患の高齢者の特徴とケア	講義	木村、古角、澤見
	第13回 高齢者の生活支援②	講義	澤見、古角、木村
	第14回 高齢者の価値観	講義	木村、澤見
	第15回	講義	澤見、木村

	死生観		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。それを踏まえて授業中の課題を完成する。 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。		
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
参考書	授業中に紹介します		
学生へのメッセージ等	生理的加齢変化と生活機能を理解し、高齢者看護の役割を学びましょう		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子		
概要	生活機能低下のある高齢者へのケアの実際を理解する。 高齢者の生活機能を踏まえ、疾患をもち加療中の高齢者のアセスメントを理解する。		
目標	1. 高齢者に多い生活機能低下を理解する。 2. 生活機能低下のある高齢者のケアの実際を演習によって理解する。 3. 高齢者の生活機能を踏まえ、疾患をもち加療中の高齢者のアセスメントの実際を学ぶ。		
評価方法	試験70%、レポート30%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 高齢者の生活機能、認知症予防における非薬物療法について、 グループワーク	演習	澤見、木村、古角
	第2回 グループワーク発表会	演習	澤見、木村、古角
	第3回 看護過程とは、高齢者の生活機能 健康管理①	講義	澤見、木村、古角
	第4回 健康管理②	講義	澤見、木村、古角
	第5回 高齢者の癌看護（化学療法）	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第6回 高齢者の生活機能 ②栄養	講義	澤見、木村、古角
	第7回 高齢者の生活機能 ②排泄	講義	澤見、木村、古角
	第8回 高齢者の癌看護（放射線療法）	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第9回 高齢者の生活機能 ③活動	講義	澤見、木村、古角
	第10回 認知症高齢者のケア	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第11回 認知症高齢者のケア：事例検討	講義 演習	認定看護師、澤見、木村、古角
	第12回 高齢者の生活機能 ④睡眠	講義	澤見、木村、古角
	第13回 高齢癌患者とのコミュニケーション	演習 演習	澤見、木村、古角
	第14回 高齢者の子ども時代「昭和初期～戦後」の理解を深める	講義	澤見、木村、古角
第15回 高齢者の子ども時代「昭和初期～戦後」のグループワーク、発表 演習	演習	澤見、木村、古角	

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。それを踏まえて授業中の課題を完成する。 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。
テキスト	看護診断ハンドブック 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介します。
学生へのメッセージ等	人生の最終段階で出会いたい人は、質の高い看護を提供できる看護師です。 高齢者に最高の看護ケアを提供できるようしっかり学んでいきましょう。 高齢者のアセスメントの基本をしっかり身につけましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ		
概要	子どもと家族がもっている力が最大限発揮できるよう援助を行っていくための基礎的知識として、子どもの発達、家族の発達、倫理、社会制度などの知識を習得し、小児看護の対象である子どもと家族を、統合的にとらえる。		
目標	1) 子どもとは、子どもの権利、小児看護における倫理について説明できる。 2) 子どもの成長・発達とその発達段階に適した看護について説明できる。 3) 子どもにとっての家族、家族の発達と課題について説明できる。 4) 子どもをとりまく社会の状況について考察できる。 5) 小児看護の動向や今後の課題について説明できる。		
評価方法	筆記試験（80%）、提出物・授業貢献度（20%）を総合して評価します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 子どもとは 小児看護とは	講義	川上
	第2回 子どもの権利と小児看護における倫理	講義	川上
	第3回 小児看護で用いられる理論とその活用 1	講義	川上
	第4回 小児看護で用いられる理論とその活用 2 子どもの成長・発達の原則と評価	講義	川上
	第5回 乳児期の子どもの成長・発達と看護 1－子どもの活動－	講義	川上
	第6回 乳児期の子どもの成長・発達と看護 2－子どもの反応－	講義	川上
	第7回 幼児期の子どもの成長・発達と看護 1－基本的生活習慣の獲得・セルフケア－	講義	川上
	第8回 幼児期の子どもの成長・発達と看護 2－基本的生活習慣の獲得－	講義	川上
	第9回 学童期の子どもの成長・発達と看護－学童期におこりやすい課題－	講義	川上
	第10回 子どもと家族 1	講義	ゲストスピーカー/川上
	第11回 子どもと家族 2 きょうだいの支援について	講義	川上
	第12回 思春期の子どもの成長・発達と看護－思春期・AYA世代におこりやすい課題－	講義	川上
	第13回 現代の子どもがおかれている状況や問題	講義	川上
	第14回 子どもと家族の健康を支える社会制度	講義	川上

	第15回 小児看護の動向と今後の課題	講義	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習として、テキストの各授業内容の範囲を読んで授業に臨む。 事後学習として、資料を活用し授業内容をまとめる。		
テキスト	奈良間美保他著：系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学1，医学書院。		
参考書	舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版，医学書院。 他、授業で紹介する。		
学生へのメッセージ等	日常で会おう子どもや、子どもをとりまく環境、情報について関心を高めてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
小代 仁美			
添付ファイル			

全担当教員	小代仁美		
概要	子どもの疾患や障がい、入院が、子どもおよびその家族の機能や幸福に及ぼす影響を理解し、子どもの成長・発達と安寧、健康生活の向上を支援する看護援助のあり方を考える。		
目標	1) 小児期に特徴的な疾患や障がいを子どもの発達の特徴と関連して理解する。 2) 疾患や障がいおよび入院が、子どもおよびその家族の生活に及ぼす影響を理解する。 3) 子どもの発達段階や健康状況、入院環境に対応した看護を理解する。 4) 手術療法、薬物療法による子どもと家族に及ぼす影響を理解する。 5) 長期療養・終末の時期における子どもと家族を理解する。 6) 疾患や障がいのある子どもおよびその家族へQOLを高める援助の基本を理解する。		
評価方法	定期試験 (100%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 講義ガイダンス / 長期療養・終末の時期にある子どもと家族の看護	講義	小代
	第2回 手術療法・薬物療法を受ける子どもと家族の看護	講義	小代
	第3回 呼吸機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第4回 免疫機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第5回 代謝機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第6回 神経機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第7回 染色体に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第8回 発達に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第9回 循環機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第10回 血液・造血機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第11回 消化・吸収機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第12回 運動機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第13回 腎・泌尿器機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第14回 小児がんの子どもと家族の看護	講義	小代
	第15回	講義	小代

	ハイリスク新生児と親の看護		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：講義終了時に、次の講義の事前学修を提示しますので事前学修をして臨んで下さい。また、グループ課題に</p> <p>取り組んで、資料作成して発表の準備をして下さい。</p> <p>事後学修：講義時の「本日のポイント」を事後学修して下さい。</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院</p>		
参考書	<p>小児看護学概論 改訂第3版 南江堂</p> <p>小児看護技術 改訂第3版 南江堂</p> <p>講義の中で紹介</p>		
学生へのメッセージ等	<p>学習にあたって、人体構造学、人体機能学、基礎薬理学、臨床薬理学および病態医学Ⅲ（小児科学1～5）の小児期に特徴的な疾患の病態・症状・診断・治療について知識が必要です。「子どもにとって最善の利益」「子どもを守る看護」を基盤に、疾患や障がいのある子どもと家族の看護を一緒に考えていきましょう。</p> <p>講義の中で、“子どもの主要疾患とその看護”に関してグループ発表をしていただきます。具体的には、1つのグループが1つの疾患と看護を調べて、資料を作成し、発表する。</p> <p>*尚、COVID-19禍による後期時期の授業形態により、グループ学習の内容や方法を変更する場合があります。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
五十嵐 稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐 稔子		
概要	母性とは何か、母性を取り巻く環境への理解を深め、女性の一生を通じた健康の維持・増進、リスク予防を目的とした看護を支える基礎知識を習得する。		
目標	1) 母性の概念及びその特徴が説明できる。 2) 母性をとりまく環境と、それが健康に及ぼす影響について理解できる。 3) 女性のライフサイクル各期の特徴と発達課題が説明できる。 4) 女性のライフサイクル各期における健康上の課題とその要因について説明できる。 5) 女性のライフサイクル各期に応じた援助について理解できる。 6) 母性看護の理念と役割および倫理について理解できる。		
評価方法	評価方法：ミニッツレポート（15回）30%と試験70%により評価します。 評価基準：ミニッツレポートにより理解度の確認を行います。 試験は、15回の授業の範囲とします。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月7日（木） 授業ガイダンス 親になることと母性、母子関係と家族発達	講義 (遠隔)	五十嵐
	第2回 2022年4月14日（木） セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス、ヘルスプロモーション	講義 (対面)	五十嵐
	第3回 2022年4月21日（木） 母性看護の理念、母性看護における倫理、安全管理	講義 (遠隔)	五十嵐
	第4回 2022年4月28日（木） 母性の対象理解① 身体的特性	講義 (対面)	五十嵐
	第5回 2022年5月12日（木） 母性の対象理解② ライフサイクル、母性の発達・成熟・伝承	講義 (対面)	五十嵐
	第6回 2022年5月19日（木） 母性看護の歴史の変遷と現状・母性看護の対象を取り巻く環境	講義 (遠隔)	五十嵐
	第7回 2022年5月26日（木） 母子保健統計	講義 (遠隔)	五十嵐
	第8回 2022年6月2日（木） ライフサイクル各期における母性看護① 思春期 成熟期	講義 (遠隔)	五十嵐
	第9回 2022年6月9日（木） 思春期教育の実際 ゲストスピーカーによる講義	講義 (対面)	中村 五十嵐
	第10回 2022年6月16日（木） ライフサイクル各期における母性看護② 更年期 老年期	講義 (対面)	五十嵐
	第11回 2022年6月23日（木） 母性看護に必要な看護技術① 看護過程、情報収集、アセスメント	講義 (遠隔)	五十嵐
	第12回 2022年6月30日（木） 母性看護に必要な看護技術② アドボカシーと意思決定を支える技術、保健指導	講義 (遠隔)	五十嵐
	第13回 2022年7月7日（木） リプロダクティブ・ヘルスケア① 性感染・HIV・喫煙	講義 (遠隔)	五十嵐

	第14回	2022年7月14日（木） リプロダクティブ・ヘルスケア②家族計画・人工妊娠中絶症	講義 (対面)	五十嵐
	第15回	2022年7月21日（木） リプロダクティブ・ヘルスケア③DV・児童虐待・国際社会の母子保健	講義 (遠隔)	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：教科書の、各回の講義テーマに該当する部分を読んでおく 事後学習：講義内容をまとめておく			
テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論，医学書院			
参考書	母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護，メヂカルフレンド社 国民衛生の動向、厚生統計協会			
学生へのメッセージ等	講義を通して、自分の価値観・考えについて振り返る機会になると思います。 自ら考える姿勢で取り組んでください。 遠隔授業では、講義内容の特徴から、同居家族のいない場所で授業に参加してください。 また、顔を出して発言してもらいますので、その予定で参加してください。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
森兼 眞理			
添付ファイル			

全担当教員	森兼 眞理		
概要	妊娠、分娩の正常経過および合併症について理解できる。 妊産婦と家族の看護について理解できる。 妊娠、分娩の学修を通して生命の尊厳を考慮することができる		
目標	1) 妊娠期および分娩期の正常経過を説明することができる。 2) 妊産婦および家族への基本的な援助技術を理解できる。 3) 事例演習により、ウェルネス型看護診断に基づく看護過程を理解できる。 4) ハイリスク妊産婦および家族の看護を説明することができる。 5) 生命の尊厳について自己の考えを述べるることができる。		
評価方法	試験70点（小テスト2回、および定期試験）、演習課題30点（レポート課題等） レポートはすべて教務システムにアップロードして提出してください。紙面での受付はしません。余裕をもって提出してください。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年9月22日（木） 母性看護学援助論で学習すること 妊娠期の身体的特性・心理的 特性	講義	森兼
	第2回 2022年9月29日（木） 妊婦と胎児のアセスメント	講義	森兼
	第3回 2022年10月6日（木） 妊婦の健康診査	講義	森兼
	第4回 2022年10月13日（木） 妊婦と家族の看護	演習	森兼
	第5回 2022年10月20日（木） 妊婦の保健相談、保健指導	講義と演習	森兼
	第6回 2022年10月27日（木） 妊娠期の異常と看護	講義	森兼
	第7回 2022年11月10日（木） 分娩の要素・分娩経過	講義	森兼
	第8回 2022年11月17日（木） 産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護	講義	森兼
	第9回 2022年11月24日（木） 分娩期の看護	講義	森兼
	第10回 2022年12月1日（木） 分娩期の看護過程 ～分娩第1期の看護～	講義と演習	森兼
	第11回 2022年12月8日（木） 分娩の異常と看護 1	講義	森兼
	第12回 2022年12月15日（木） 分娩の異常と看護 2	講義	森兼
	第13回 2022年12月22日（木） 不妊治療・出生前診断・母性保護に関する法的支援	講義	森兼
	第14回 2023年1月5日（木） 妊娠期・分娩期のまとめ	講義	森兼

	第15回	2023年1月12日（木） 地域母子保健の実際 ～妊娠届けの把握、出産準備教室、家庭訪問支援～	講義	ゲストスピーカー
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修；事前に、授業で学習する教科書のページ数とキーワードを提示する。予習クイズをして臨むこと。 事後学修；授業終了時に復習クイズを提示する。次回授業までに回答しておくこと。			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 ウエルネスにもとづく母性看護過程 太田操編著 医歯薬出版株式会社 第3版			
参考書	新体系看護学全書 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 目でみる妊娠と出産 文光堂			
学生へのメッセージ等	妊娠・分娩の生理について学び、妊産婦とその家族の看護について学習しましょう。 講義だけでなく、看護技術演習では妊婦役や産婦役になりどんな看護が求められるか考えます。 小テストでは、知識を整理し次のステップに進めるようにしましょう。 ※授業テーマや小テストの日程は、授業形態及び進捗状況により変更することがあります。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
奥田 淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田 淳		
概要	あらゆる発達段階・健康段階にある人々の精神の健康問題を理解し、人間関係をベースとする理論を学ぶ。また、精神医療の変遷とともに精神障害者に対する社会の変化や法律、社会資源について理解する。		
目標	こころの健康に関する理解と精神障害者が社会に置かれている現状を理解し、精神看護に求められている考えることができる。		
評価方法	小テスト（2回）：70%、レポート（第7回講義）：10%、レポート（第12回講義）：20%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 精神の健康問題の捉え方と危機① 心の健康、精神の構造と機能、精神の健康に影響を与える要因を知る	講義	奥田
	第2回 精神の健康問題の捉え方と危機② こころの健康に関する危機とストレス	講義	奥田
	第3回 精神の健康問題の捉え方と危機③ ライフサイクルにおける精神の健康と危機について	講義	奥田
	第4回 精神の健康問題の捉え方と危機④ 医療施設以外で精神看護が展開される場	講義	奥田
	第5回 地域における精神看護・精神保健 DVDの視聴から精神看護・精神保健を考える	講義	奥田
	第6回 精神看護学で活用する患者－看護師関係の発展モデル Peplau, H, E (ペプロウ) Orland, I, J (オーランド) Travelbee, J (トラベルビー) Wiedenbach, H (ウィーデンバック)	講義	奥田
	第7回 精神医療の変遷 日本及び欧米諸国の精神医療の変遷	講義	奥田
	第8回 社会と精神障害① 精神医療と看護における倫理と人権	講義	奥田
	第9回 社会と精神障害② 法律(精神保健福祉法、医療観察法)の内容を学ぶ	講義	奥田
	第10回 社会と精神障害③ 社会保障(障害者総合支援法)の内容を学ぶ	講義	奥田
	第11回 リエゾン精神看護の役割と多職種との関係	講義	奥田
	第12回 精神保健福祉士との協働 精神保健福祉士から実際のソーシャルワークを聞き、看護師との協働について考える	講義	非常勤講師 奥田
	第13回 実話から精神看護を考える①	講義	奥田
	第14回 実話から精神看護を考える②	講義	奥田

	第15回 ストレングスモデルを考える	講義	奥田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに関する課題を出すので行う事 事後学習：授業内容で興味・関心のあったことについて振り返り、自分の考えをまとめる。		
テキスト	1) 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子 他 医学書院 2) 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 武井麻子 他 医学書院		
参考書	1) 精神看護と法・倫理 坂田三允編 中山書店 2) 学生のための精神医学 第3版 太田保之・上野武治編 医歯薬出版株式会社 3) 医療福祉総合ガイドブック2020年度版 NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会		
学生へのメッセージ等	日々の生活の中でこころの健康や精神障害、精神疾患をキーワードとしてニュースや記事、本を読み見分を広めてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
橋本 顕子			
添付ファイル			

全担当教員	橋本顕子		
概要	精神に健康問題をもつ人の看護に用いられる理論を活用し、看護を展開するための基本的技法やアセスメントの視点を学ぶ。		
目標	1) 精神の健康問題のメカニズムとアセスメント方法について理解できる。 2) 精神に健康問題をもつ人との基本的技法について説明できる。 3) 精神に健康問題をもつ人の情報を生物学的・心理学的・社会的側面からアセスメントする方法について説明できる。 4) 精神に健康問題をもつ人へ生物学的・心理学的・社会的側面からアプローチする看護について理解できる。		
評価方法	課題レポート(30%)、小テスト(40%)、事前課題(30%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年9月21日(水) 代表的な精神障害の病態について	講義	橋本
	第2回 2022年9月28日(水) 当事者による病の体験について	講義	当事者・支援者
	第3回 2022年10月5日(水) 対象者の生物学的側面について	講義・演習	橋本
	第4回 2022年10月12日(水) 対象者の心理学的側面について	講義・演習	橋本
	第5回 2022年10月19日(水) 対象者の社会的側面について	講義・演習	橋本
	第6回 2021年10月27日(水) 精神看護における基本的技法について	講義・演習	橋本
	第7回 2022年11月2日(水) 精神障害をもつ人との関係構築について	講義・演習	橋本
	第8回 2022年11月9日(水) 音楽療法について	講義・演習	音楽療法士 石原興子先生
	第9回 2022年11月16日(水) プロセス・レコードについて	講義・演習	橋本
	第10回 2022年11月30日(水) 生物学的・心理学的側面・社会的側面とセルフケアの情報収集について	講義・演習	橋本
	第11回 2022年12月7日(水) 生物学的・心理学的側面・社会的側面とセルフケアの情報の分析と解釈について	講義・演習	橋本
	第12回 2022年12月14日(水) 薬物療法と看護について	講義	認定看護師 森脇崇先生
	第13回 2022年12月21日(水) 作業療法・レクリエーション療法について	講義・演習	作業療法士
	第14回 2023年1月4日(水) 精神療法・電気けいれん療法について	講義・演習	橋本

	第15回 2023年1月11日（水） 社会学的側面からのアプローチについて	講義	橋本
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマに関する課題を行う。 事後学修：授業で説明された内容に関して、テキストや参考書等を読んで、自分の考えを整理する。授業時間内にできなかった課題を行う。		
テキスト	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎（武井麻子他編著、医学書院） 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開（武井麻子他編著、医学書院）		
参考書	1) 生涯発達人間論－人間への深い理解と愛情を育むために 第3版（服部祥子著、医学書院） 2) オレムのセルフケアモデル－事例を用いた看護過程の展開－ 第2版（宇佐美しおり・鈴木啓子著、NOUVELLE HIROKAWA） 3) 学生のための精神医学 第3版（太田保之他編、医歯薬出版株式会社） 4) 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術（山本勝則他編著、メヂカルフレンド社） 5) 精神科ナースになったわけ（水谷緑著、イースト・プレス） 6) マンガでわかる！統合失調症 家族の対応編（中村ユキ著・高森信子監修、日本評論社） 7) ストレングスからみた精神看護過程＋全体関連図、ストレングス・マッピングシート（萱間真美編、医学書院）		
学生へのメッセージ等	授業内容は変更の可能性があります。 皆さんとの対話を通して、精神障害をもつ人への支援について一緒に学んでいきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ／粕井 みづほ		
概要	家族という集団を一つの単位としてとらえ、その集団に備わっている能力や機能が発揮できるよう支援するために家族成員の心理的側面、ライフサイクルさらに家族看護に関する諸理論を学ぶ。そのことで家族を統合的にとらえ支援方法、看護職の在り方を理解する。		
目標	1. 家族の問題にアプローチするため、家族の人間関係や家族の中で発生する諸問題を解決するための基本的知識を十分に理解できる。 2. 家族看護学の目的、家族の定義について説明できる。 3. 家族看護に用いる理論について理解できる。 4. 家族看護の展開方法を理解し、支援方法について検討できる。 5. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について考察できる。		
評価方法	授業5～10回分については、試験で40%を評価する。 1～4回、11～15回分については、課題レポート、提出物で60%を評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 家族心理学での家族 1. 家族の捉え方 2. 家族ライフサイクル	講義	粕井
	第2回 家族ライフサイクルと現代の家族 1. 乳幼児期の家族	講義	粕井
	第3回 家族ライフサイクルと現代の家族 2. 児童期の家族 3. 青年期の家族	講義	粕井
	第4回 家族ライフサイクルと現代の家族 4. 中年期の家族 5. 老年期の家族	講義	粕井
	第5回 家族看護学とは何か 看護学における家族の理解	講義	川上
	第6回 家族を理解するための理論	講義	川上
	第7回 家族アセスメントモデル	講義	川上
	第8回 家族看護過程：情報収集	講義 演習	川上
	第9回 家族看護過程：アセスメント	講義 演習	川上
	第10回 家族看護過程：課題抽出、計画、評価	講義	川上
	第11回 家族看護方法、家族看護における看護者の基本姿勢	講義 演習	家族看護専門看護師
	第12回 家族看護専門看護師の実践	講義	家族看護専門看護師
	第13回 事例検討 家族アセスメント	講義	川上
	第14回 事例検討 家族介入	講義	川上
	第15回	講義	川上

	家族看護研究 まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、授業内容に該当するテキストや参考図書の範囲を読み、内容を把握しておく。 事後学修として、授業の資料やテキスト等を用いて授業内容を整理し理解を深める。 具体的に事前学修・事後学修内容が示された場合は、その内容を学修する。		
テキスト	上別府圭子他著：家族看護学 医学書院 1～4回については、適宜配布する。		
参考書	鈴木和子・渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践第5版 日本看護協会出版会 粕井みづほ・青野明子著：発達と家族の心理 久美出版 岡堂哲雄著：家族心理学入門 陪風館		
学生へのメッセージ等			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
城島 哲子			
添付ファイル			

全担当教員	公衆衛生看護学の理念、目標・活動の場・対象を理解し、公衆衛生看護活動の基盤となる概念・理論を理解する。		
概要	1、公衆衛生看護学の成立基盤である、歴史、法的根拠、保健医療福祉制度における保健師の位置付けを理解する 2、公衆衛生看護学の対象と活動方法とその特性を理解する 3、社会環境の変化と健康課題との関連を理解する		
目標			
評価方法	1. 定期試験（70%）、授業中に課したレポート課題（30%）で評価する。 2. 出席回数が不足した者は受験資格がありません。 3. 受講態度が悪い場合は減点（授業中に寝ている。授業に関係のないスマホ操作。遠隔授業中の指名に反応なし。）		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月8日（金） 遠隔 公衆衛生看護学の基盤 1) 予防・公衆衛生・地域看護の概念	講義	城島
	第2回 2022年4月15日（金） 対面 2) 日本の保健医療福祉制度における保健師の位置付け	講義	城島
	第3回 2022年4月22日（金） 遠隔 公衆衛生看護活動の理念 1) WHOの提唱するヘルスプロモーションとは	講義	城島
	第4回 2022年5月6日（金） 遠隔 2) エンパワメント、自己決定	講義	城島
	第5回 2022年5月13日（金） 対面 3) 自立的な生活への支援・強化 4) 健康を志向するまちづくり	講義	城島
	第6回 2022年5月20日（金） 遠隔 公衆衛生看護活動の倫理 1) 基本的人権の尊重と公的責任 2) アドボカシーとエンパワメント	講義	城島
	第7回 2022年5月27日（金） 遠隔 地域看護の歴史 1) イギリス、アメリカで始まった地区看護・巡回訪問活動 2) アメリカの公衆衛生看護活動・ニューヨークのセツルメント	講義	城島
	第8回 2022年6月3日（金） 遠隔 3) 日本の訪問看護・巡回看護の始まり	講義	城島
	第9回 2022年6月10日（金） 対面 4) 第二次世界大戦後の公衆衛生看護活動	講義	城島
	第10回 2022年6月17日（金） 対面 公衆衛生看護活動の展開の場 1) 保健所・市町村保健センター・地域包括支援センター・産業・学校	講義	城島
	第11回 2022年6月24日（金） 遠隔 社会環境の変化と健康課題 1) 社会問題としての「健康格差」	講義	城島
	第12回 2022年7月1日（金） 遠隔	講義	城島

	地域看護診断—保健師活動のコア 1) 地域看護診断とコミュニティ・アズ・パートナーモデル		
第13回	2022年7月8日（金） 遠隔 2) 地域看護診断の事例 1 3) 地域看護診断の事例 2	講義	城島
第14回	2022年7月15日（金） 対面 公衆衛生看護活動の評価、活動の質の保証 1) PDCAサイクルによる活動の評価 2) プリシード・プロシードモデル（みどりモデル）による評価	講義	城島
第15回	2022年7月22日（金） 遠隔 特色のある保健師活動 1) へき地における保健師活動	講義	城島
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理をしておく。		
テキスト	1 標準保健師講座①：地域看護学概論（第6版：2022年1月改訂）：医学書院 2. 公衆衛生看護学.jp 第4版、データ更新版：インターメディカル		
参考書	1 国民衛生の動向：厚生統計協会		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学概論では看護の学士課程においてコア（中核）となる看護実践能力と卒業時の到達目標にも含まれる内容を教授します。保健師選択を希望する学生も看護師を希望する学生も、集団・地域に働きかける公衆衛生看護活動について一緒に学びましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
城島 哲子			
添付ファイル			

全担当教員	城島 哲子／堀内 沙央里／柳生 貴裕／日高 庸晴		
概要	公衆衛生の基本と公衆衛生看護の基盤となる法律や施策を理解し、具体的な行政機関や保健師、関係職種が行う公衆衛生活動の実際の内容と方法が理解できる		
目標	1) 対象別の公衆衛生保健活動が理解できる 2) 住民の健康増進を支援する活動が理解できる		
評価方法	評価方法：出席日数で受験資格を判定し、定期試験(90%)と授業レポート(10%)により成績評価する。 評価基準：定期試験では、講義内容に関する理解度を測る。授業レポートについては、テーマについて講義内容を踏まえて自身の考えを述べることができているかを評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 公衆衛生看護活動 公衆衛生看護活動の理念、考え方 地域における公衆衛生看護活動（保健所・市町村）	講義	堀内
	第2回 母子保健1 母子保健の動向・政策	講義	堀内
	第3回 母子保健2 地域における母子保健活動1	講義	堀内
	第4回 母子保健3 地域における母子保健活動2	講義	堀内
	第5回 成人保健1 地域における生活習慣病対策 健康診査と検診	講義	城島
	第6回 成人保健2 生活習慣病の保健指導と健康教育	講義	城島
	第7回 成人保健3 医療費適正化と重症化予防対策	講義	城島
	第8回 感染症保健1 感染症保健の動向・政策	講義	堀内
	第9回 感染症保健2 地域における感染症保健活動	講義	堀内
	第10回 精神保健1 精神保健の動向・政策	講義	堀内
	第11回 精神保健2 地域における精神保健活動	講義	堀内
	第12回 難病保健 難病保健の動向・政策	講義	堀内
	第13回 歯科保健1 歯科保健の動向・関係法規	講義	柳生
	第14回 2022年7月11日（月） 歯科保健2 歯科の健康と全身疾患との関連性	講義	柳生
第15回	講義	日高	

	性的マイノリティ対策 HIV/ LGBTQへの対応		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容に沿ってテキストの該当箇所を確認し、概要を把握する。 事後学修：配布資料の確認やテキストの該当箇所の精読等を行い、各回の講義内容をまとめ、整理する。		
テキスト	1. 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 2. 標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院 3. 公衆衛生がみえる メディックメディア 4. 国民衛生の動向 厚生統計協会		
参考書			
学生へのメッセージ等	必修科目。 看護師、保健師として必要な公衆衛生に関する対象別の政策と保健活動を学びます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美		
概要	公衆衛生看護活動に関連する法律および施策を基に、個別支援と集団支援の内容と方法を学ぶ。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人と集団における予防活動の支援が理解できる。 ・母子保健、成人保健、精神保健、難病、感染症における具体的支援支援方法が理解できる。 ・ハイリスク者・多問題ケース・困難事例に対するへの支援システムが理解できる。 ・根拠法や施策別に行う支援の内容と方法が理解できる。 		
評価方法	<p>評価方法：定期試験（85%）と授業内で実施する小レポート（15%） 評価基準：定期試験は講義目標の内容に関する理解度を測る 小レポートは各テーマに対する思考が記述されているか 再試験は行わない方針である。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 公衆衛生看護活動における支援の特性1	講義	坂東
	第2回 公衆衛生看護活動における支援の特性2	講義	坂東
	第3回 公衆衛生看護活動における支援の特性3	講義	坂東
	第4回 公衆衛生看護活動における支援の特性4	講義	坂東
	第5回 地域における個別と集団の支援（母子保健1）	講義	坂東
	第6回 地域における個別と集団の支援（母子保健2）	講義	坂東
	第7回 地域における個別と集団の支援（母子保健まとめ）	講義	坂東
	第8回 地域における個別と集団の支援（成人保健1）	講義	坂東
	第9回 地域における個別と集団の支援（成人保健2）	講義	坂東
	第10回 地域における個別と集団の支援（成人保健まとめ）	講義	坂東
	第11回 地域における個別と集団の支援（精神・難病・感染症1）	講義	坂東
	第12回 地域における個別と集団の支援（精神・難病・感染症2）	講義	坂東
	第13回 地域における個別と集団の支援（精神・難病・感染症まとめ）	講義	坂東
	第14回 地域における個別と集団の支援（難病支援の実際）	講義	坂東/ ゲストスピーカー
	第15回 まとめ	講義	坂東

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準保健師講座③対象別公衆衛生看護活動 ・ 標準保健師講座②公衆衛生看護技術 	<ul style="list-style-type: none"> 医学書院 医学書院 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民衛生の動向 ・ 公衆衛生看護学.jp ・ 公衆衛生がみえる 			<ul style="list-style-type: none"> 厚生統計協会 インターメディカル MEDIC MEDIA
学生へのメッセージ等	保健師選択科目です。保健師課程の履修を希望する学生は必ず履修しなければならない。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	2年	1	選択	
担当教員				
城島 哲子				
添付ファイル				
全担当教員				
公衆衛生看護における地域組織と様々なグループを育成する保健師の役割について学ぶとともに、組織・グループと協働して行う地域づくり活動が理解できる。				
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織・グループの概念と特徴が理解できる。 2. 地域組織化とグループ育成の方法が理解できる。 3. 地域ケアシステム構築のための専門職や地域組織のネットワーク化の意義が理解できる。 4. 小グループに参加して、自己理解を深めるとともにグループプロセスを理解する。 			
目標	小グループ体験では、看護師・保健師として対象者と対人関係を築くための基本的態度を育成します。			
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 小グループ体験では毎回「振り返りシート」を提出する。 2 講義では「出席カード」あるいはアリーバードで出席を確認する。 3 定期試験を実施する。(筆記試験60点、振り返りシート40点、合計100点) 4 再試験は実施しない。 			
授業計画	授業内容		授業形態	担当者
	第1回	2022年9月20日(火) 第3限：対面 小グループ体験① グループの定義、グループダイナミクス	講義・演習	城島
	第2回	2022年9月27日(火) 第3限：対面 小グループ体験② グループ運営の技術 エンカウンターグルー	講義・演習	城島
	第3回	2022年10月4日(火) 第3限：遠隔 小グループ体験③ ジョハリの窓 自己開示の意義とは	講義・演習	城島
	第4回	2022年10月11日(火) 第3限：対面 小グループ体験④ グループプロセス グループの変化と成長	講義	城島
	第5回	2022年10月18日(火) 第3限：遠隔 講義① 公衆衛生看護における地域組織活動の位置づけと概念	講義	城島
	第6回	2022年10月25日(火) 第3限：対面 講義② 健康増進と地域づくりをめざしたグループ活動	講義	城島
	第7回	2022年11月1日(火) 第3限：遠隔 講義③ 患者会・当事者によるセルフヘルプグループ	講義	城島
	第8回	2022年11月8日(火) 第3限：遠隔 講義④ 地域ケアシステムづくりとネットワーク化	講義	城島
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理しておく。			
テキスト	標準保健師講座② 対象別地域看護技術 医学書院			
参考書	講義中に紹介する。			
学生へのメッセージ等	保健師選択科目です。保健師課程の希望者は必ず履修すること。			

5. 3年次開講科目の授業内容

講義科目名称： 公衆衛生概論

授業コード： K090250

英文科目名称： Introduction to public health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	3年	1	必修	
担当教員				
今村 知明				
添付ファイル				
全担当教員 今村 知明、野田 龍也、岡本 左和子、西岡 祐一				
概要	公衆衛生学の基本的な概念を獲得する。また、社会と看護・医学・医療との関わりを考える。			
目標	公衆衛生学をなぜ学ぶ必要があるかを説明できる 公衆衛生学の概要について説明できる 厚生行政の概要について説明でき、その課題をあげることができる わが国における健康水準の現状が説明でき、その課題をあげることができる。 感染症や食品保健、母子保健、生活習慣病などについて説明でき、その課題をあげることができる。 一般衛生行政、環境行政、労働衛生行政の仕組みを説明できる。 産業保健、環境保健、その他公衆衛生上重要な保健問題について概略を説明できる。			
評価方法	評価方法：定期試験（80%）と授業参加度（20%）により判定 評価基準：看護師国家試験での公衆衛生分野レベルの知識をクリアしていること			
授業計画	授業内容		授業形態	担当者
	第1回	2022年4月8日（金） 【対面講義】公衆衛生概論①（衛生行政とは 保健師とは何か）	講義	今村 知明
	第2回	2022年4月15日（金） 【web講義】公衆衛生概論②（公衆衛生とは何か、ゲーム講義）	講義	今村 知明
	第3回	2022年4月22日（金） 【対面講義】医療資源、国際保健、生活習慣病	講義	西岡 祐一
	第4回	2022年5月6日（金） 【対面講義】看護行政	講義	清水 多嘉子（がん研究会有明病院）、久保慎一郎（厚生労働省）
	第5回	2022年5月13日（金） 【web講義】産業衛生	講義	神奈川 芳行（JR東日本）
	第6回	2022年5月20日（金） 【対面講義】環境保健、学校保健	講義	岡本 左和子
	第7回	2022年5月27日（金） 【web講義】感染症、食品保健	講義	西岡 祐一
	第8回	2022年6月3日（金） 【web講義】母子保健、老人保健と介護保険	講義	野田 龍也
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に「国民衛生の動向」など指定するテキストを精読すること			
テキスト	「国民衛生の動向（厚生労働統計協会編）」最新版は必須 「公衆衛生がみえる 2022-2023（メディックメディア）」 必要に応じて、テキストを指定する			
参考書	講義中に紹介する			
学生へのメッセージ等	講義中の私語厳禁 公衆衛生の必要性和重要性について理解してほしい			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

全担当教員	周藤 俊治		
概要	統計学の基礎を理解するとともに、データの収集・解析・結果の解釈に必要とされる基礎知識を修得する		
目標	1) データの特性および目的に合わせた統計処理ができる 2) 適切な検定手法を選択することができる 3) 検定の意義と限界について説明できる 4) 統計データから対象集団の状況を説明することができる 5) 保健統計の種類と内容について説明できる		
評価方法	評価方法 定期試験 (100%) 評価基準 講義内容の理解及び、事後学修の内容が定着しているか		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 記述統計 (1) 尺度とデータ形式, 度数分布, ヒストグラム	講義	周藤
	第2回 記述統計 (2) 代表値, 散布度, 箱ひげ図	講義	周藤
	第3回 推測検定 (1) 平均値の推定	講義	周藤
	第4回 推測検定 (2) 平均値の検定	講義	周藤
	第5回 人口統計 静態統計, 動態統計, 率	講義	周藤
	第6回 死因統計 交絡因子, 直接法, 間接法	講義	周藤
	第7回 疾病統計 国民生活基礎調査, 患者調査	講義	周藤
	第8回 まとめ	講義	周藤
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修 事前に講義資料を授業サイト https://medbb.net に掲載するので、内容を確認し不明な用語など調べておくこと。 事後学修 授業中に示す課題に取り組むとともに、授業サイトを閲覧しながら講義内容を振り返り、理解できなかった部分を解消したうえで、授業の内容を整理しておくこと。		
テキスト	1) 系統看護学講座 基礎分野 統計学 (医学書院) 2) 公衆衛生がみえる (メディックメディア)		
参考書	看護学生のための疫学と保健統計 (建帛社) ナースのための統計学 (医学書院)		
学生へのメッセージ等	講義概要・補足資料・参考図書等の情報は、ウェブページ (https://medbb.net) に掲載します。 統計は夢と希望と勇気をもたらしますが、願望を叶えてくれるアイテムではありません。受講者が統計に振り回されない保健医療分野の人材になることを願っています。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	選択
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

全担当教員	周藤 俊治		
概要	公衆衛生分野において必要とされるデータの収集や分析の知識及び実践力の獲得		
目標	1) e-statなどを用いてインターネット上で公開されている情報から必要な情報を収集できる 2) 目的に合わせた図表類の作成ができる 3) 目的に合わせた統計手法を選択し、実際に検討ができる		
評価方法	評価方法 定期試験 (100%) 評価基準 講義内容の理解及び、事後学修の内容が定着しているか		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 既存の統計資料の入手と活用 (1) 厚生労働統計 (医療)	講義・演習	周藤
	第2回 既存の統計資料の入手と活用 (2) 厚生労働統計 (健康)	講義・演習	周藤
	第3回 既存の統計資料の入手と活用 (3) 文部科学省, 総務省の統計資料	講義・演習	周藤
	第4回 パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 t検定, ウィルコクソンの符号付順位検定	講義・演習	周藤
	第5回 割合の推定と検定 カイ二乗検定, オッズ比	講義・演習	周藤
	第6回 相対危険, 寄与危険 リスク比, オッズ比, ハザード比	講義・演習	周藤
	第7回 信頼性と妥当性 標本サイズ, カッパ, クロンバックの α	講義・演習	周藤
	第8回 まとめ	講義・演習	周藤
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修 事前に講義資料を授業サイト https://medbb.net に掲載するので、内容を確認し不明な用語など調べておくこと 事後学修 授業中に示す課題に取り組むとともに、授業サイトを閲覧しながら講義内容を振り返り、理解できなかった部分を解消したうえで、授業の内容を整理しておくこと		
テキスト	1) 基礎から学ぶ楽しい保健統計 (医学書院) 2) 公衆衛生がみえる (メディックメディア)		
参考書			
学生へのメッセージ等	PCを用いてデータ取得および分析を行います。 講義概要・補足資料・参考図書等の情報は、ウェブページ (https://medbb.net) に掲載します。既存のデータを用いる限界と調査による情報収集の難しさについて理解されることで、目的と状況に応じて世の中に必要とされる情報を整理し発信できる人材になることを願っています。		

講義科目名称： 医療安全

授業コード： K090860

英文科目名称： Medical Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子／飛田 伊都子／徳谷 純子		
概要	医療を受ける人々または医療従事者によって、安全で質の高い医療を提供するための基礎的知識について知り、薬剤事故事例等の原因やその対策を検討する。個人学習やグループワークを通して、看護実践に活用出来る医療安全の視点を学ぶ。		
目標	1) 医療安全を学ぶ意義について学び、事故の視点で看護業務を理解し、事故予防の対策や視点について説明できる。 2) 薬剤事故の傾向を知り、薬剤の管理が理解でき、看護師の薬剤業務の役割について述べるができる。 3) 感染防止対策について学び、実践内容が説明できる。		
評価方法	授業参加度 (20%)、課題学習状況 (50%)、知識習得度確認 (20%)、学びと今後の課題 (10%)		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 医療安全を学ぶ意義/医療事故と看護業務	講義	松田
	第2回 診療補助業務における事故とその対策	講義	松田
	第3回 薬と安全管理	演習	ゲスト
	第4回 職業感染防止/感染防止の実際	演習	徳谷
	第5回 医療事故の分析 (行動分析学による事故発生時の環境要因と行動との関係の検討)	講義/演習	飛田伊都子
	第6回 行動分析学的事故事例分析 (GWと解説) /知識習得度確認	講義	飛田伊都子
	第7・8回 高齢者の薬剤管理	講義	松田
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前・事後学修：各単元の目的に沿って学習する。各課題に沿って提示された内容を学習する。		
テキスト	・1年次の看護学概論で使用したテキストおよび2年次の看護技術学ⅠⅡで使用したテキスト。		
参考書	講義時に紹介する。 ・系統看護学講座：統合分野、医療安全、医学書院。		
学生へのメッセージ等	ヒューマンエラー対策で最も重要なことは「自分を知る！」ことです。 対象者への看護を行う際、行為の意味や行為の優先順位を考え、行動できるように常に意識しましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	必修
担当教員			
栗田 麻美			
添付ファイル			

全担当教員	栗田 麻美／小竹 久実子／西森 旬恵／羽場 香織		
概要	健康上の課題を持ちながら地域で暮らす療養者と、その人を取りまく人々を理解し、その人らしく暮らし続けるための具体的な看護を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護における援助的コミュニケーションの特徴を踏まえて行動することができる。 2) 対象者が望む自分らしい暮らしについて、人生ストーリーをふまえて捉えることができる。 3) 対象者のニーズを捉えた看護過程を展開できる。 4) 対象者の在宅生活を豊かにするために活用できる社会資源を理解できる。 5) 対象者が在宅で自分らしく暮らしていくためのチームケアの実際が理解できる。 6) 対象者が自分らしく暮らしていくための地域包括ケアシステムを具体的に検討できる。 7) 療養者とその人を取りまく人々へ真摯に向き合う姿勢をもって行動をすることができる。 8) 対象者へ在宅看護を提供するにあたって、倫理的配慮の必要性と重要性に気づくことができる。 9) 在宅看護実践へ向けての自己の課題を明確化することができる。 		
評価方法	定期試験60%、授業への取り組み20%、レポート20%で評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 生活の視点からの対象理解 ①	講義 演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第2回 生活の視点からの対象理解 ②	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第3回 生活の視点からの対象理解 ③	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第4回 生活の視点からの対象理解 ④	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第5回 生活の視点からの対象理解 ⑤	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第6回 生活の視点からの対象理解 ⑥	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第7回 在宅における援助的コミュニケーション ①	講義 演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第8回 在宅における援助的コミュニケーション ②	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第9回 在宅における援助的コミュニケーション ③	講義 演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第10回 在宅における援助的コミュニケーション ④	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第11回 在宅における援助的コミュニケーション ⑤	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野 他
	第12回 在宅における援助的コミュニケーション ⑥	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野 他
	第13回 在宅における援助的コミュニケーション ⑦	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野 他
	第14回 在宅における援助的コミュニケーション ⑧	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野 他

	第15回 対象理解：難病療養者 ①	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第16回 対象理解：難病療養者 ②	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第17回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ①	講義 演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第18回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ②	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第19回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ③	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第20回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ④	演習	栗田、西森 羽場、小竹 他
	第21回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ⑤	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野、他
	第22回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ⑥	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野、他
	第23回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ⑦	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野、他
	第24回 生活の再構築を必要とする対象者への支援 ⑧	演習	栗田、西森 羽場、小竹 増野、他
	第25回 人生の最終段階にある対象者への支援 ①	講義 演習	朝倉、高山 栗田、西森 羽場、小竹 他
	第26回 人生の最終段階にある対象者への支援 ②	講義 演習	朝倉、高山 栗田、西森 羽場、小竹 他
	第27回 人生の最終段階にある対象者への支援 ③	講義 演習	栗田、松本 西森、羽場 小竹、他
	第28回 人生の最終段階にある対象者への支援 ④	演習	栗田、松本 西森、羽場 小竹、他
	第29回 人生の最終段階にある対象者への支援 ⑤	演習	栗田、松本 西森、羽場 小竹、他
	第30回 人生の最終段階にある対象者への支援 ⑥	演習 講義	栗田、松本 西森、羽場 小竹、他
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各演習の内容に沿って、必要な知識をレポートにまとめ学修する。 （初回の授業で、レポートのテーマと提出方法・期限を提示する） 事後学修：授業のグループワークを踏まえて、個別の対象者の看護過程の展開を行う。		
テキスト	1) 杉本正子 他編集：在宅看護論－実践をことばに－（第6版）、ヌーヴェルヒロカワ、2019		
参考書	1) 河野あゆみ 編集：新体系 看護学全書 在宅看護論（第5版）、メヂカルフレンド社、2022 2) 臺由香 他：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域を支えるケア、メディカ出版、2022 3) 臺由香 他：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術、メディカ出版、2022 4) 秋山正子 他：系統看護学講座 在宅看護論（第5版）、医学書院、2017 5) 押川真喜子 監修：写真で分かる訪問看護アドバンス、インターメディカ、2016 6) 宇都宮宏子、山田雅子：看護がつながる在宅療養移行支援 一病院・在宅の患者像別看護ケアのマネジメント、日本看護協会出版会、2014		
学生へのメッセージ等	健康上の課題を持ちながら地域で暮らす療養者と、その人を取りまく人々が自分らしく暮らし続けられることを目指して、具体的に対象者の生活のイメージをしながら学びを深めていきましょう。 メンバーと協働し、活発なディスカッションを通じて、主体的に学んでほしいと思います。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	必修
担当教員			
堀内 沙央里			
添付ファイル			

全担当教員	堀内 沙央里		
概要	看護職が行う健康教育の必要性や目的を理解し、健康教育の基礎的な理論、教育内容、方法、および手順を修得する。		
目標	1. 健康教育・ヘルスプロモーションの基礎理論を理解する 2. 健康教育の企画・運営・実践方法を理解する		
評価方法	評価方法：定期試験（70%）、授業を通して作成する健康教育案；健康教育企画書・指導案・媒体・健康教育のシナリオ（30%） 評価基準：定期試験では、15回の講義・演習内容が理解できているかを評価する。健康教育案では、対象や目的に合った指導内容・時間・媒体となっているか、授業での学びが媒体の作成や発表に生かされているか、オリジナリティのあるものになっているかを評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ヘルスプロモーションの歴史的背景 WHOの世界戦略、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	講義	堀内
	第2回 健康教育の歴史と定義・目的	講義	堀内
	第3回 健康教育の計画1 健康教育企画書：テーマ、対象、実施場所等の決定 グループ討議	講義・演習	堀内
	第4回 健康教育の計画2 健康教育企画書の作成	講義	堀内
	第5回 指導案の作成と健康教育の実施 指導案の作成方法、健康教育の媒体・学習方法・教育技法	講義	堀内
	第6回 健康教育演習1 企画書の作成/グループ討議	演習	堀内
	第7回 保健行動と行動変容1 セルフエフィカシー、エンパワメント他	講義	堀内
	第8回 保健行動と行動変容2 行動変容に影響を与えるもの	講義	堀内
	第9回 健康教育演習2 指導案と健康教育媒体の作成/グループ討議	演習	堀内
	第10回 健康教育の理論とモデル1 場の理論、変化ステージ理論他	講義	堀内
	第11回 健康教育の理論とモデル2 保健信念モデル、合理的行為理論他	講義	堀内
	第12回 健康教育の理論とモデル3/健康教育案の修正 プリシード・プロシードモデル 健康教育企画書・指導案の修正	講義	堀内
	第13回 健康教育演習3 健康教育企画書・指導案・媒体・発表原稿の作成・修正(個別質問受付)	演習	堀内
	第14回 健康教育演習4 健康教育企画書・指導案・媒体・発表原稿の検討 グループ討	講義・演習	堀内

	議 パワーポイントを使用した媒体の作成方法とプレゼンテーション方法		
	第15回 健康教育演習5 発表と講評、まとめ	講義・演習	堀内
授業外学修（事前学修・事後学修）	1. 講義の前後に単元に関する教科書の箇所を精読する。 2. 講義・演習の内容を踏まえて、健康教育案の作成および修正を行う。		
テキスト	1) 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 2) 荒賀直子・後閑容子編. 公衆衛生看護学. JP: インターメディカル		
参考書	1) 松本千明著. 医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎: 医歯薬出版株式会社		
学生へのメッセージ等	ヘルスプロモーション、行動変容の理論を基盤とした健康教育のプロセスを学び、公衆衛生・医療の現場で実践できるよう学習していきます。演習ではワード、パワーポイントを使います。演習の際に各自でパソコンを持参すると、効率よく進めることができます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	必修
担当教員			
小竹 久実子			
添付ファイル			

全担当教員	小竹 久実子/栗田 麻美/西森 旬恵/羽場 香織
概要	健康上の課題を持ちながら在宅で療養する人と、取りまく人々の理解を深め、在宅看護の実際を学ぶ。
目標	<ol style="list-style-type: none"> 在宅で生活を送る対象を理解する <ol style="list-style-type: none"> 対象者の健康状態を説明できる 対象者の健康状態が生活全般におよぼす影響を説明できる 対象者を取り巻く人々の心身状態や生活の様子を説明できる 対象者が生活に対して持つ希望を把握できる 在宅における看護過程を展開する <ol style="list-style-type: none"> 必要な情報を収集できる 対象者の全体像をとらえ、アセスメントできる 対象者がのぞむ暮らしをとらえ、説明できる 看護目標を対象者と共に考え、設定できる 具体的な看護計画を立案できる 看護計画に基づき看護を実践できる 看護過程の評価、および修正ができる 立案した看護計画を見直すことができる 対象者の尊厳と安全を保障する支援の実際を理解する <ol style="list-style-type: none"> 対象者の価値観や主体性を尊重した関わりができる 対象者のプライバシーを尊重した行動ができる 看護師が行っている医療安全や危機管理に対する取り組みを説明できる 対象者の暮らしに関わる人々との連携や協働の実際と、その意義を理解する <ol style="list-style-type: none"> 対象者に適した社会資源の活用を説明できる 対象者の暮らしに関わる人々との連携や協働の実際を説明できる 人々が健康に暮らすために看護師が取り組んでいる地域への働きかけを説明できる 対象者の継続看護について考察できる 看護師の一員として自己の役割を理解し、行動する <ol style="list-style-type: none"> 主体的に実習に取り組める 対象者を取り巻く人々の一員として行動できる 自己の健康管理ができる 実習を通して自己の課題を明確にできる
評価方法	実習参加状況と実習全体での取り組み(実習態度を含む)、事前学修、および事後学修を総合して評価する。実習目標に対する到達度は、それぞれの下位目標を参照のこと。評価方法は、実習要項に準ずる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 実習施設：奈良県内訪問看護ステーション 17ヶ所 実習期間：2週間 実習方法：訪問看護を利用している療養者を原則1名受持ち、看護を展開する。 その他、1日2-4名程度の療養者に、訪問看護師とともに訪問し、看護を実践する。 詳細は、在宅看護学実習要項を参照のこと。 ※ COVID-19の状況によっては、変更する可能性もある。 実習記録：在宅看護学実習要項を参照
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：1) 「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」における学習内容全般を復習する。 2) 既習の基本的な看護技術に関する知識の復習、および技術の習得を各自行う。 3) 在宅で療養する対象者に行われることが多い医療処置(13項目予定)のレポートを作成する。 4) 在宅で生活する療養者のバイタルサインの測定に関するレポートを作成する。 5) 実習施設周辺の地域に関するレポートを作成する。 6) 実習中：対象理解や看護活動の理解を深めるために必要な知識の確認、および対象者のアセスメントや看護計画の具体化等を随時行う。</p> <p>事後学修：1) その日の実習での体験や気づきに基づき、訪問した対象者の理解や看護実践の振り返りを行う。 2) 対象者に関わる多職種との連携の実際を考察する。 3) 翌日以降の自己の課題を明確にする。</p>
テキスト	杉本正子 他編集：在宅看護論 ー実践をことばにー (第6版)、ヌーヴェルヒロカワ、2019。
参考書	デジタルナースング・グラフィカ、メディカ出版、2021。 その他「在宅看護学概論」および「在宅看護学援助論」で示した参考図書に加え、随時実習中に提示する。
学生へのメッセージ等	在宅で療養しながらも豊かな生活を送る“Aging in Place”実現のために、在宅看護実践力を養うことは重要です。在宅看護における生活の視点は、在宅療養の場面のみならず、どの場においても必要な根幹となる看護の視点です。療養者とその家族を支えるために多職種のチームの方々との連携の必要性を理解し、看護実践へとつなげていってください。その看護実践から、行った援助が看護であったのかどうか振り返り、自らの看護観の醸成につなげていってください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
松田 常美			
添付ファイル			

全担当教員	松田 常美／石澤 美保子／森脇 裕美／堀井 えりな		
概要	手術療法を受ける患者および危機的状況にある患者とその家族を対象とし、看護実践に活用できる基礎的能力を習得する。		
目標	1) 手術療法を受ける患者の事例を用いて看護過程の展開を習得する。 2) 手術を受ける患者に必要な援助技術を習得する。 3) 救急看護の概要を理解し、一次救命処置を習得する。		
評価方法	評価方法：定期試験60％・演習評価30％・レポート10％ 評価基準：定期試験 学習内容が知識として定着しているか 演習評価 提示された事前・事後学修内容を理解し、十分な準備をしたうえで積極的に参加することができているか。演習内容を理解し、知識を活用しながら記録することができているか。 レポート 課題について、学んだ内容を整理することができているか。課題について、自身の考えを提示することができているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス 周術期における看護過程の展開	講義	石澤 美保子
	第2回 看護過程の展開1 情報の整理・解釈	講義	松田 常美／石澤 美保子／堀井 えりな
	第3回 看護過程の展開2 情報の統合・関連図	演習	松田 常美／石澤 美保子／堀井 えりな
	第4回 手術後の回復を促進するための看護1	講義	松田 常美
	第5回 ストーマ造設を受ける患者の看護	講義	石澤 美保子
	第6回 ストーマ造設を受ける患者の看護技術演習	演習	石澤 美保子／松田 常美／堀井 えりな／皮膚・排泄ケア認定特定看護師
	第7回 手術後の回復を促進するための看護技術2 ―術後患者のドレーン管理、寝衣交換等―	講義	松田 常美
	第8回 創傷管理論1	講義	石澤 美保子
	第9回 創傷管理論2 創傷管理技術―創傷管理におけるドレッシング、エコーの活用方法―	講義	石澤 美保子
	第10回 救急看護1	講義	松田 常美
	第11回 救急看護2	講義	救急看護認定看護師
	第12回 看護過程の展開3 看護計画	演習	松田 常美／森脇 裕美／堀井 えりな
	第13回 看護過程の展開4 看護計画	講義	松田 常美／森脇 裕美／堀井 えりな
第14回	講義	森脇 裕美	

	周術期におけるフィジカルアセスメント1 一次救命処置		
	第15回 周術期におけるフィジカルアセスメント2 一次救命処置	講義	森脇 裕美
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修:配布された講義資料と単元に関する教科書の箇所をすべて精読してから講義に臨むこと。 事後学修:講義・演習の内容をふまえた課題に取り組むこと。		
テキスト	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 江川隆子編 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーヴェルヒロカワ		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章／石橋 千夏／田中 登美		
概要	がんとともに生きる患者とその家族の特徴を理解し、患者や家族が病気をマネジメントしながらその人らしく生活できるよう、健康レベルに応じて支援するために必要な知識や技術について学ぶ。		
目標	1) 慢性疾患としてのがんを通して、患者の健康レベルに応じた看護援助の過程を習得する。 2) 患者や家族が病気をマネジメントできるようにするための、支援方法の実際を理解する。 3) 慢性疾患やその治療に伴う身体・心理・社会的な影響について理解する。		
評価方法	評価方法：課題レポート2回（8%）、小テスト1回（5%）、演習参加度・提出物（22%）、定期試験（65%） 評価基準：課題レポートは、講義を聞き課題テーマについて自分の意見を持ち述べているか。演習参加度・提出物は看護展開について事例の特徴をつかんだアセスメントや計画立案ができているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 慢性期疾患としてのがんの特徴とがん看護の基本 ガイダンス ・がん看護の歩み ・がん医療の基礎知識	講義	升田
	第2回 がんと共に生きる患者と家族の特徴 ・がんサバイバーシップ ・がん患者の特徴、家族の特徴 ・チーム医療の提供	講義	升田
	第3回 化学療法を受ける患者の看護1 ・化学療法の基礎知識 ・化学療法を受ける患者の特徴	講義	升田
	第4回 化学療法を受ける患者の看護2 ・有害事象に関する看護 ・外来化学療法を受ける患者の看護	講義	升田
	第5回 分子標的薬・免疫療法を受ける患者の看護	講義	升田
	第6回 化学療法を受ける患者の理解と看護1（事例展開） 看護過程について 看護過程の振り返り（看護診断：ゴードン）	講義	升田
	第7回 化学療法を受ける患者の理解と看護2（事例展開） 看護過程：情報の整理1	講義・演習	升田
	第8回 がん治療を受ける患者の体験と看護の実際	講義	ゲストスピーカー
	第9回 化学療法を受ける患者の理解と看護3 事例展開：全体像（関連図）と看護の方向性	講義・演習	升田
	第10回 がん患者を取り巻く倫理的課題	講義	ゲストスピーカー
	第11回 化学療法を受ける患者の理解と看護4 事例展開：看護計画立案	講義・演習	升田
	第12回 臓器別がんによる特徴と治療を受ける患者の看護 看護過程の振り返り含む	講義	升田
	第13回 放射線療法を受ける患者の看護 ・放射線療法の基礎知識	講義	升田

	・放射線療法を受ける患者のアセスメントと看護		
	第14回 症状マネジメント	講義	升田
	第15回 慢性疾患をもつ人と家族への支援	講義	升田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：事前に単元に関する教科書を精読し、既習内容で不明な点は、成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ、人体構造学、人体機能学、病態医学、臨床薬理学等を復習し授業に臨んでください。 事後学修：授業で理解した内容をまとめ整理し理解できていない部分は調べておく。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]～[10] 医学書院 成人看護学 慢性期看護論 ヌーヴェルヒロカワ がん看護学 ヌーヴェルヒロカワ 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーヴェルヒロカワ		
参考書	授業の中で適宜提示します。		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 成人看護学実習 I（急性）

授業コード： K220050

英文科目名称： Adult Nursing Clinical Practicum I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	3	必修
担当教員			
松田 常美			
添付ファイル			
全担当教員			
松田 常美／森脇 裕美／堀井えりな／石澤 美保子			
概要	周術期にある患者およびその家族を、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、各期に応じた看護を実践するための能力を養う。		
目標	1) 患者およびその家族の特徴を理解し、援助的人間関係を構築できる。 2) 手術侵襲によっておこる生体反応が理解できる。 3) 情報を分析・統合し、関連図を用いて看護問題をあげることができる。 4) 看護問題に応じた看護目標、看護計画を立案し、看護実践を行うことができる。 5) 周手術期の患者への包括的アプローチにおける看護の役割を理解できる。 6) 看護学生として、自分の役割と責任を自覚して行動できる。		
評価方法	事前学修、実習記録、実習態度をもとに、実習目標に照らして総合的に評価する。 評価方法は、実習要項に準ずる。		
授業計画	1) 実習施設 奈良県立医科大学医学部附属病院（B棟4階・B棟6階・C棟6階・中央手術部・ICU） 2) 実習期間 3週間 3) 実習方法 原則として、一人の周手術期にある患者を受け持ち、看護を展開する。 詳細は、実習要項を参照のこと。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：事前に示された内容について、実践で活用できるよう整理し実習に臨むこと。 事後学修：日々の実習内容を振り返り、指定の様式で看護過程を展開すること。		
テキスト	担当教員より別途指示する。		
参考書	別途指示する。		
学生へのメッセージ等			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	3	必修
担当教員			
石橋 千夏			
添付ファイル			
全担当教員			
石橋 千夏／升田 茂章／田中 登美			
概要	慢性疾患とともに生きる患者と家族をさまざまな側面から理解し、その人らしく生きることができるように健康レベルに合わせて支援する基礎的能力を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者をさまざまな側面からとらえ、健康レベルを説明することができる。 慢性疾患をもつ患者や家族と援助関係を築くことができる。 慢性疾患をもつ患者と家族をアセスメントし、個別性に合わせて看護計画を立案できる。 慢性疾患をもつ患者と家族がその人らしく生活できるように援助することができる。 実践した看護を評価し、看護計画を修正することができる。 慢性疾患をもつ患者を取り巻くサポートシステムについて理解できる。 医療チーム・看護チームの一員としての役割を説明できる。 看護職者としてのあるべき態度を養う。 看護実践の意味を振り返り、ケース・レポートにまとめることができる。 		
評価方法	成人看護学実習Ⅱ評価表にそって、実習目標の到達状況を評価する。ただし実習に向けての準備状況（事前学習）や実習態度も含めて、総合的に評価する。評価方法は、実習要項に準ずる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 実習施設 奈良県立医科大学附属病院（C棟5階病棟、C棟7階病棟、C棟8階病棟） 実習期間 3週間 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 事前学習 原則として一人の入院患者を受け持ち、看護を展開する（詳細は実習要項を参照のこと） 実習記録 実習要項を参照のこと 		
授業外学修（事前学修・事後学修）	病棟ごとに事前学習課題を提示する。		
テキスト			
参考書	適宜紹介する		
学生へのメッセージ等	慢性疾患とともに生きる患者・家族にとって、入院は療養生活の一時期にすぎません。しかし、患者や家族がその人らしく生きていくための方向付けとなる、看護の役割が重要となる期間です。個別性が高く難しさを感じるでしょうが、患者や家族とともに模索することで、患者・家族とともに歩む看護を感じてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子		
概要	加齢に伴う疾病や障がいもちながら病院・施設・在宅等で生活する高齢者と家族について理解する。高齢者の生理的加齢変化と疾患の特徴を踏まえ、看護過程を展開できる。高齢者施設における看護の役割を理解する。		
目標	1. 加齢に伴う疾病や障がいもちながら病院・施設・在宅等で生活する高齢者と家族について理解する。 2. 高齢者の生理的加齢変化と疾患の特徴を統合してアセスメントを進めることができる。 3. 優先順位を考え、計画の立案と修正ができる。 4. 高齢者施設におけるケアと看護師の役割を学ぶ。		
評価方法	定期試験60%、課題レポート40%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 老年看護学の看護過程 活動	講義	澤見、木村、古角
	第2回 MMT測定の理解	演習	理学療法士、澤見、木村、古角
	第3回 看護過程 睡眠	講義	澤見、木村、古角
	第4回 MMT測定の実際 上肢の関節、グループワーク	演習 演習	理学療法士、澤見、木村、古角
	第5回 看護過程 認知	講義	澤見、木村、古角
	第6回 MMT測定の実際 下肢の関節、グループワーク	演習 演習	理学療法士、澤見、木村、古角
	第7回 グループワーク発表（遠隔）	講義	澤見、木村、古角
	第8回 看護過程 認知	講義	澤見、木村、古角
	第9回 看護過程 自己知覚、役割	講義	澤見、木村、古角
	第10回 消化器患者のアセスメント・計画 事例1,2	講義	澤見、木村、古角
	第11回 消化器患者の評価・修正 事例1,2 実習で成長できたこと	講義	木村、古角、澤見
	第12回 タクティールマッサージ、施設実習の実際、グループワーク	演習 演習	木村、古角、澤見
	第13回 関連図	講義	木村、澤見、古角
	第14回 看護計画	講義	木村、澤見、古角
	第15回 死生学	講義	木村、澤見、古角

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。それを踏まえて授業中の課題を完成する。 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。
テキスト	2年次と同様のテキスト（2年次に購入した『看護診断ハンドブック』を引き続き使用するので購入は不要です）
参考書	授業中に適宜紹介します。
学生へのメッセージ等	人生の最終段階で出会いたいのは、質の高い看護を提供できる看護師です。 高齢者に最高の看護ケアを提供できるようしっかり学んでいきましょう。 実習に向けて看護過程にしっかり取り組みましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	4	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			
全担当教員			
澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子			
概要	高齢者の特徴とその多様性を理解し、高齢者を包括的にアセスメントし、他職種チームの一員としての高齢者の療養生活の向上をめざした看護実践を行い、老年看護の専門性について考察する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴とその多様性について理解することができる。 2. 高齢者に対する尊厳のある姿勢や態度を身につけ、援助的人間関係を築くことができる。 3. 高齢者を包括的にアセスメントし、個別性に応じた看護を計画し、実施、評価することができる。 4. 高齢者の療養生活の質の向上をめざした看護について考えることができる。 5. 高齢者と家族を取り巻く医療・保健・福祉の制度や資源について理解する。 6. 老年看護における看護職の役割を考えることができる。 7. 保健医療チームのメンバーとしてのあり方について考えることができる。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 評価方法 老年看護学実習A・Bにおける実習目標到達度（評価表）をもとに総合的に評価する。 評価方法は、実習要項に準ずる。 2) 評価の視点 事前学習内容、実習記録、課題レポート、実習態度等 		
授業計画	<p>医療施設実習 脳神経外科における実習 消化器内科における実習</p> <p>高齢者施設実習 グループホーム実習 特別養護老人ホーム実習 介護老人保健施設実習</p> <p>実習期間：医療施設2週間、高齢者施設2週間</p> <p>実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習 2) 高齢者施設実習では、1ユニットの利用者を対象として、看護を展開する。 3) 医療施設実習では、一人の入院患者を受け持ち、看護を展開する。 (詳細は実習要項を参照のこと) </p> <p>実習記録 実習要項を参照のこと。</p>		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：実習要項に記載してある内容をレポートにまとめ、実習初日の朝に提出すること</p> <p>事後学修：実習要項に記載してある内容をレポートにまとめ、実習終了日の17時までに提出すること</p>		
テキスト	看護診断ハンドブック		
参考書	実習の中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	<p>老年看護学概論や老年看護学援助論で学習した理論や知識に基づき、老年看護を実践してください。</p> <p>高齢者の方から多くのことを学ばせていただける機会です。</p> <p>高齢者の尊厳を常に意識して実習してください。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
山田 晃子			
添付ファイル			

全担当教員	山田 晃子／川上 あずさ		
概要	様々な生活状況、健康状態における子どもと家族への看護援助について理解する。 子どもと家族への看護援助を展開するための科学的な思考過程（看護問題の明確化とその解決策の立案および実践の効果検討方法）について基礎的知識を習得する。		
目標	1) 疾患や健康障害をもつ子ども、様々な生活状況にある子どもとその家族に対する援助を考え説明できる。 2) 子どもの発達段階に応じた援助方法について説明できる。 3) 看護援助において、子どもと家族が力を発揮できるように必要な取り組みを説明できる。 4) 子どもとその家族への看護過程を展開するための思考過程を記述できる。		
評価方法	定期テスト40%：出題範囲第1回～第15回 看護援助技術演習レポート5%：必要な知識を整理し事前準備（学習課題の作成）が行えているか 看護過程の展開40%：提出記録とロールプレイの取り組み（看護計画発表会）を評価表により評価 授業の取り組み状況15%：①講義中の課題や講義後の振り返りが提出できているか。②グループワークへの取り組み③看護過程演習の発表会に積極的に発言しているか		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義	山田
	第2回 子どもの救命・救急時の看護①	講義	山田
	第3回 子どもの救命・救急時の看護② 災害時の子どもと家族の看護	講義	山田
	第4回 検査や処置を受ける子どもと家族への看護	講義	山田
	第5回 子どもの検査や処置時の看護技術	講義	山田
	第6回 子どもの検査や処置時の看護技術演習 ①	演習	山田
	第7回 子どもの検査や処置時の看護技術演習 ②	演習	山田/川上/教育講師
	第8回 看護過程の展開方法 事例紹介	講義	山田
	第9回 事例を用いた看護過程の展開 ①（情報の整理とアセスメント1）	演習	山田/川上
	第10回 事例を用いた看護過程の展開 ②（アセスメント2）	演習	山田/川上
	第11回 事例を用いた看護過程の展開 ③（看護問題の抽出）	演習	山田/川上
	第12回 事例を用いた看護過程の展開 ④（看護計画の立案）	演習	山田/川上
	第13回 事例を用いた看護過程の展開 ⑤（ロールプレイによる看護計画の実施・評価）	演習	山田/川上
	第14回	演習	山田/川上

	事例を用いた看護過程の展開 ⑥ (看護過程の展開の発表会)		
	第15回 事例を用いた看護過程の展開 ⑦ (まとめ) /病気の子どもとその家族を支える看護実践	講義	山田/教育講師
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修 講義 該当する教科書の章を読んでおく 演習 事前学習課題に取り組む、演習に取り組むために必要と考える資料を集めておく 事後学修 配布資料、講義や演習内容を振り返り、学びをまとめる。		
テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院		
参考書	写真でわかる小児看護技術 山元恵子監修 インターメディカ 新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 松尾宣武 濱中喜代編 メヂカルフレンド社 授業でも提示する。		
学生へのメッセージ等	子どもの健やかな育ちを家族と共にどのように支えていくかを考えます。学習に対する積極的な態度及び、演習ではグループメンバーと協力して取り組む姿勢を重視します。 看護技術演習及び看護過程演習の一部は、2クラスに分かれて行います。時間割に変更が生じるため、掲示や教員からの説明を聞き洩らさないようにして下さい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	必修
担当教員			
山田 晃子			
添付ファイル			
全担当教員			
山田 晃子／小代 仁美／川上 あずさ			
概要	既習の知識・技術を統合し、小児およびその家族の健康生活の向上を支援する看護の実践能力を習得する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護が機能する医療の場の特徴と看護の役割について述べるができる。 2) それぞれの医療の場における安全管理（感染・事故防止）のあり方が理解できる。 3) 小児看護の対象となる小児の成長・発達過程が理解できる。 4) 小児の健康の回復・維持のために行われている治療方法を述べるができる。 5) 小児の健康の回復・維持のための看護が実践できる。 6) 小児の健康問題（病態、治療、入院）が小児や家族の生活に及ぼす影響を理解できる。 7) 小児を取り巻く保健・医療・福祉・教育の役割および連携について理解できる。 8) 思考過程を整理して説明することができる。 9) 学習者として真摯な態度で実習に臨むことができる。 		
評価方法	実習記録、実習態度から、実習目標の到達度に基づき評価する。 評価方法は、実習要項に準ずる。		
授業計画	<p>実習期間 2週間</p> <p>実習施設 奈良県立医科大学附属病院 小児センター（一部の学生） 国保中央病院 小児科病棟（一部の学生） 奈良県立医科大学附属病院 新生児集中治療部 NICU・GCU（全員）</p> <p>実習方法 原則として、病棟では入院している患児を受け持ち、看護を展開する。 NICU・GCUでは、見学実習を行う。 詳細は小児看護学実習要項参照のこと。</p>		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修 実習要項に記載している事前学習を参照して、自己学習をしてください。</p> <p>事後学修 実習内容を振り返り、実習記録に整理する。</p>		
テキスト	小児看護学援助論Ⅰで作成した「事前学習 子どもの主要疾患とその看護」は、実習時に持参する。小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ資料や看護過程演習録、及び人間発達論、人体構造学、人体機能学、病態医学、栄養学、薬理学、看護技術学など3年次までに学習した内容を資料として活用できるように整理して1つのファイルにまとめておくこと。		
参考書	実習中に提示する。		
学生へのメッセージ等	実習は“子ども”が対象であるため、小児期に罹る伝染性疾患（風疹、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎）の抗体価が低い学生は、実習までに予防接種を受けるなど何らかの対処をしておくこと。また、11月以降に実習する学生は、インフルエンザについても、同じく予防接種を受けるなどの対処をしておくこと。予防接種を受けるなどの対処をしていない場合は、実習の履修ができないことがある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
森兼 眞理			
添付ファイル			

全担当教員	森兼 眞理		
概要	産褥・新生児の生理的変化を理解し、正常経過および正常から逸脱した褥婦、新生児の看護について理解できる。 褥婦と新生児、家族を中心とした看護について理解できる。 産後の母子及び家族の学修を通して生命の尊厳について考えることができる。		
目標	1) 産褥期および新生児期の正常経過を説明することができる。 2) 産褥・新生児の異常の看護を理解する。 3) 褥婦・新生児および家族への看護の基本を理解する。 4) 事例演習により、ウェルネス型看護診断に基づく看護過程を展開することができる。 5) 生命の尊厳について考えることができる。		
評価方法	試験70点（小テスト2回、および定期試験）、演習課題30点（レポート課題等） レポートはすべて教務システムにアップロードして提出してください。紙面での受付はしません。余裕をもって提出してください。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月7日（木） 授業ガイダンス、産褥経過	講義	森兼
	第2回 2022年4月14日（木） 褥婦のアセスメント／褥婦と家族の看護	講義	森兼
	第3回 2022年4月21日（木） 産褥の異常と看護	講義	森兼
	第4回 2022年4月28日（木） 褥婦の看護過程 step1	講義と演習	森兼
	第5回 2022年5月12日（木） 褥婦の看護過程 step2	講義と演習	森兼
	第6回 2022年5月19日（木） 授乳支援	講義	森兼
	第7回 2022年5月26日（木） 新生児の生理	講義	森兼
	第8回 2022年6月2日（木） 新生児のアセスメント	講義	森兼
	第9回 2022年6月9日（木） 新生児の異常と看護	講義	森兼
	第10回 2022年6月16日（木） 新生児の看護過程 step1	講義と演習	森兼
	第11回 2022年6月23日（木） 新生児の看護過程 step2	講義と演習	森兼
	第12回 2022年6月30日（木） 地域における母子の包括支援	講義	ゲストスピーカー
	第13回 2022年7月7日（木） 産褥期の看護ケア、保健指導～実習に向けて～	講義	看護教育講師
第14回 2022年7月14日（木） 帝王切開術後の看護とアセスメント	講義	森兼	

	第15回 2022年7月21日（木） 産褥期・新生児期のまとめ	講義	森兼
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修；事前に、授業で学習する教科書のページ数とキーワードを提示する。予習クイズを回答して臨むこと。 事後学修；授業終了時に復習クイズを提示する。次回授業までに回答しておくこと。		
テキスト	1. 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 2. ウェルネスにもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版株式会社 3. 新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ		
参考書	新体系看護学全書 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 目でみる妊娠と出産 文光堂 新生児ベーシックケア 医学書院		
学生へのメッセージ等	産褥期の女性は、分娩後から育児が始まります。 産褥期・新生児期の生理を理解して母子と家族の看護について考えましょう。 実習に直接関連する内容です。臨床での母子の看護に活かすことができるよう頑張ってください。 ※授業テーマおよび小テスト日程は授業の進捗及び授業形態によって変更することがあります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	必修
担当教員			
森兼 眞理			
添付ファイル			
全担当教員			
森兼 眞理／岡山 眞理／乾 つぶら／五十嵐 稔子			
概要	周産期の母子の特徴を理解し、母子及び家族が健康を維持できるよう基本的な看護実践能力を習得する。母性看護の視点から、生命の尊厳と人間尊重の態度を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的な経過を理解することができる 2. 母子関係および家族関係の構築を理解し援助ができる 3. ウェルネス看護診断に基づき看護過程が展開できる 4. 褥婦と新生児に関する基本的な観察技術が実施できる 5. 母子およびその家族への継続看護の必要性が理解できる 6. 保健医療チームとの連携が理解できる 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ①日々の実習目標の達成状況 ②ケースカンファレンスおよびテーマカンファレンス資料の作成（情報の整理、根拠、文献の活用）と参加状況 ③すべての実習記録 により総合的に評価する <p>※詳細は、実習評価表を参照のこと</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設 奈良県立医科大学附属病院 E棟5階 2. 実習期間 2週間（学内実習を含む） 3. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーション 2) 褥婦および新生児の看護展開（1～2組の母子を受け持つ） 3) 集団指導見学 4) 学内実習はケースカンファレンスおよびテーマカンファレンスを行う <p>※詳細は母性看護学実習要項を参照のこと</p>		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>★事前学修 以下の内容をファイルにまとめ実習に持参すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の実習目標をたてる 2) 妊娠期、分娩期、産褥期の生理的变化、心理社会的特性と看護について 3) 新生児の子宮外生活適応と看護について 4) 帝王切開術を受ける産婦の看護について 5) 妊娠および分娩期、産褥期に起こりやすい合併症について 		
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版		
参考書	新体系看護学全書 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 新生児ベーシックケア 医学書院		
学生へのメッセージ等	母性看護学概論および援助論で学んだ看護を実践する場です。妊産褥婦と新生児、家族を理解し、女性と家族を中心とした看護について考えていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
奥田 淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田 淳		
概要	精神看護に関する基礎的な知識を基に看護過程の展開、および各種の療法の体験を通して精神に健康問題を持つ人とその家族のアセスメントと看護援助の方法について修得する。		
目標	1) 主な精神症状の現れ方と観察のポイントが理解できる。 2) 事例に基づいて看護過程を展開し、人権や倫理に基づき、精神に障害を持つ人の回復に向けた看護支援が計画できる。 3) 代表的な疾患の病態と治療、看護が理解できる。 4) 精神科で用いられる各種療法とセルフケアとストレングスを活用したアセスメントと心理・身体・社会的側面からのアセスメントが理解できる。		
評価方法	テスト：65%、小レポート（第6回目の講義）：10%、小レポート（第12回目の講義）：10%、看護過程の記録：15%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 統合失調症の看護	講義	奥田
	第2回 気分障害の看護	講義	奥田
	第3回 アディクション患者の看護	講義	奥田
	第4回 神経症・パーソナリティ障害・摂食障害の看護	講義	奥田
	第5回 精神障害を持つ人の家族への看護	講義	奥田
	第6回 特別講義 訪問看護ステーションからの支援と元気回復プラン（WRAP）	講義	（訪問看護ステーション看護師）
	第7回 事例による看護過程の展開①（情報の整理とアセスメント）	演習 演習	奥田
	第8回 事例による看護過程の展開②（アセスメントと全体像の把握）	演習	
	第9回 精神科リハビリテーション（認知行動療法、SST）	講義	
	第10回 事例による看護過程の展開③（全体像の把握と看護目標・看護計画立案）	演習	奥田
	第11回 事例による看護過程の展開④（看護目標・看護計画立案）	演習	
	第12回 特別講義 医療観察法病棟の看護師の役割	講義	（医療観察法病棟看護師）
	第13回 事例による看護過程の展開⑤（看護計画立案）	演習	奥田
	第14回	講義	奥田

	精神障害をもつ人の身体合併症の看護		
	第15回 事例による看護過程の展開⑥ まとめ・グループ発表	講義	奥田
授業外学修（事前学修・事後学修）	1) 事前学修：各回の講義テーマにそって教科書を読み、知識を深める。「事例による看護過程の展開」のときは、事例をよく読み、事例に示している対象となる人の特徴を把握する。 2) 事後学修：授業で説明された内容に関して、看護系雑誌や図書を読んで知識を深める。「事例による看護過程の展開」のときは、授業時間内にできなかった記録の整理をおこなう。		
テキスト	1) 武井麻子他「系統看護学講座 専門2 精神看護学① 精神看護の基礎」．医学書院 2) 武井麻子他「系統看護学講座 専門2 精神看護学② 精神看護の展開」．医学書院 3) 宇佐美しおり・鈴木啓子「オレムのセルフケアモデル―事例を用いた看護過程の展開―」．NOUVELLE HIROKAWA		
参考書	1) 遠藤淑美他編 統合失調症の看護ケア．中央法規 2) フランク・ゴープル著/小口忠彦監訳「マズローの心理学―第三勢力」．産能大学出版 3) 服部祥子著「生涯発達人間論―人間への深い理解と愛情を育むために」．第2版．医学書院 4) チャールズ・A・ラップ/リチャード・J・ゴスチャ著，田中英樹監訳「ストレングスモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス 第3版」．金剛出版 5) カタナ・ブラウン編，坂本明子監訳「リカバリー希望をもたらすエンパワメントモデル」．金剛出版 6) 森千鶴監編著「これからの精神看護学 病態生理をふまえた看護実践のための関連図」．ピラールプレス 7) 萱間真美「リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術」．医学書院		
学生へのメッセージ等	精神障害をもつ人の主な精神症状やそれに対する具体的な援助、また、精神障害をもつ人の家族への支援の方法などを学習します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	必修
担当教員			
奥田 淳			
添付ファイル			
全担当教員			
奥田 淳 / 橋本頭子			
概要	精神機能障害から生じる症状や日常生活上の困難について理解し、対象者の心理・身体・社会的側面から個別的な援助が実践できる基礎的能力を身につける。また、病院から地域への連続した看護を対象者の環境や精神保健医療福祉、倫理的視点から考える。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療の対象となる主な疾患・症状及びその援助について述べるができる。 2. 精神障害を持つ対象者に関する情報を収集し、精神機能障害に影響された心理・身体・社会的側面からアセスメントを行い、精神の健康回復のために必要な看護計画を立案、実践、評価できる。 3. 精神障害を持つ対象者と治療的人間関係を構築し、そのプロセスを評価していくなかで自己理解を深め、看護者としての人間性を培うことができる。 4. 精神保健医療福祉の実際を知り看護の課題を考えることができる。 5. 精神障害を持つ対象者に関わる社会的問題から対象者の人権について理解し、実践を通して倫理観を培うことができる。 		
評価方法	実習目標の達成度を実習記録：80%、カンファレンスへの参加態度：20%で評価する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習時間および実習施設 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間 9:00～16:00 2) 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> (1) 奈良県立医科大学精神医療センター D病棟 (2) 奈良県立医科大学附属病院精神医療センター デイケア「まほろば」 社会福祉法人 萌 及び 寧楽 (なら) ゆいの会 (3) やまと精神医療センター 2. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目標の設定 2) 精神障害を持つ入院中の患者1名を受け持ち、看護を展開する 3) 原則として毎日カンファレンスを開き、実習の振り返りを行う 4) 対象者との治療的コミュニケーション技術を高めるために、ロールプレイング、プロセスレコードなどを活用する 5) 実習施設内デイケア、もしくは事業所に2日参加する 6) 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1週目；看護過程における実習記録を整理し、不足している情報を明らかにすると共に、患者の看護課題を明確にする。 プロセスレコードを用いたカンファレンスを行いより自己洞察を深める。 2週目；看護計画に沿って、看護を実践する。実習記録をまとめる。 1週目、2週目のどちらかに事業所、デイケア棟で実習を行う。 		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学修：実習開始前は、精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱで学習した理論や概念、疾患の特徴とその看護を学習する（実習要項の事前学習内容を参照）。実習開始後は、日々の実習の前日に受け持ちの対象となる人の看護を展開できるように、対象者の疾患や症状、その看護、治療をテキストや参考図書、その他の資料を活用し学習する。 2) 事後学修：日々の実習終了後、対象理解を深めるために、また、個別性のある看護を展開するために疑問に思ったことや分からなかったことをテキストや参考図書、その他資料を活用して学習し、理解する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1) 武井麻子他編著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」、医学書院 2) 武井麻子他編著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開」、医学書院 3) 宇佐美しおり・鈴木啓子著「オレムのセルフケアモデル―事例を用いた看護過程の展開―」、NOUVELLE HIROKAWA 4) 服部祥子著「生涯人間発達論―人間への深い理解と愛情を育むために―」、第2版、医学書院 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 上野恭子監修「目で見える精神看護 第2版 Vol.1 精神科医療と福祉の現状」、医学映像教育センター 2) 岡田佳詠監修「目で見える精神看護 第2版 Vol.2 精神看護実習」、医学映像教育センター 3) 岡本隆寛監修「目で見える精神看護 第2版 Vol.3 病院から地域社会へ」、医学映像教育センター 4) 武井麻子監修「精神障害者の地域生活支援」、京都科学 5) 武井麻子監修「精神疾患の理解と看護 ①統合失調症」、京都科学 6) 金子真理子監修「精神看護のためのアセスメント事例集 Vol.1 うつ病の患者事例」、医学映像教育センター 7) 森千鶴監修「精神看護のためのアセスメント事例集 Vol.2 統合失調症急性期の患者事例」、医学映像教育センター 8) 伊藤桂子監修「精神看護のためのアセスメント事例集 Vol.3 統合失調症慢性期の患者事例」、医学映像教育センター 9) 加藤志ほ子監修「心理臨床を学ぶ Vol.3 心理アセスメント（心理査定）」、医学映像教育センター 10) 水野雅文監修「病気の基礎知識 病気の成因・病態と治療 Vol.8 精神の領域」、医学映像教育センター 1) チャールズ・A・ラップ/リチャード・J・ゴスチャ著、田中英樹監訳「ストレングスモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス 第3版」、金剛出版 2) カタナ・ブラウン編、坂本明子監訳「リカバリー希望をもたらすエンパワメントモデル」、金剛出版 3) 森千鶴監編著「これからの精神看護学 病態生理をふまえた看護実践のための関連図」、ピラールプレス 		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ／粕井 みづほ		
概要	家族という集団を一つの単位としてとらえ、その集団に備わっている能力や機能が発揮できるよう支援するために家族成員の心理的側面、ライフサイクルさらに家族看護に関する諸理論を学ぶ。そのことで家族を統合的にとらえ支援方法、看護職の在り方を理解する。		
目標	1. 家族の問題にアプローチするため、家族の人間関係や家族の中で発生する諸問題を解決するための基本的知識を十分に理解できる。 2. 家族看護学の目的、家族の定義について説明できる。 3. 家族看護に用いる理論について理解できる。 4. 家族看護の展開方法を理解し、支援方法について検討できる。 5. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について考察できる。		
評価方法	授業5～10回分については、試験で40%を評価する。 1～4回、11～15回分については、課題レポート、提出物で60%を評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 家族心理学での家族 1. 家族の捉え方 2. 家族ライフサイクル	講義	粕井
	第2回 家族ライフサイクルと現代の家族 1. 乳幼児期の家族	講義	粕井
	第3回 家族ライフサイクルと現代の家族 2. 児童期の家族 3. 青年期の家族	講義	粕井
	第4回 家族ライフサイクルと現代の家族 4. 中年期の家族 5. 老年期の家族	講義	粕井
	第5回 家族看護学とは何か 看護学における家族の理解	講義	川上
	第6回 家族を理解するための理論	講義	川上
	第7回 家族アセスメントモデル	講義	川上
	第8回 家族看護過程：情報収集	講義	川上
	第9回 家族看護過程：アセスメント	講義	川上
	第10回 家族看護過程：課題抽出、計画、評価	講義	川上
	第11回 家族看護方法、家族看護における看護者の基本姿勢	講義	家族看護専門看護師
	第12回 家族看護専門看護師の実践	講義	家族看護専門看護師
	第13回 事例検討 家族アセスメント	講義	川上
	第14回 事例検討 家族介入	講義	川上
	第15回	講義	川上

	家族看護研究 まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、授業内容に該当するテキストや参考図書の範囲を読み、内容を把握しておく。 事後学修として、授業の資料やテキスト等を用いて授業内容を整理し理解を深める。 具体的に事前学修・事後学修内容が示された場合は、その内容を学修する。		
テキスト	上別府圭子他著：家族看護学 医学書院 1～4回については、適宜配布する。		
参考書	鈴木和子・渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践第5版 日本看護協会出版会 粕井みづほ・青野明子著：発達と家族の心理 久美出版 岡堂哲雄著：家族心理学入門 陪風館		
学生へのメッセージ等			

6. 4年次開講科目の授業内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	必修
担当教員			
村上 真			
添付ファイル			

全担当教員	村上 真		
概要	現代における社会・行政についての基本的枠組みを理解した上で、保健・福祉および医療分野で問題となる事項についての検討能力を培う。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の保健・福祉および医療の行政や社会保険の特徴について理解することができる。 ・日本の保健・福祉および医療また社会保険の基本的な仕組みについて説明することができる。 ・自治体や国における予算・決算・計画のながれを理解することができる。 		
評価方法	平常点：授業内容に関する意見・感想などについてのペーパーの提出（20%） 期末試験：筆記試験（80%）：保健・福祉・医療分野において、どのようなサービスがどのような方法で国民に提供されているか、特に行政の観点から、基本的な知識を踏まえた上で説明できるかを問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 はじめに－保健福祉行政の枠組み－	講義	村上
	第2回 保健医療福祉の行政① 厚生行政、保健行政	講義	村上
	第3回 保健医療福祉の行政② 福祉行政	講義	村上
	第4回 国と地方公共団体の財政の仕組み 国の財政、地方財政	講義	村上
	第5回 社会保障の給付と財源① 社会保障の給付、社会保障関係費	講義	村上
	第6回 社会保障の給付と財源② 医療費、地方公共団体の社会保障	講義	村上
	第7回 近年の改革の特徴と動向 ① 介護保険制度、後期高齢者医療制度等	講義	村上
	第8回 近年の改革の特徴と動向 ② 精神保健福祉法、障害者総合支援法等	講義	村上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に前回の授業内容の重要なポイントを振り返り、疑問点等があれば整理しておくこと。疑問点等を授業中また授業後に解消できるようにすること。		
テキスト	『保健医療福祉行政論』医学書院（最新版）		
参考書	講義中に適宜指示する。		
学生へのメッセージ等	現代では保健・福祉および医療分野の業務に従事する人々は、中央省庁・地方自治体が定める制度・政策の枠組みや社会保険制度の枠組みの中で日々活動することになる。特にこれら「行政」の観点から、それぞれの進路についての理解を深めてもらいたい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
佐伯 圭吾			
添付ファイル			

全担当教員	佐伯圭吾／大林賢史／山上優紀		
概要	疫学は、集団の健康状態や疾病発生の分析から、危険因子や防御因子を発見する。また危険因子を除去し、防御因子を増強することで、健康増進と疾病予防を行う学問である。本講義の目的は、疫学研究の基本的な知識を習得することである。		
目標	保健師として、疫学指標から地域の課題を抽出し、解決策を立案する方法と技術を身につけることを目標とする。主な研究デザインの利点と欠点を理解し、疫学指標を正しく解釈できるようにする。		
評価方法	期末試験の成績によって評価する（100%）。授業態度を成績に考慮することがある。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	講義	佐伯
	疫学研究とは、過去の疫学事例の紹介		
	第2回	講義	佐伯
	疾病発症モデル／多要因原因説／危険因子と防御因子		
	第3回	講義	佐伯
	標本抽出、推定、標本サイズと信頼区間、バイアス		
	第4回	講義	佐伯
	有病率、罹患率、相対危険、寄与危険		
	第5回	講義	佐伯
	交絡、直接法による年齢調整・SMR（標準化死亡比）		
	第6回	講義	佐伯
	生態学的研究、横断研究		
	第7回	講義	佐伯
	症例対照研究、オッズ比		
第8回	講義	大林	
睡眠障害の疫学			
第9回	講義	佐伯	
コホート研究、コホート内症例対照研究			
第10回	講義	佐伯	
無作為化比較試験、根拠に基づく医療（EBM）			
第11回	講義	佐伯	
がん、循環器疾患の疫学			
第12回	演習	佐伯・山上	
疫学演習 1			
第13回	演習	佐伯・山上	
疫学演習 2			
第14回	講義	佐伯	
感度・特異度、スクリーニング検査			
第15回	講義	佐伯	
環境疫学			
授業外学修（事前学修・事後学修）	テキストを読み、事前・事後学修に取り組んでもらいたい。		

テキスト	看護学生のための疫学・保健統計（建帛社）
参考書	講義中に紹介する。
学生へのメッセージ等	講義中は、積極的に議論に参加してもらいたい。適宜、国家試験対策の練習問題にも取り組む予定である。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
村上 真			
添付ファイル			

全担当教員	村上 真		
概要	保健医療福祉行政論Iを踏まえた上で、保健・福祉および医療分野で問題となる事項についてのなお一層の検討能力を培う。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の保健・医療・福祉行政の歴史と特徴をふまえて、現代社会の課題を議論できる。 ・講義、演習をとおして、国、県、地方自治体の住民ニーズの違いや制度・計画との連動性を理解することができる。 ・行政職員、協働者、あるいは利用者としての立場から、行政の役割について論じることができる。 		
評価方法	平常点：授業内容に関する意見、感想などについてのペーパーの提出（20%）。 定期試験：筆記試験（80%）。日本の保健・福祉・医療制度の特徴や各地域の保健行政の取組について、特に保健サービスの特徴や日本の行政制度についての十分な理解のもと説明できるかを問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 社会保障制度と公衆衛生行政 ① 目的と根拠 方法と財源 行政的給付 社会保険	講義	村上
	第2回 社会保障制度と公衆衛生行政 ② 国と地方公共団体の役割 地方分権と保健師の役割	講義	村上
	第3回 社会保障制度と公衆衛生行政 ③ 国と地方公共団体の財政の仕組み 国庫補助金 財政移転	講義	村上
	第4回 保健行政の仕組み ① 市町村と都道府県の役割と組織 保健所・市町村保健センター	講義	村上
	第5回 保健行政の仕組み ② 労働衛生 環境衛生 学校保健	講義	村上
	第6回 社会福祉行政の仕組み ① 生活保護 児童福祉 母子・寡婦福祉	講義	村上
	第7回 社会福祉行政の仕組み ② 障がい者福祉 高齢者福祉	講義	村上
	第8回 社会福祉行政の仕組み ③ 社会福祉基礎構造改革 日常生活自立支援制度と成年後見制度等	講義	村上
	第9回 医療サービスの仕組み ① 国の役割 地方自治体の役割	講義	村上
	第10回 医療サービスの仕組み ② 医療提供体制 診療報酬制度	講義	村上
	第11回 地域とその他の社会保障制度① 介護保険 年金保険等	講義	村上
	第12回	講義	村上

	地域とその他の社会保障制度② 介護保険 地域福祉等		
	第13回 演習① 各国の住民意識と保健医療福祉制度 各国の意識調査	演習	村上
	第14回 演習② 奈良県の保健医療福祉計画 地域の重点課題の読み取り	演習	村上
	第15回 演習③ 奈良県の保健医療福祉計画 自治体と行政 保健師の役割	講義・演習	村上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に前回の授業内容の重要ポイントを振り返り、疑問点等を整理しておくこと。授業中また授業後に疑問点等を解消できるようにすること。		
テキスト	『保健医療福祉行政論』医学書院（最新版）		
参考書	講義中に適宜指示する。		
学生へのメッセージ等	保健師課程選択学生の必修科目です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	1	必修
担当教員			
田中 登美			
添付ファイル			

全担当教員	田中 登美
概要	この科目では、「緩和ケア」の概念の歴史の変遷から、End of Life Care、Total Painなどの概念へと学びを 広げ、今まで既習した内容を「緩和ケア」という概念で統合していく。またAdvance Care Planning (ACP)お よび意思決定支援についてもその重要性を再考しつつ、奈良県における課題やがんチーム医療のなかでの看護の 役割を考察する。そしてさらに慢性疾患やがんとともに生きる人とその家族を支える看護に必要な基礎知識を 習得し、看護実践に必要な判断力や問題解決するための方法を学ぶ。
目標	1. 緩和ケア、End of Life Care、Total Painの概念について説明できる。 2. Advance Care Planning (ACP)の概念と意思決定支援について説明できる。 3. 国内外のがんの動向と日本におけるがん対策、がん看護の役割および機能について説明できる。 4. 奈良県のがんの動向および特徴、がん対策、実習施設である奈良県立医科大学附属病院でのがんチーム医療 の取り組みなど、地域の課題を抽出し、その課題の解決を検討する（演習）。 5. 慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える苦痛および緩和のための支援について説明できる。 6. 終末期にある患者および家族への看護について説明できる。
評価方法	授業への出席状況の確認は、「Forms」への入力とします。指定された時間内に必ず入力してください。 試験：小テスト（10%）、終了時テスト（60%） レポート課題：30%： 【レポート課題①】配点10点：「日本のがんの動向、行政のがん対策、および私ができるがん予防」 【レポート課題②】配点20点：「奈良県のがん医療における課題、および課題に対する看護の役割、私がで きること」 レポートは、A4 3-5枚（表紙不要、手書き不可）、教務システムのフォルダに提出してください。 期限が過ぎたand/or提出先が間違ったレポートは採点対象からは除外します。

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	緩和ケア領域において用いられる概念の理解(1) <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア End of Life Care Total Pain 	講義	田中登美
第2回	緩和ケア領域において用いられる概念の理解(2) <ul style="list-style-type: none"> Advance Care Planning (ACP) 意思決定支援 	講義	田中登美
第3回	慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える苦痛 および緩和のた めの支援(1) <ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える身体的苦痛および 緩和のための支援 慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える心理社会的苦痛お よび緩和のための支援 就労を支えるための支援 慢性疾患やがんとともに生きる人の抱えるスピリチュアルペ インおよび緩和のための支援 	講義	田中登美
第4回	慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える苦痛 および緩和のた めの支援(2) <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアの広がり 【さまざまなライフサイクルにある患者に対する緩和ケアの 広がり】 1) 小児 2) 思春期・若年成人（AYA世代） 3) 高齢者 【非がん患者に対する緩和ケア】 1) 末期心不全 2) 呼吸器疾患 3) 神経難病 4) 脳血管疾患 5) 末期腎不全 【療養の場の広がり】 1) 療養の場の地域への移行 2) 療養の場に関する意思決定支援 	講義	田中登美
第5回	国内外のがんの動向と日本におけるがん対策 <ul style="list-style-type: none"> 国内外のがんの動向、取り組み 日本のがん対策：がん対策基本法・がん対策推進基本計画 	講義	田中登美

	・がん看護の役割および機能		
	<p>第6回</p> <p>地域の課題の抽出と課題の解決方法の検討</p> <p>【事前課題（紙資料持参）】</p> <p>①奈良県におけるがんの動向およびその対策について以下の内容を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の人口動態、特徴など ・奈良県におけるがんの動向、特徴、がん対策など <p>②奈良県立医科大学附属病院における以下の内容を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院におけるがん医療の現状 ・がんチーム医療の活動内容 ・がん患者およびその家族に対する取り組み ・県民に対する取り組み（がん予防、ピュアサポートなど） <p>【グループワーク（70分）】</p> <p>①個人で調べてきた内容（奈良県におけるがんの動向およびその対策、奈良県立医科大学附属病院におけるがんチーム医療の活動内容、がん患者およびその家族、県民に対する取り組みなど）を共有する。</p> <p>②「奈良県のがん対策における課題およびその解決方法」について、グループで検討する。</p> <p>【発表・まとめ（20分）】</p>	演習	田中登美
	<p>第7回</p> <p>終末期にある患者および家族への看護（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死にゆく人を支え、その人の望む生き方を尊重した看護 	講義	田中登美
	<p>第8回</p> <p>終末期にある患者および家族への看護（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への看護 ・遺族ケア 	講義	田中登美
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布する）を熟読し、講義に臨むこと。 事後学修：学習した内容をふまえた課題についてのレポートは、期間内に提出してください。		
テキスト	編集 恒藤暁・田村恵子（2020）系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第5版，医学書院 著者代表 小松浩子（2020）系統看護学講座 成人看護学総論 第15版，医学書院		
参考書	授業中に紹介します。		
学生へのメッセージ等	この授業内容は、今までの既習内容を「緩和ケア」という概念で統合していく授業です。 将来、奈良県において看護専門職として活動するために、授業での学びを考察したり、自分でいろいろと調べながら、課題を見つけて考えることで学びを深めてください。 積極的な学習態度を期待します。		

講義科目名称： 看護管理論

授業コード： K080950

英文科目名称： Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ／撫養 真紀子／橋口 智子		
概要	看護職および看護組織の役割・機能を理解し、看護管理における現状と課題について理解を深め、保健医療福祉において看護専門職が力を発揮していくための考え方を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における専門職の理論を学び、看護専門職について理解できる。 2. 看護管理の基礎的な理論や内容、看護サービスの質保証の意義を理解できる。 3. 看護における組織体制とその役割・機能について説明できる。 4. 看護サービスのマネジメント・プロセスについて理解できる。 5. 背景にある社会情勢や医療制度の変化をふまえたうえで、看護管理における現状と課題及び将来展望について考察できる。 		
評価方法	前半4回分の課題レポート50%、後半4回分は、定期試験と課題で50%の評価とします。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 看護専門職と看護管理	講義	撫養
	第2回 リーダーシップとフォロワーシップ	講義 グループワーク	撫養
	第3回 組織変革の方法と変革理論	講義 グループワーク	撫養
	第4回 看護専門職のキャリア開発	講義	撫養
	第5回 看護サービスに対する管理と実際 1	講義	附属病院看護部 (佐藤)
	第6回 看護サービスに対する管理と実際 2	講義	附属病院看護部 (浅川)
	第7回 看護サービスに対する管理と実際 3	講義	附属病院看護部 (橋口)
	第8回 看護の専門性とは	講義 グループワーク	川上
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修として、テキストの授業内容に該当する範囲を読んでおくこと。 事前学修として、授業時の資料を確認しながら内容をふかめること。		
テキスト	手島恵編集：看護管理学、南江堂		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	社会、経済状況についても平素から関心を持ち講義内容に関連する文献や記載物を読んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
石澤 美保子			
添付ファイル			
全担当教員			
石澤 美保子／松田 常美／森脇 裕美／堀井 えりな			
概要	加齢や疾患によりリハビリテーション看護が必要となる対象とその家族の精神・身体・社会的機能障害について学び、廃用症候群の予防、活動、参加の促進へ向けた支援方法について理解する。		
目標	1) リハビリテーション看護の概念と理念について述べることができる。 2) 生活機能障害をもつ人とその家族が体験する障害の世界について理解できる。 3) リハビリテーション看護の目的と方法について説明できる。 4) おもな生活機能障害を持つ人のアセスメントと援助方法を説明できる。 5) 現代医療にあったリハビリテーション看護領域に関連する知識と技術（フットケア）を修得する。		
評価方法	中間、期末試験85%、フットケア演習・レポート10%、Note of lectureの記載状況5%		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 リハビリテーションとは ーリハビリテーション看護の概念、リハビリテーションを必要とする人の特徴ー	講義	石澤 美保子
	第2回 疾患別リハビリテーション看護：脳卒中患者	講義	石澤 美保子
	第3回 生活機能障害別リハビリテーション看護：高次脳機能（認知機能）障害患者	講義	石澤 美保子
	第4回 感覚器障害とリハビリテーション看護：聴覚障害患者	講義	石澤 美保子
	第5回 感覚器障害とリハビリテーション看護：視覚障害患者	講義	石澤 美保子
	第6回 フットケア理論	講義	石澤 美保子
	第7回 フットケア技術	演習	石澤美保子／松田常美／森脇裕美／堀井えりな／皮膚・排泄ケア認定看護師
	第8回 まとめ 中間テスト	講義	石澤 美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布する）を熟読し、講義に臨むこと。事後学修として、学修した内容をふまえた授業の復習または課題に取り組むこと。		
テキスト	リハビリテーション看護 ニューヴェルヒロカワ （上記テキストは毎回の講義時必ず持参してください） はじめよう！フットケア（第3版） 日本看護協会出版会		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義内容を理解するには、1年次の「健康の理解」（必修17単位）の各科目の復習が必要です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	4年	1	必修
担当教員			
看護学科教員(コーディネーター:看護教育部長)			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科教員(コーディネーター:看護教育部長)		
概要	既習の諸学および領域実習、統合実習等において得た知識や思考を活用し、研究テーマの絞り込みから研究計画書の作成までの行程を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と研究のプロセスを説明できる。 2. 文献検討の意義を理解し、データベースを用いて文献検索ができる。 3. 研究デザインの種類と研究計画書の形式を理解し、研究計画書を作成できる。 4. 量的・質的研究の方法について述べるができる。 5. 看護研究の倫理を述べるができる。 6. 研究論文の作成と発表方法について、説明できる。 		
評価方法	研究計画書および演習への参加状況により、総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 看護研究の意義と研究のプロセス	講義	石澤美保子
	第2回 研究課題と文献検討	講義	澤見一枝
	第3回 文献検索の方法	講義	図書館司書(教育部長)
	第4回 研究デザインと研究計画書	講義	田中登美
	第5回 質的研究のデータ収集と分析方法	講義	川上あずさ
	第6回 看護研究における倫理	講義	五十嵐稔子
	第7回 量的研究のデータ収集と分析方法	講義	小竹久実子
	第8回 研究成果のまとめと発表方法 英語研究論文の講読	講義	太田豊作
	第9回 第9回～第15回 配置された各領域において、看護研究の基盤となる内容を文献検討し、グループ討議などを通して学習を深め、研究計画書を完成させる。 *ただし、領域により別途時間を変更することもある。	演習	看護学科教員
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修として、各回の授業内容に該当するテキスト「看護における研究」の範囲を読み、内容を把握しておく。 事後学修として、授業時の配布資料を活用し授業内容を振り返って理解を深める。 9回目以降は、各自の取組が重要になるので、担当教員と相談してすすめる。		
テキスト	看護における研究(第2版), 南裕子、野嶋佐由美(編), 日本看護協会出版会, 2017.		
参考書	これからの看護研究-基礎と応用-(第3版), 小笠原知枝、松本光子著編, ヌーベルヒロカワ, 2012. 看護研究(第2版), D.F. ポーリット&C.T. ベック著, 近藤潤子監訳, 医学書院, 2010.		
学生へのメッセージ等	看護研究特論は、第1回目から第8回目までの講義終了後に研究計画書作成が始まります。その後の看護研究発表、論文作成までの大切な学びの基礎となりますのでしっかり学習してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	必修
担当教員			
看護学科教員(コーディネーター:在宅看護学)			
添付ファイル			
全担当教員			
看護学科教員(コーディネーター:在宅看護学)			
概要	1. 看護における研究の必要性、目的、方法論等を学習し、倫理観と看護観を養う。 2. 看護とは何かについて興味・関心を高め、科学的かつ論理的思考力、創造力を養う。		
目標	1) 疑問や興味、関心を持った看護研究課題を見出すことができる。 2) テーマに沿った文献検索および検討をすることができる。 3) 看護研究の意義、倫理的配慮の必要性を説明できる。 4) 自らが選択した研究のテーマについて、研究計画を立案できる。 5) 研究計画に基づき、データの収集から解析、結果、考察、結論までの研究の流れを理解することができる。 6) 科学的かつ論理的思考力を活用して研究論文をまとめることができる。		
評価方法	教員または学生間の討論、論文を対象に、担当教員が次の観点から評価を行う。 1) 研究の着眼点、意義、必要性 2) 研究課題に対する探究方法の適切性 3) 研究の独自性 4) 論文の論理性、明瞭性、簡潔性 5) 論文としての形式条件の充足性 6) 研究に取り組む積極性、主体性		
授業計画	時間割は前期(水)1・2時限、後期(水)2時限としているが、担当指導教員により時間割の変更が生じることもある。		
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修①今までの看護実習を振り返り、疑問や興味、関心を持った看護上の課題を整理してみる、②キーワードを5つほど挙げてみる、③そのキーワードがすでに研究されているかどうか図書館の文献検索にある医学中央雑誌やPubMedなどで確かめてみる(件数も控えておく)。		
テキスト	担当教員が授業中に適宜紹介する。		
参考書	看護における研究(第2版), 南裕子、野嶋佐由美(編), 日本看護協会出版会, 2017.		
学生へのメッセージ等	研究は、自ら積極的に探し求めていく行動力が新たな発見につながる重要な要素です。疑問に思ったこと、気づきを大切に、楽しみながら取り組んでいってください。調べてもわからないことや解決しないことなどは、担当領域の教員・グループの他学生から積極的に意見を求めるなど、能動的に動いていくことで探究力が養われていきます。ともに看護とは何かを追究していきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	必修
担当教員			
看護学科教員			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科教員
概要	3年間の学びをもとに自分がさらに学びたい領域を選択したうえで、既習した知識、技術、態度を統合し、創造的、探求的思考と対象を尊重した看護実践能力を進展させる。さらに、統合実習での実践や学びを通して、看護の専門性についても考えて自らの看護観を深める。
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の個性に配慮した看護を深めることができる。複数の対象者の援助の優先順位とその根拠を考えることができる。 2. 看護の質を保证するための医療安全や危機管理の実際がわかる。 3. 看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップの実際を学び、看護をマネジメントする方法がわかる。 4. 保健・医療・福祉との連携、チーム医療および他職種との協働の実際がわかる。 5. 学習課題の達成を目指して、主体的に実習に取り組むことができる。
評価方法	規定の実習時間の4/5以上出席できていることを前提とし、実習目標の到達度、実習への取り組み・出席状況、実習記録内容、カンファレンスの参加状況等により総合的に評価する。 評価方法は、実習要項に準ずる。
授業計画	<p>実習期間：5月30日（月）～ 6月24日（金）（うち2週間、具体的な日程は各領域の統合実習要項を参照のこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成人急性期看護学（13名） <ol style="list-style-type: none"> ①医大C6病棟 ②医大B4病棟 ③医大B6病棟 ④医大中央手術部 ○成人慢性期看護学（13名） <ol style="list-style-type: none"> ①医大C5病棟 ②医大C7病棟 ③医大B8病棟 ○老年看護学（13名） <ol style="list-style-type: none"> ①医大B7病棟 ②医大B5病棟 ③済生会中和病院（地域包括ケア病棟） ○母性看護学（13名） <ol style="list-style-type: none"> ①医大E5病棟 ②奈良県内助産所 ③子育て探索プラン 他 ○小児看護学（13名） <ol style="list-style-type: none"> ①医大E7病棟（小児センター） ②医大E4病棟（新生児集中治療部（NICU・GCU）） ○精神看護学（13名） <ol style="list-style-type: none"> ①医大精神医療センター2階病棟 ②医大精神医療センター3階病棟 ③医大精神医療センター1階相談室 ④国立病院機構やまと精神医療センター 5 病棟（医療観察法病棟） ○在宅看護学（12名） <ol style="list-style-type: none"> ①橿原訪問看護ステーション ②橿原訪問看護ステーションやわらぎの郷 ③ゆい訪問看護ステーション ④医大入退院支援センター ⑤西の京病院患者支援センター ⑥訪問看護ステーションみそら <p>実習方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 4月のガイダンスの際に、学生アンケートで希望を募って領域を決定する。 2) 詳細は各領域の統合実習要項を参照のこと。
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>【事前学修】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1～3年における学内および臨床実習での学びを振り返り、選択した領域での統合実習において目的を達成するための自分の学習課題を抽出する。 ②自分の学習課題を解決するための目標を明確にしたうえで具体的に学習を進める。 <p>【事後学修】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①統合実習での学びをまとめて、卒業時点での自分の学習課題を明確にして、解決できるよう取り組む。 ②卒業後の看護者としての自分の学習課題および今後の展望を検討する。

テキスト	領域決定後に、各領域より提示する。
参考書	領域決定後に、各領域より提示する。
学生へのメッセージ等	統合実習は、看護学の発展と探索を目的に、これまでに学んだ知識・技術・態度の統合に加えて、看護管理、医療安全、チーム医療、関係職種との連携などの実際を学ぶ幅広い実習内容になります。最終学年での仕上げの実習でもありますので、目標達成に向けて積極的に取り組みましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	1	必修
担当教員			
西上 あゆみ			
添付ファイル			

全担当教員	西上 あゆみ		
概要	災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していく必要がある。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害サイクルに応じた人への影響、災害時に特徴的な看護課題や看護ニーズを学ぶ。		
目標	災害の各段階の特徴を概観し、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動を知ることができる。		
評価方法	評価方法：授業への参加度とレポート（40%）、テスト（60%）。 評価基準：参加状況については出席カードへのコメントで学んだ内容が理解できているか、レポートでは課題について学んだ内容が記載され、授業中での振り返りを通して、加筆修正までできているかで評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 災害とは 1) 災害の定義と分類・特性 2) 災害サイクルと各期の特徴	講義	西上
	第2回 災害看護とは 1) 災害看護の定義 2) 災害時のニーズアセスメント 3) 災害時に特徴的な健康問題	講義	西上
	第3回 災害中・長期の看護 1) 避難所における看護活動 2) 中・長期における健康問題	講義	西上
	第4回 こころのケア 1) 被災者の心理 2) 災害時のストレス反応やPTSD 3) 被災者のメンタルケア	講義	西上
	第5回 要援護者へのケア 1) 災害時に子どもに起こること 2) 災害時に妊産婦に起こること 3) 災害時に慢性疾患患者に起こること 4) 災害時に高齢者に起こること	講義	西上
	第6回 災害への備え 1) 自己防災 2) 病院防災 3) 地域防災 4) ネットワークの構築	講義	西上
	第7回 救援活動(国内・国際) 1) 災害に対する国内の体制 2) 災害に対する国際的な体制 3) 支援活動 4) 救護者へのケア	講義 演習	西上
	第8回 まとめ（レポートの振り返りを含む）	講義 テスト	西上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：集中講義となる為、テキストは一読の上、講義に臨んでください。 事後学修：テキストでは「学習の振り返り」と国家試験の過去問題が示されているため、これに取り組んでおく。		
テキスト	三澤寿美・太田晴美：災害看護、学研		
参考書	酒井明子：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践（3）：災害看護 第3版、メディカ出版 日本看護協会出版会編集部 編：ルポ・そのとき看護はナース発 東日本大震災レポート、日本看護協会出版会 黒田裕子・神崎初美：避難所・仮設住宅の看護ケア、日本看護協会出版会		
学生へのメッセージ等	提出物は期限を厳守して下さい。日頃から災害に関するニュース記事などに興味を持って、より災害看護に対する考え方や理解が深められるようにしておいて下さい。授業時間内の積極的な質問を歓迎します。授業後についてはメールを頂ければ、その都度対応いたします。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作、大名 美記子、上田 尚義、畠中 利英、小西 康司、木下 小百合、松岡 博司、田中 尚平、増井 薫、北村 哲郎、玉木 康介、井村 理、曾山 茂人、元吉 浩司、中尾 美芳、八幡 郁子、石原 興子、高宮 久美子、齋藤 和弘、松田 恵美、松澤 未由紀		
概要	保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況において、医療チームの成員が互いに協力して、1つの問題に対して多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし、意見を交換することによって全人的治療は実現する。他の専門職種を理解し、良好な医療チームがどのように形成されるかを学ぶ。		
目標	1) チーム医療とはなにかについて学ぶ 2) 他職種を理解する		
評価方法	評価方法：授業参加度（20%）、期末レポート（80%） 評価基準：授業参加度は、多職種の理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。期末レポートは、提示された課題について、チーム医療の在り方を踏まえた自分なりの考えを持つことができているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 チーム医療概論	講義	太田
	第2回 専門職の理解 1 地域医療連携室、医療ソーシャルワーカー	講義	大名 上田
	第3回 専門職の理解 2 医療技術センター総論、臨床工学技士	講義	畠中 小西
	第4回 専門職の理解 3 歯科技工士、歯科衛生士、視能訓練士	講義	畠中 木下 松岡
	第5回 専門職の理解 4 臨床心理士、認定遺伝カウンセラー、リハビリテーション部門	講義	田中 増井 北村
	第6回 専門職の理解 5 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	講義	玉木 井村 曾山
	第7回 精神疾患ケアチーム（PSW）	講義	元吉
	第8回 栄養サポートチーム 管理栄養士	講義	中尾
	第9回 専門職の理解 6 薬剤師	講義	八幡
	第10回 専門職の理解 7 音楽療法士	講義	石原
	第11回 心不全看護認定看護師、摂食嚥下障害看護認定看護師	講義	高宮 齋藤
	第12回 認知症看護認定看護師、緩和ケア認定看護師	講義	松田 松澤
	第13回 事例演習	講義	太田
	第14回 事例演習	演習	太田
第15回	演習		

	事例演習		太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマについて、看護との関係性・繋がりという観点で自分の考えを整理しておく。		
テキスト	特に指定しない		
参考書	鷹野和美（編著）「チーム医療論」 医歯薬出版株式会社		
学生へのメッセージ等	他職種についてよく理解し、チーム医療の在り方について考えてみよう		

講義科目名称： 国際看護論 I

授業コード： K090870

英文科目名称： Cross - Cultural Understanding of International Healthcare I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章／堀内 沙央里／森兼 眞理		
概要	グローバル・ナーシングについて考え、国際社会で活動するための基礎的知識と態度を学ぶ。		
目標	1) 現代の医療を形成している歴史・文化・社会的な背景を理解する。 2) 人間の健康と病が社会的・文化的に構築されたものであることを理解する。 3) グローバリゼーションや人間の国際移動が看護に及ぼす影響を理解する。 4) グローバル・ナーシングとは何か、自分の意見を言える。		
評価方法	評価方法：各授業中または授業後に提示する課題レポート 8回 (100%) 評価基準：各レポートが授業内容を理解し、学んだ内容が整理し自己の考えが提示されているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 授業オリエンテーション／異文化理解と看護1 概要 健康観への理解と支援 世界の課題とSDGs	講義	升田 堀内
	第2回 異文化理解と看護2	講義	徐先生
	第3回 異文化理解と看護3 看護の視点と人類学 「タイの社会と文化」	講義	馬場先生 (非常勤講師)
	第4回 看護師の国際移動と職務 職務の実際 奈良医大で勤務するインドネシア人看護師として	講義	ヨノ看護師 (附属病院)
	第5回 異文化理解と看護4 支援の実際①	講義	外部講師
	第6回 異文化理解と看護5 支援の実際②	講義	外部講師
	第7回 国際的看護活動1 JICA支援活動	講義	森兼
	第8回 国際的看護活動2 国際的視野をもつ看護実践	講義	升田
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修：各講義のテーマについて、関係する教科書や資料を読んで授業に臨んでください。 事後学修：講義内容について振り返り自分の考えを整理しておく。		
テキスト	「国際化と看護」 (MCメディカ出版)		
参考書	系統看護学講座 文化人類学 第3版 波平恵美子編集 (医学書院)		
学生へのメッセージ等	グローバル・ナーシングに欠かせないのは異文化理解です。身近な日常を見つめることから始めましょう。授業の進行・講義内容は、ゲストスピーカーの事情等により、やむを得ず変更することがあります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美／堀内 沙央里／城島 哲子		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動における、効果的な地域保健活動を行ううえで必要な地域アセスメントとして対象(個人、家族、集団等)の特性を把握する基礎的能力を養う。 ・地域アセスメントの実施により、地域における人々の健康に関する情報を分析し、健康問題とその背景を明らかにする能力を身に着ける。 ・ヘルスプロモーションの理念をもとに、地域診断で明確となった健康課題の優先順位を決定し施策化および保健活動計画を立案するための基礎的能力を養う。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域診断の目的を理解し、地域診断に用いる理論が理解できる。 ・地域アセスメントに必要な項目を情報収集できる。 ・収集した統計データを整理し、図表を作成できる。 ・集積されたアセスメント項目を整理し、健康問題や課題に導く分析過程を理解できる。 ・地域の健康に関する問題や課題を明確にできる。 ・地域の健康に関する特性(健康状態、健康構造、健康意識)や、社会資源等を理解し、地域特性を把握できる。 ・表出された健康問題や課題の中から、地域のもつ強み等を総合的に捉えて、優先順位を決定し、保健活動計画を立案することができる。 		
評価方法	<p>評価方法：各回の講義内容で指定する課題1から課題9までのレポート(100%) 評価基準：提出された課題レポートにより、講義目標の内容に関する到達度を測る</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 地域診断の目的・地域診断の展開と方法	講義	坂東
	第2回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント1 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	講義・演習	坂東
	第3回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント2 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	講義・演習	坂東
	第4回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント3 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	演習	坂東・領域教員
	第5回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント4 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	演習	坂東・領域教員
	第6回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント5 人口、家族、労働者の構成と健康指標	講義・演習	坂東
	第7回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント6 人口、家族、労働者の構成と健康指標	講義・演習	坂東
	第8回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント7 人口、家族、労働者の構成と健康指標	演習	坂東・領域教員
	第9回 地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント8 人口、家族、労働者の構成と健康指標	演習	坂東・領域教員
	第10回 地域アセスメント情報の関連性と整理1 地域特性の整理と課題の抽出	講義・演習	坂東

	第11回 地域アセスメント情報の関連性と整理2 地区踏査の実践方法と計画	講義・演習	坂東
	第12回 地域アセスメント情報の関連性と整理3 地区踏査計画書	講義・演習	坂東
	第13回 地区踏査 1 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
	第14回 地区踏査 2 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
	第15回 地区踏査 3 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
	第16回 地区踏査 4 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
	第17回 地区踏査のまとめ1	講義・演習	堀内/坂東
	第18回 地区踏査のまとめ2	講義・演習	堀内/坂東
	第19回 保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント1	講義・演習	堀内/坂東
	第20回 保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント2	講義・演習	堀内・領域教員
	第21回 保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント3	講義・演習	堀内・領域教員
	第22回 保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント4	講義・演習	堀内/坂東
	第23回 健康課題に関連する情報の統合1	講義・演習	堀内/坂東
	第24回 健康課題に関連する情報の統合2	講義・演習	堀内・領域教員
	第25回 健康課題に関連する情報の統合3	講義・演習	堀内/坂東
	第26回 事業計画・評価計画1	講義・演習	堀内/坂東
	第27回 事業計画・評価計画2	講義・演習	堀内・領域教員
	第28回 事業計画・評価計画3	講義・演習	堀内/坂東
	第29回 課題解決のための情報収集1	講義・演習	堀内/坂東
	第30回 課題解決のための情報収集2	演習	堀内・領域教員
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく。		
テキスト	1) 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 2) 地域看護アセスメントガイド 佐伯和子編著 医歯薬出版株式会社 3) 国民衛生の動向		
参考書	1) 地域看護診断 東京大学出版 2) 保健師業務要覧 日本看護協会出版会		

学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習において、地域を理解するために重要な講義・演習であり、積極的な取り組みと幅広い視点を持って臨んでください。
------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美/鶴屋 和彦/中川 仁/中谷 敏昭/熊本 登司子/野原 潤子		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の生活習慣病対策に関連する基本的な治療指針、栄養指導法、運動指導法を学ぶ。 ・メタボリックシンドローム等における行動変容に関連する指導技術を学ぶ。 ・特定健康診査と特定保健指導、各種がん検診、介護予防事業に関する知識・技術を学ぶ。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病判定基準や治療指針について基本的な知識を理解できる。 ・特定保健指導対象者の栄養指導の方法が理解できる。 ・栄養指導に用いる媒体の使い方が理解できる。 ・特定保健指導対象者に対する運動指導の方法が理解できる。 ・高齢者の特性に配慮した介護予防事業が理解できる。 ・特定保健指導（動機づけ支援・積極的支援）の技術が理解できる。 ・レセプト情報、特定健診等情報データベース（NDB）と国保データベース（KDB）が理解できる。 		
評価方法	<p>評価方法：各回の講義内容で指定する課題1から課題5までのレポート（100%） 評価基準：提出された課題レポートにより、講義目標の内容に関する到達度を測る</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス・保健指導とは	講義	坂東
	第2回 慢性腎臓病（CKD）の診断基準と治療ガイドライン	講義	鶴屋
	第3回 高血圧の診断基準と治療ガイドライン	講義	中川
	第4回 特定保健指導対象者への栄養指導① 対象者の栄養診断の実際	講義	野原
	第5回 対象者の栄養診断の実際② 栄養指導の方法・技術	講義・演習	野原
	第6回 対象者の栄養診断の実際③ 栄養指導の方法・技術	講義・演習	熊本
	第7回 対象者の栄養診断の実際④ 栄養指導の方法・技術	講義・演習	熊本
	第8回 特定保健指導対象者への運動指導① 基本的考え方・注意点	講義・演習	中谷
	第9回 特定保健指導対象者への運動指導① 基本的考え方・注意点	講義・演習	中谷
	第10回 特定保健指導対象者への運動指導③ 運動指導の実際	講義・演習	中谷
	第11回 高齢者の介護予防のための運動指導④ 運動指導の実際	講義・演習	中谷
	第12-16回 生活習慣病の関連疾患・特定健康診査と特定保健指導・各種がん検診・KDBとNDBに関する情報収集	講義	坂東
	第17-21回 生活習慣病の関連疾患・特定健康診査と特定保健指導・各種がん検診・KDBとNDBに関する資料作成	講義・演習	坂東
第22-27回	講義・演習	坂東	

	生活習慣病の関連疾患・特定健康診査と特定保健指導・各種がん検診・KDBとNDBに関する資料修正		
	第28-29回 生活習慣病の関連疾患・特定健康診査と特定保健指導・各種がん検診・KDBとNDBに関する発表	講義・演習	坂東
	第30回 まとめ	講義	坂東
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく。		
テキスト	・標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 医学書院 注意）講義内で上記の他にテキストを指定する場合があります。		
参考書			
学生へのメッセージ等	保健指導の実践能力を修得する科目です。また、公衆衛生看護学実習と直結します。積極的に学んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美／堀内 沙央里		
概要	・保健師が行う乳幼児健診等での問診および保健指導と、家庭訪問の技術を習得する。		
目標	・乳幼児健康診査における問診および保健指導の技術が理解できる。 ・母子保健に関する家庭訪問のプロセスと援助技術が理解できる。		
評価方法	評価方法：授業内で実施する小レポート（60%） 演習の参加度と理解度（40%） 評価基準：小レポートは各テーマに対する思考が記述されているか 演習は参加態度と講義目標の内容に関する理解度を測る		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 乳幼児健康診査の実施と家庭訪問の計画立案	講義・演習	坂東
	第2回 乳児健康診査 1 問診、保健指導①	講義・演習	坂東
	第3回 乳児健康診査 2 問診、保健指導②	講義・演習	坂東
	第4回 乳児健康診査 3 問診、保健指導③	講義・演習	坂東
	第5回 幼児健康診査 1 1歳～3歳：問診、保健指導①	講義・演習	坂東
	第6回 幼児健康診査 2 1歳～3歳：問診、保健指導②	講義・演習	坂東
	第7回 幼児健康診査 3 1歳～3歳：問診、保健指導③	講義・演習	坂東
	第8回 幼児健康診査 4 1～3歳：問診、保健指導④	講義・演習	坂東
	第9回 新生児訪問 1 準備、実施、評価方法①	講義・演習	坂東
	第10回 面接・家庭訪問演習1 妊娠届、妊婦訪問の実施	講義・演習	堀内/坂東
	第11回 面接・家庭訪問演習2 新生児・乳児訪問（実施・評価）	講義・演習	堀内/坂東
	第12回 面接・家庭訪問演習3 継続訪問（計画・実施・評価）	講義・演習	堀内/坂東
	第13回 乳幼児健診演習1 4か月、8～10か月、1歳6か月、3歳児健康診査	講義・演習	堀内/坂東
	第14回 乳幼児健診演習2 4か月、8～10か月、1歳6か月、3歳児健康診査	講義・演習	堀内/坂東
	第15回 事例展開演習 ハイリスク事例の支援	講義・演習	堀内/坂東

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく。
テキスト	1. 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 2. 写真で見る 乳幼児健診の神経学的チェック法 前川喜平・小枝達也 南山堂
参考書	1. 乳幼児健診マニュアル 福岡地区小児科医師会 乳幼児保健委員会（著） 2. 保健師業務要覧 日本看護協会出版会
学生へのメッセージ等	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師として実践する保健事業に必要な知識と技術を習得します。 ・公衆衛生看護学実習を行う上で基礎的な講義となります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
河田 志帆			
添付ファイル			

全担当教員	河田 志帆		
概要	職域における保健・看護活動を学ぶ。産業保健に関連する制度・法的根拠を理解するとともに、産業保健における看護職の役割と活動を理解する。		
目標	1) 産業保健の理念や目的を理解する 2) 労働や労働環境が健康に与える影響について基本的な知識を修得する 2) 労働衛生に関する法令と、事業所における健康管理体制が理解できる 3) 事業所における産業看護師・衛生管理者・保健師の活動が理解できる		
評価方法	授業内課題（20%）、授業内小テスト（30%）、レポート（50%）で成績評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 産業保健の理念と目的、歴史	講義	河田
	第2回 産業保健の法体系・行政のしくみ、	講義	河田
	第3回 事業場の安全衛生管理体制	講義	河田
	第4回 労働者の健康課題の変遷と対策	講義・演習	河田
	第5回 産業看護活動の実際①（生活習慣病予防・特定保健指導）	講義	河田
	第6回 産業看護活動の実際②（メンタルヘルス対策）	講義	河田
	第7回 産業看護活動の実際③（配慮が必要な労働者への支援）	講義	河田
	第8回 産業保健と地域連携	講義・小テスト	河田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを学習し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義のノートと配布資料をもとに内容をまとめ整理しておく。		
テキスト	1. 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書	・国民衛生の動向 ・産業看護学第2版 2021年版：河野啓子：日本看護協会出版会		
学生へのメッセージ等	保健師課程履修者の必須科目です。公衆衛生看護学実習Ⅰ（産業保健）の準備科目でもあるのでしっかりと学んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
古川 恵美			
添付ファイル			

全担当教員	古川 恵美		
概要	学校における看護活動を学ぶ。学校保健に関連する制度・法的基盤を理解するとともに、養護教諭の役割と活動を理解する。		
目標	1) 各種学校の特徴と、児童生徒等の年齢に特有の健康問題が理解できる 2) 学校保健に関連する法令と学校保健体制が理解できる 3) 課題演習をととして学校看護活動の理解を深める		
評価方法	評価方法：授業内で実施する小レポート3回（50%）、期末レポート（50%） 評価基準：小レポートは、テーマ毎の内容を理解し、自分なりの問題意識を持つことができているか。期末レポートは、主題について学んだ内容が整理されており、どのように学んでいくか自己の考えが提示されているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 学校保健の現状と課題 関係法規・校種別の特徴など	講義	古川
	第2回 学校教育における組織的な学校保健活動 児童生徒のライフステージの特徴とそれに応じた支援	講義	古川
	第3回 養護教諭をとりまく現状とその職務 学校と地域における関連する他機関との連携・協働	講義	古川
	第4回 養護教諭の視点から考える保健室経営	講義	古川
	第5回 養護教諭の視点から考える保健管理	講義	古川
	第6回 養護教諭の視点から考える保健学習	講義	古川
	第7回 特別支援教育	講義	古川
	第8回 学校安全、危機管理	講義	古川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に単元に関する教科書の箇所を全て精読してから講義に臨むこと。		
テキスト	1 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動：医学書院		
参考書	授業中に提示します。		
学生へのメッセージ等	児童生徒が示す健康課題を受け止め、課題解決に向けた教育活動の実践が養護教諭の役割です。ぜひ、あなたの養護教諭像をつかんでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
城島 哲子			
添付ファイル			

全担当教員	城島 哲子		
概要	地域住民の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と配分を促進する公衆衛生看護管理の活動方法が理解できる。		
目標	1. 健康危機管理の理念と目的、制度とシステム、健康課題、展開方法が理解できる 2. 災害保健活動の法整備の歴史、ステージ別の活動内容、災害の種類に応じた課題が理解できる 3. 公衆衛生看護管理の意義と活動方法が理解できる		
評価方法	評価方法：出席日数で受験資格を判定し、定期試験（50％）と「事業計画・予算案レポート」（50％）により評価する。 評価基準：定期試験では、講義内容に関する理解度を測る。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2022年4月11日（月） 遠隔 健康危機管理 1 定義 主なる事例紹介	講義	城島
	第2回 2022年4月18日（月） 対面 健康危機管理 2 保健所と保健師の役割 「地域健康危機管理ガイドライン」	講義	城島
	第3回 2022年4月25日（月） 遠隔 健康危機管理 3 森永ヒ素ミルク中毒事件とは	講義	城島
	第4回 2022年5月2日（月） 遠隔 健康危機管理 4 放射線災害 三春町の事例	講義	城島
	第5回 2022年5月9日（月） 遠隔 災害保健活動 1 災害ステージ分類 新潟中越沖地震 外部支援者の受け入れ	講義	城島
	第6回 2022年5月16日（月） 遠隔 災害保健活動 2 阪神淡路大震災 DMATの必要性	講義	城島
	第7回 2022年5月23日（月） 対面 災害保健活動 3 東日本大震災から学ぶ 津波被害への対応	講義	城島
	第8回 2022年6月27日（月） 対面 災害保健活動 4 熊本直下型地震から学ぶ DHEAT「災害時健康危機管理支援チーム」	講義	城島
	第9回 2022年7月4日（月） 遠隔 災害保健活動 5 リスクコミュニケーション ショーン 住民と共に学ぶ「クロスロードゲーム」	演習	城島
	第10回 2022年7月11日（月） 対面 公衆衛生看護管理 1 公衆衛生看護管理の8機能 保健医療福祉計画の策定	講義	城島
	第11回 日程未確定 公衆衛生看護管理 2 人材育成と人事管理 キャリアラダー 統括的役割の保健師	講義	城島
	第12回 日程未確定 公衆衛生看護管理 3 自治体予算の仕組み 保健師が行う事業計画立案・予算案策定	講義	城島
	第13回 日程未確定 公衆衛生看護管理 4 実習市町村の重点事業対策「事業計画と予算案の策定」	演習	城島
	第14回 日程未確定 公衆衛生看護管理 5 実習市町村の重点事業対策「事業計画と予算案の策定」	演習	城島

	第15回 公衆衛生看護管理 5 報告会	日程未確定	演習	城島
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理をしておく。			
テキスト	1. 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 (第5版) 医学書院 2. 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 (第4版) 医学書院			
参考書	1 最新地域看護学 各論2 「地域看護管理活動論」 日本看護協会出版会 2 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術 医歯薬出版株式会社			
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護管理は、行政保健師にとっては新人期から必要とされる知識、技術といわれています。授業と演習で学んだ知識を活かして、公衆衛生看護学実習Ⅰ「へき地における災害保健活動」で実践を学びます。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			
全担当教員			
坂東 春美／堀内 沙央里／城島 哲子			
概要	地域で生活する個人・家族とそれらが所属する・集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を行い、地域全体の健康増進と疾病予防を目指す県・事業所で働く保健師による公衆衛生看護活動と、学校保健における養護教諭の活動を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 管轄するポピュレーション（集団）の健康課題を明らかにする方法が理解できる 2 個人・家族・集団・地域の健康問題を解決する方法を記述できる 3 個人・家族・集団・の健康問題に対する支援に参加できる 4 既存の事業・参加した支援の効果を評価し、改善策を考察できる 		
評価方法	<p>評価方法：実習前の事前レポート（15%） 実習の参加度と理解度（85%）</p> <p>評価基準：事前レポートは各テーマに対する思考が記述されているか 実習は参加態度と実習目標の内容に関する理解度を測る</p>		
授業計画	<p>公衆衛生看護学実習 I（2単位）は、保健所、へき地、産業、学校保健の分野で行います。</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健所実習： <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、相談業務、管轄市町村の広域的地域診断 ・特定集団に対する支援（医療的ケア児、がん患者、難病、結核、感染症など） ・奈良県保健研究センター 見学実習 ・奈良県精神保健福祉センター 見学実習 ・奈良県公衆衛生学会 見学実習 2 へき地実習：1日～2日 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県郡部の自然災害被災地域で、災害各期の対応、復興の経過、防災計画を学ぶ 3 産業実習：2日 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所がおこなう産業保健活動を学ぶ ・産業医・衛生管理者・保健師が行う業務に学ぶ 4 学校実習：2日 <ul style="list-style-type: none"> ・学校がおこなう児童の健康管理と養護教諭の職務を学ぶ 		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：各回の実習内容にそって、指定テキストの指定箇所やこれまでの講義で得た資料等を確認し、自ら概要を把握しておく。</p> <p>事後学修：各回の実習内容から自己の記録と指導者や教員から得た助言等をもとに内容をまとめ、整理しておく。</p>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 2 標準保健師講座② 地域看護技術 3 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 	<ol style="list-style-type: none"> 1 医学書院 2 医学書院 3 医学書院 	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 国民衛生の動向 厚生統計協会 2 公衆衛生が見える MEDIC MEDIA 3 公衆衛生看護学. J P 第4版 データ更新版 インターメディカル 		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習 I では、保健所、へき地、産業、学校の公衆衛生看護活動に参加します。へき地実習では宿泊する可能性があります。学校実習は出身校に自分で実習の交渉をおこないます。主体的な態度で実習に取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	3	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			
全担当教員			
坂東 春美／堀内 沙央里／城島 哲子			
概要	地域で生活する個人・家族とそれらが所属する集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を行い、地域全体の健康増進と疾病予防を目指す市町村保健師による公衆衛生看護活動を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民の生活実態と健康状態をアセスメントできる 2 個人・家族・集団・地域の健康問題を解決するための方法を記述できる 3 個人・家族・集団の健康問題に対する支援を実施できる 4 既存の事業、実施した支援の効果を評価し、改善策を考察できる 		
評価方法	<p>評価方法：家庭訪問の準備と実施（20%） 健康教育の準備と実施（30%） 地域診断の情報収集とアセスメント（20%） 各事業参加態度と保健計画の理解等（30%）</p> <p>評価基準：家庭訪問・健康教育・地域診断は事前準備と実施（アセスメント）が行えるか 実習記録は参加態度と実習目標の内容に関する理解度を測る</p>		
授業計画	<p>公衆衛生看護学実習Ⅱ（3単位）は市町村で行います。保健センター・役場と、地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター、保育所・幼稚園、小・中学校、高齢者福祉センターなど、住民の健康を支援する市町村機関や、関係機関で実習します。</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健センター・健康増進課等で行う業務 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、相談、健診・検診、健康教育、地域診断 ・グループ支援・組織育成・関係機関との協働、健康危機管理（災害対応・虐待対応など） 2 地域包括支援センター等で行う業務 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険に関する業務、介護予防事業、高齢者虐待・高齢者の権利擁護に関すること など 3 保険課等で行う業務 <ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険に関する業務、国保データヘルス計画策定・評価に関すること ・特定健康診査に関連するヘルスアップ事業、個別指導など 4 子育て世代包括支援センターで行う事業 <ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦と乳幼児の支援 ・安心して妊娠・出産・子育てができる「地域づくり」のための連絡調整・連携、協働、資源開発 		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：各回の実習内容にそって、指定テキストの指定箇所やこれまでの講義で得た資料等を確認し、自ら概要を把握しておく。</p> <p>事後学修：各回の実習内容から自己の記録と指導者や教員から得た助言等をもとに内容をまとめ、整理しておく。</p>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1 標準保健師講座① 2 標準保健師講座② 3 標準保健師講座③ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生看護学概論 2 地域看護技術 3 対象別公衆衛生看護活動 	<ol style="list-style-type: none"> 1 医学書院 2 医学書院 3 医学書院
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 国民衛生の動向 厚生統計協会 2 公衆衛生が見える MEDIC MEDIA 3 公衆衛生看護学. J P 第4版 データ更新版 インターメディカル 		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習Ⅱでは公衆衛生看護学展開論で学習した地域診断をもとに、地区特性を踏まえた公衆衛生看護活動について学習します。家庭訪問、個別面接、健康教育を実践するとともに、実習で得た情報を加えて地域診断レポートを完成させます。全力で取り組んでください。		

No	科目名	授業方法	単位	実務経験 内容 (職種)	担当教員名
1	保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1	その他	村上真
2	保健医療福祉行政論Ⅱ	講義・演習	2	その他	村上真
3	疫学	講義・演習	2	医師	佐伯圭吾、大林賢史、山上優紀
4	保健統計学Ⅰ	講義	1	診療放射線技師	周藤俊治
5	保健統計学Ⅱ	講義・演習	1	診療放射線技師	周藤俊治
6	病態医学Ⅰ	講義	2	医師	藤井智美、森田剛平、内山智子、西川武、武田麻衣子、畠山金大、松岡未奈巳、佐々木翔、杉本澄美玲
7	病態医学Ⅱ	講義	4	医師	濱田薫、庄雅之、河村健二、池田直也、学内眼科専門医 1名、学内耳鼻咽喉科専門医 1名、学内整形外科専門医 1名
8	病態医学Ⅲ	講義	4	医師	太田豊作、福島英賢、川井康之、前川尚宜、瓜園泰之、山崎正晴、内田優美子、大前隆志、荻原建一、長谷川真理、大西智子、鮫島謙一、田中晴之、阿部龍一、木村麻衣、長安実加、伊藤高広、西尾福英之、森澤洋介、清水卓斗
9	看護学概論	講義・演習	1	看護師	松田明子
10	看護倫理学	講義・演習	1	看護師 その他	松田明子、安藤泰至、伊藤雪絵 大河内大博
11	看護援助の基本	講義・演習	1	看護師	松田明子、徳谷純子、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
12	看護技術学Ⅰ	講義・演習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
13	看護技術学Ⅱ	演習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
14	フィジカルアセスメント	講義・演習	1	看護師	松田明子、三好雅之、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
15	健康障害と看護	講義・演習	1	看護師	松田明子
16	ヘルスアセスメント	講義	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
17	看護過程論	講義・演習	2	看護師	松田明子、吉川あゆみ、白田梨奈
18	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
19	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2	看護師	松田明子、浅野沙奈絵、吉川あゆみ、白田梨奈
20	成人看護学概論	講義	2	看護師	石澤美保子、田中登美
21	成人看護学援助論Ⅰ（急性）	講義	1	看護師	松田常美、石澤美保子、森脇裕美、堀井えりな
22	成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	講義・演習	1	看護師	石橋千夏、升田茂章
23	成人看護学援助論Ⅲ（急性）	講義・演習	1	看護師	松田常美、石澤美保子、森脇裕美、堀井えりな
24	成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	講義・演習	1	看護師	升田茂章、石橋千夏、田中登美
25	成人看護学実習Ⅰ（急性）	実習	3	看護師	松田常美、石澤美保子、森脇裕美、堀井えりな
26	成人看護学実習Ⅱ（慢性）	実習	3	看護師	石橋千夏、升田茂章、田中登美
27	老年看護学概論	講義	2	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
28	老年看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
29	老年看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
30	老年看護学実習	実習	4	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
31	小児看護学概論	講義	2	看護師	川上あずさ
32	小児看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	小代仁美
33	小児看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	山田晃子、川上あずさ
34	小児看護学実習	実習	2	看護師	山田晃子、小代仁美、川上あずさ
35	母性看護学概論	講義	2	助産師	五十嵐穂子
36	母性看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理、森井友衣
37	母性看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理、森井友衣
38	母性看護学実習	実習	2	助産師	森兼眞理、岡山真理、乾つぶら、五十嵐穂子、森井友衣
39	精神看護学概論	講義	2	看護師	奥田淳
40	精神看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	橋本顕子
41	精神看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	奥田淳
42	精神看護学実習	実習	2	看護師	奥田淳、橋本顕子
43	公衆衛生看護学概論	講義	2	保健師	城島哲子
44	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	講義	2	保健師 その他	城島哲子、堀内沙央里 日高庸晴、柳生貴裕
45	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	講義	2	保健師	坂東春美
46	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	講義・演習	1	保健師	城島哲子
47	公衆衛生看護学活動展開論	講義・演習	2	保健師	坂東春美、城島哲子、堀内沙央里
48	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	講義・演習	2	保健師 医師 管理栄養士	坂東春美 中川仁、中谷敬昭、 熊本登司子、野原潤子
49	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	講義・演習	1	保健師	坂東春美、堀内沙央里
50	産業保健活動論	講義・演習	1	保健師	河田志帆
51	学校保健活動論	講義	1	養護教諭	古川恵美
52	公衆衛生看護学管理論	講義・演習	2	保健師	城島哲子
53	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	2	保健師	坂東春美、堀内沙央里、城島哲子
54	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	3	保健師	坂東春美、堀内沙央里、城島哲子
55	緩和ケア論	講義・演習	1	看護師	田中登美
56	看護管理論	講義・グループワーク	1	看護師	川上あずさ、撫養真紀子、橋口智子
57	リハビリテーション看護	講義・演習	1	看護師	石澤美保子、松田常美、森脇裕美、堀井えりな
58	家族看護学	講義・演習	2	看護師 その他	川上あずさ 粕井みづほ
59	在宅看護学概論	講義・グループワーク	2	看護師 医師	小竹久美子、栗田麻美 武田以知郎
60	在宅看護学援助論	講義・演習	2	看護師	栗田麻美、小竹久美子、西森旬恵、羽場香織
61	在宅看護学実習	実習	2	看護師	小竹久美子、栗田麻美、西森旬恵、羽場香織
62	看護研究特論	講義・演習	1	看護師	看護学科教員
63	看護研究	実習	2	看護師	看護学科教員
64	ヘルスプロモーションと健康教育	講義・演習	2	保健師	城島哲子、堀内沙央里
65	統合実習	実習	2	看護師	看護学科教員
66	災害看護論	講義・演習	1	看護師	西上あゆみ
67	チーム医療論	講義・演習	1	医師	太田豊作
68	医療安全	講義・演習	1	看護師	松田明子、飛田伊都子、霧下由美子、徳谷純子
69	国際看護論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、堀内沙央里、森兼眞理、ヨノ、高木、森
70	国際看護論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、渋谷洋子
	計		104		

看護学科 教員名簿

(看護学科専任教員)

(令和4年4月1日付)

領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号	領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号
人間発達学	教授	太田 豊作	505	小児看護学	教授	川上 あずさ	502
					講師	小代 仁美	408
臨床病態医学	教授	濱田 薫	404		講師	山田 晃子	406
基礎看護学	教授	松田 明子	403	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	401
	助教	浅野 沙奈絵	第 1 共同研究室		講師	乾 つぶら	514
	助教	吉川 あゆみ	510		講師	森兼 眞理	407
	助教	白田 梨奈	第 1 共同研究室		講師	上田 佳世	513
成人急性期看護学	教授	石澤 美保子	503	助教	岡山 眞理	第 1 共同研究室	409
	准教授	松田 常美	511	助教	山崎 愛		409
	助教	森脇 裕美	第 1 共同研究室	精神看護学	講師	橋本 颯子	407
	助教	堀井 えりな	409		講師	奥田 淳	508
成人慢性期看護学	教授	田中 登美	501	在宅看護学	教授	小竹 久実子	402
	准教授	升田 茂章	507		講師	栗田 麻美	513
	講師	石橋 千夏	514		助教	西森 旬恵	510
			助教		羽場 香織	第 1 共同研究室	
老年看護学	教授	澤見 一枝	504	公衆衛生看護学	教授		城島 哲子
	講師	木村 満夫	512		准教授	坂東 春美	509
	助教	古角 美保子	510		講師	堀内 沙央里	408

(教養教育部門専任教員／看護学科兼任教員)

(令和4年4月1日付)

氏名	授業科目名	所 属 等	教室
池邊 寧	哲学 医療に関わる倫理学Ⅰ・Ⅱ 西洋文化論	教養教育部門哲学准教授	教養2階哲学教室
フランチェスコ・ボルスタッド	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語教授	教養2階英語教室
ポール・マシソン	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語准教授	教養3階英語教室
マイケル・プロジェクト	英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語講師	教養3階英語教室
裏山 悟司	生物学	教養教育部門生物学助教	教養3階生物学教室
山本 恵三	化学	教養教育部門化学准教授	教養2階化学教室
石指 宏通	健康科学 健康運動学	教養教育部門保健体育教育教授	体育館
若月 幸平	アジア文化論	教育開発センター教育教授	教育開発センター
矢野 寿一	微生物学	医学科微生物感染症学教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 竜一	微生物学	医学科微生物感染症学准教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 章代	微生物学	医学科微生物感染症学助教	基礎4階微生物感染症学教室
鈴木 由希	微生物学	医学科微生物感染症学助教	基礎4階微生物感染症学教室
今村 知明	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学教授	基礎4階公衆衛生学教室
野田 龍也	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学准教授	基礎4階公衆衛生学教室
西岡 祐一	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学助教	基礎4階公衆衛生学教室
周藤 俊治	保健統計学Ⅰ・Ⅱ	地域医療学講座准教授	地域医療学講座
和中 明生	人体構造学	医学科第二解剖学教授	基礎1階第二解剖学教室
辰巳 晃子	人体構造学	医学科第二解剖学准教授	基礎1階第二解剖学教室
田中 達英	人体構造学	医学科第二解剖学講師	基礎1階第二解剖学教室
齋藤 康彦	人体機能学	医学科第一生理学教授	基礎3階第一生理学教室
堀江 恭二	人体機能学	医学科第二生理学教授	基礎3階第二生理学教室
坂野 公彦	人体機能学	医学科第二生理学講師	基礎3階第二生理学教室
吉田 純子	人体機能学	医学科第二生理学助教	基礎3階第二生理学教室
高澤 伸	生化学	医学科生化学教授	基礎2階生化学教室
山内 晶世	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
牧野 舞	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
藤井 智美	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学准教授	病理診断科医局
森田 剛平	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
内山 智子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
西川 武	病態医学Ⅰ	病院病理部副技師長	病院病理部技局
武田 麻衣子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
島山 金太	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学医員	病理診断科医局
松岡 未奈巳	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学診療助教	病理診断科医局
佐々木 翔	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学診療助教	病理診断科医局
杉本 澄美玲	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学診療助教	病理診断科医局
庄 雅之	病態医学Ⅱ	医学科消化器・総合外科学教授	消化器総合外科学
河村 健二	病態医学Ⅱ	玉井進記念四肢外傷センター准教授	整形外科医局
池田 直也	病態医学Ⅱ	乳腺センター准教授	消化器総合外科学
吉栖 正典	基礎薬理学	医学科薬理学教授	基礎3階薬理学教室
中平 毅一	臨床薬理学	医学科薬理学准教授	基礎3階薬理学教室
京谷 陽司	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
趙 晶	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
田中 晴之	病態医学Ⅲ	医学科呼吸器内科学助教	呼吸器内科医局
福島 英賢	病態医学Ⅲ	医学科救急医学教授	救急科医局
前川 尚宜	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
瓜園 泰之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
川井 廉之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学助教	救急科医局
内田 優美子	病態医学Ⅲ	総合周産期母子医療センター講師	小児科医局
大前 隆志	病態医学Ⅲ	地域医療学講座特任助教	地域医療学講座
長谷川 真理	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
荻原 建一	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
大西 智子	病態医学Ⅲ	医学科小児科学診療助教	小児科医局
阿部 龍一	病態医学Ⅲ	中央手術部助教	中央手術部医局
田中 利洋	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学教授	放射線科医局
伊藤 高広	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学講師	放射線科医局
山崎 正晴	病態医学Ⅲ	中央臨床検査部病院教授	中央臨床検査部技局
長安 実加	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学助教	産婦人科医局
三宅 龍太	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学医員	産婦人科医局
中井 靖	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科学内講師	泌尿器科医局
後藤 大輔	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科助教	泌尿器科医局
鮫島 謙一	病態医学Ⅲ	医学科腎臓内科学講師	腎臓内科学医局
佐伯 圭吾	疫学	医学科疫学・予防医学教授	基礎4階疫学・予防医学教室
大林 賢史	疫学	医学科疫学・予防医学特任准教授	基礎4階疫学・予防医学教室
山上 優紀	疫学	医学科疫学・予防医学助教	基礎4階疫学・予防医学教室
中川 仁	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	医学科循環器内科学助教	循環器内科学医局

(教養教育部門非常勤講師／看護学科非常勤講師)

(令和4年4月1日付)

氏名	授業科目名	所属等
近池 操	臨床心理学	奈良県病院協会看護専門学校 非常勤講師
山本 典子	臨床心理学	大阪大学 非常勤講師
宿谷 仁美	臨床心理学	関西福祉科学大学 講師
池上 徹	教育実践論	関西福祉科学大学 教授
板橋 孝幸	教育実践論	奈良教育大学 教授
谷 直之	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
倉持 史郎	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
エルリッヒ・スウェン・マーティン	異文化論	甲南大学国際言語文化センター、京都府立大学、関西学院大学、神戸女学院大学、立命館大学 非常勤講師
スフィアン・エルファンディ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
リマ・ガシュット	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
メリッサ・ハミルトン	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
クレア・ムレイ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
北澤 良子	英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ	
浅井 良純	アジア文化論	同志社大学 嘱託講師
富岡 三智	アジア文化論	立命館大学、京都産業大学、甲南女子大学 非常勤講師
水野 杏紀	アジア文化論	関西医療大学 非常勤講師
勝井 伸子	西洋文化論	森ノ宮医療大学 非常勤講師
折井 穂積	西洋文化論	
中川 晶	カウンセリング論	なかがわ中之島クリニック 院長
田中 佐和子	カウンセリング論	奈良学園大学 非常勤講師
村上 真	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ	京都国際社会福祉センター 非常勤講師
河野 秀壽命	日本国憲法	
堀 あきこ	家族社会学	大阪電気通信大学 非常勤講師
古屋 哲	国際情勢論	立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
神奈川 芳行	公衆衛生概論	東日本旅客鉄道株式会社 東日本健康推進センター 医長
清水 多嘉子	公衆衛生概論	がん研有明病院 看護部長
久保 慎一郎	公衆衛生概論	厚生労働省
浅野 弘明	情報科学	京都府立医科大学 特任教授
小島 ゆかり	栄養学	近畿大学 非常勤講師
安藤 泰至	看護倫理学	鳥取大学 准教授
伊藤 雪絵	看護倫理学	奈良県立医科大学附属病院 臨床研究センター
大河内 大博	看護倫理学	願生寺
山本 美輪	看護倫理学	香川大学 教授
徳谷 純子	看護援助の基本 医療安全	奈良県立医科大学附属病院 感染管理室
三好 雅之	フィジカルアセスメント	鳥取大学 特命助教
石原 興子	精神看護学援助論Ⅰ チーム医療論	相愛大学 准教授
日高 庸晴	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	宝塚大学 教授
野原 潤子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	畿央大学 講師
熊本 登司子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	畿央大学 准教授
中谷 敏昭	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	天理大学 教授
河田 志帆	産業保健活動論	京都先端科学大学 講師
古川 恵美	学校保健活動論	兵庫県立大学 教授
朽木 悦子	公衆衛生看護管理論	社会医療法人景岳会
撫養 真紀子	看護管理論	兵庫県立大学 教授
橋口 智子	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院看護部長
粕井 みづほ	家族看護学	畿央大学 客員教授
武田 以知郎	在宅看護学概論	明日香村国民健康保険診療所
西上 あゆみ	災害看護論	藍野大学 教授
飛田 伊都子	医療安全	滋慶医療科学大学院大学 教授
霧下 由美子	医療安全	奈良県立医科大学附属病院 医療安全推進室
新垣 智子	国際看護論Ⅰ	りんくう総合医療センター
馬場 雄司	国際看護論Ⅰ	京都文教大学 教授

